

平成26年度文部科学省採択

「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」

しまなみの生活と文化を守り育てる
人づくり・つながりづくり

平成29・30年度 活動報告書



今治明德短期大学

目 次

目次	1
1. 学長あいさつ	2
2. 市長あいさつ	3
3. 事業概要	5
3-1 地(知)の拠点整備事業概要	6
3-2 本学の取り組み	6
3-3 事業組織図	7
3-4 今治市一明徳短期大学の連携図	8
4. 活動報告	9
4-1 地域交流実践演習	
4-1-1 平成29・30年度 地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ	10
4-2 ふれあいの場共同学びの場事業	
4-2-1 ふれあいの場(地域の子育て広場)活動	37
4-2-2 児童・障がい者・高齢者共同学びの場活動	42
4-3 福祉と障がいについての教育及び地域文化集積と伝承教育事業	
4-3-1 『お接待』の「ボランティア養成講座」開催	45
4-3-2 島しょ部への地域開発	47
4-4 調理・製菓技能教育及び特産品開発支援と講習事業	
4-4-1 「特産品開発講習会」活動	50
4-4-2 「家族の料理、菓子教室」活動	52
4-5 食育及び健康栄養教育事業	
4-5-1 「子どもを対象とした食育講座」開催	55
4-5-2 「中高年対象の栄養・健康講座」開催	57
4-6 ライフデザイン学科 国際観光ビジネスコース	60
4-7 大学公開講座	61
4-8 シンポジウム	
4-8-1 シンポジウム	63
4-8-2 地(知)の拠点整備事業(COC事業)シンポジウム	64
5. 今治市連携協議会	67
5-1 今治市 今治明徳短期大学 連携協議会	68
6. 第三者評価委員会	73
6-1 第三者評価委員会	74
7. 参考資料	75

学長あいさつ



本事業（COC）に採択されたのは平成26年度です。30年度末をもって、5年間の事業を終え、一区切りをつけることになりました。事業の目的は大きく2つあり、ひとつは地域に貢献できる人材の育成、ふたつに地域をフィールドにした教育・研究とその知的集積の地域への還元です。

本学では、すでに事業採択の前から、長年に亘って、地域をフィールドにした保育、福祉、栄養、食に関する教育・研究に取り組んでおります。また養成校として地域志向の

専門職業人の養成に関わっていたこともあり、奇をてらった事業というのではなく、これまでの本学の養成教育・研究活動を基盤に、それらを一層充実させるという方向で事業展開を図りました。そうした出発時の経緯もあって、事業の推進は無理なくスムーズになされたと思っております。

年度末をもって事業は終了しますが、事業の精神・理念は普遍であり、継承しなければなりません。それをより効率的に具現化するためには、事業活動の見直しと精選が不可欠であります。コストを視野に入れつつ、継続可能な実効性のある事業活動への転換を図ります。

なかでも、重視したいのは、地域志向科目の充実であります。4事業10活動+地域交流実践演習を、各学科・コースにおける地域志向科目としてカリキュラム化し、恒常的な学修活動として位置づけ、定着させたいと考えております。現在、地域志向科目として12科目ほど設けておりますが、それぞれ学科・コースの専門性をベースに、地域を志向した教育・研究を推進しております。そこでの知的集積を多様な方法で積極的に地域に還元していく、そうした学修のプロセスの整備を進めたいと思っております。

本事業によって、本学と地域との紐帯がより強まりました。本学が今治市、また地域の人々に支えられ、地域を土台に成り立っている、地域あつての本学である、ということも改めて実感しました。これからも、5年間の本事業での経験と成果をバネにして、さらに地域貢献性の高い短期大学を目指していきます。

学内外の皆様、本学の教育・研究活動に対しまして、これからもご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今治明德短期大学

学長 野 口 学

市長あいさつ



菅 良二

急速に進む人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある社会を築いていくため、国・地方を挙げた「地方創生」の取組みが進められており、現在、今治市におきましても最重要課題として位置づけ、積極的に各種事業展開を図っております。

地方創生において中心となるのは「ひと」であり、未来を担う「ひと」を養成する主役である大学や短期大学をはじめとする高等教育機関の役割に期待を大きく寄せているところであります。

今治明德短期大学は、福祉・栄養・調理・料理・保育・教育などの分野において数多くの優秀な専門職業人を地域社会に輩出し続けており、人間的教養の涵養にも力を注がれ、実習や体験学習など地域に出向いての活動が盛んに行われておりますことから、市民から親しみのある今治地域の高等教育機関として高く評価されております。

平成26年度に文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」の採択を受け、今治市と連携を図り、地域志向を深める地域交流実践演習及び「子育て支援」、「介護福祉」、「製菓・調理」、「食物栄養」の4事業10活動を通じて、地域が求める人材の育成と地域課題の解決に大きく寄与していただいておりますことに深く感謝申し上げます。

今治明德短期大学におかれましては、5か年のCOC事業で培った経験やノウハウをいかし、引き続き、「地域に根ざし地域に貢献する人材の育成輩出」と「知の共有と社会還元」を目指した取組みに期待するとともに、人やまちが輝き、誰もが豊かさや生きがいを実感できる今治市の実現に必要なパートナーとして大きく発展されることを願っております。

3 事業概要



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

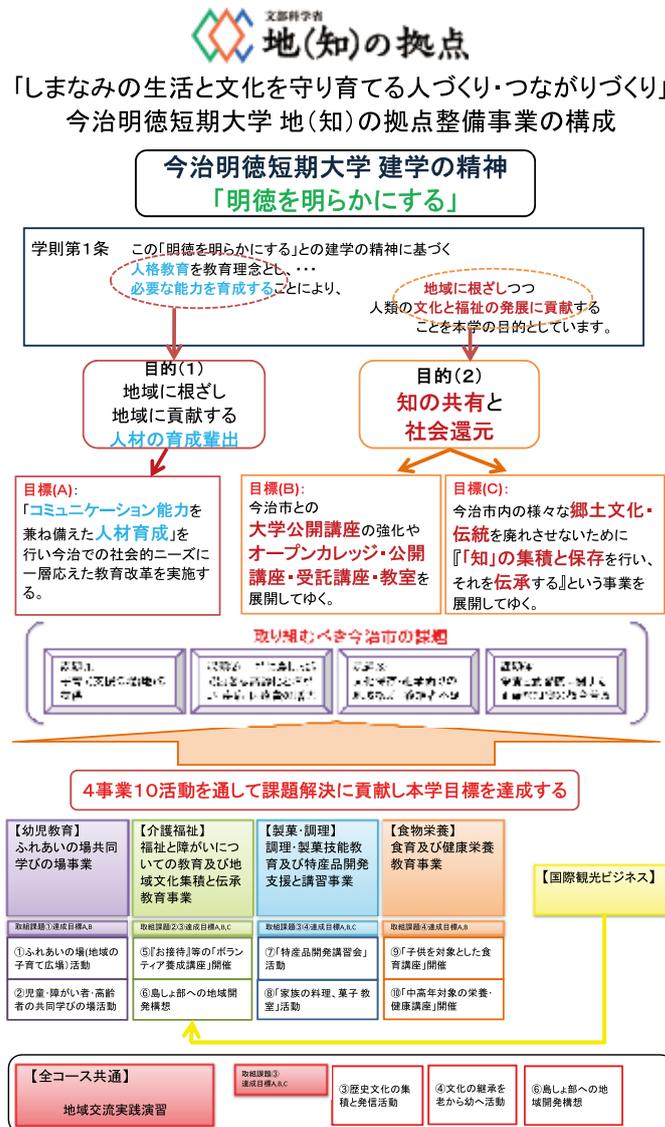
3-1 地(知)の拠点整備事業概要

地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)は、自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援すること、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ること、を目的としています。

3-2 本学の取り組み

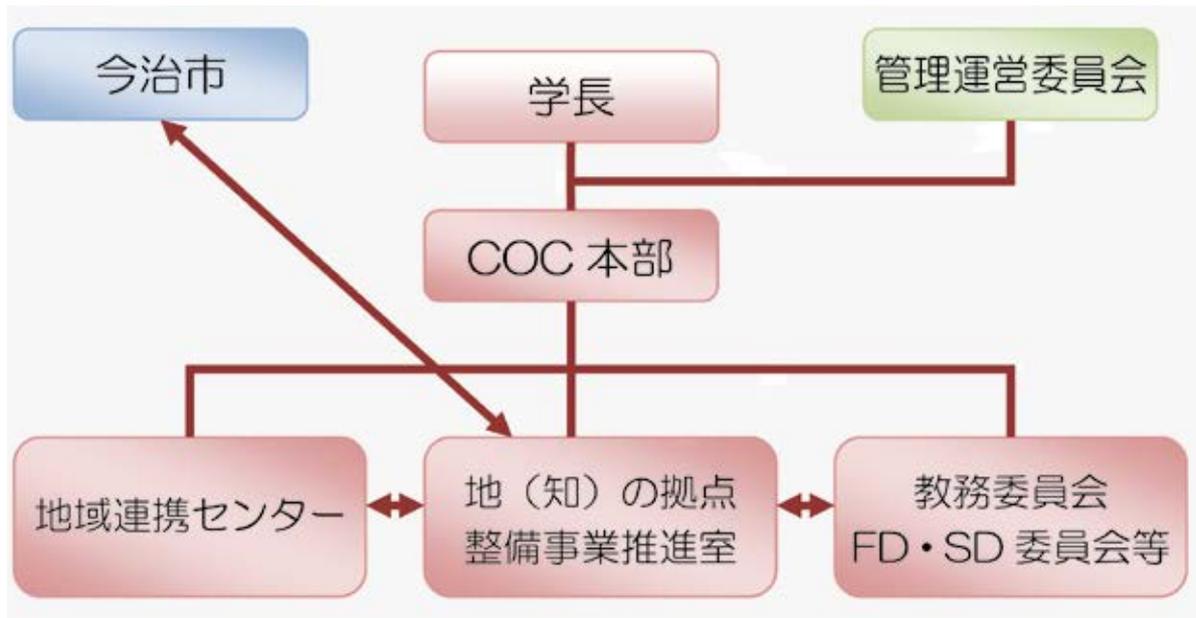
本学が今治市と連携し、建学の精神に基づき地域に根ざす大学として(1)人材の育成と(2)知の共有と社会還元という二つの目的を、3つの目標(A)コミュニケーション能力を備えた人材育成、(B)大学公開講座の強化『オープンカレッジ・公開講座・受託講座』の展開、(C)様々な郷土文化、伝統についての「知」の集積と保存、を達成することにより実現する。3つの目標は、地域交流実践演習及び4事業10活動を学科・コースの枠を超え、また今治市との連携のもと行うことにより達成していく。

事業構成図



3-3 事業組織図

今治明德短期大学 地（知）の拠点整備事業「しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり」は、学長のリーダーシップのもと、今治市や関係機関と連携して活動していきます。直接の活動拠点となるCOC本部は、事業の検討・方針決定の場となり、推進室は事業・活動の調整の場となります。



関係機関

今治商工会議所 今治市社会福祉協議会
 今治NPOサポートセンター NPOアクションアイランド 越智今治農業協同組合

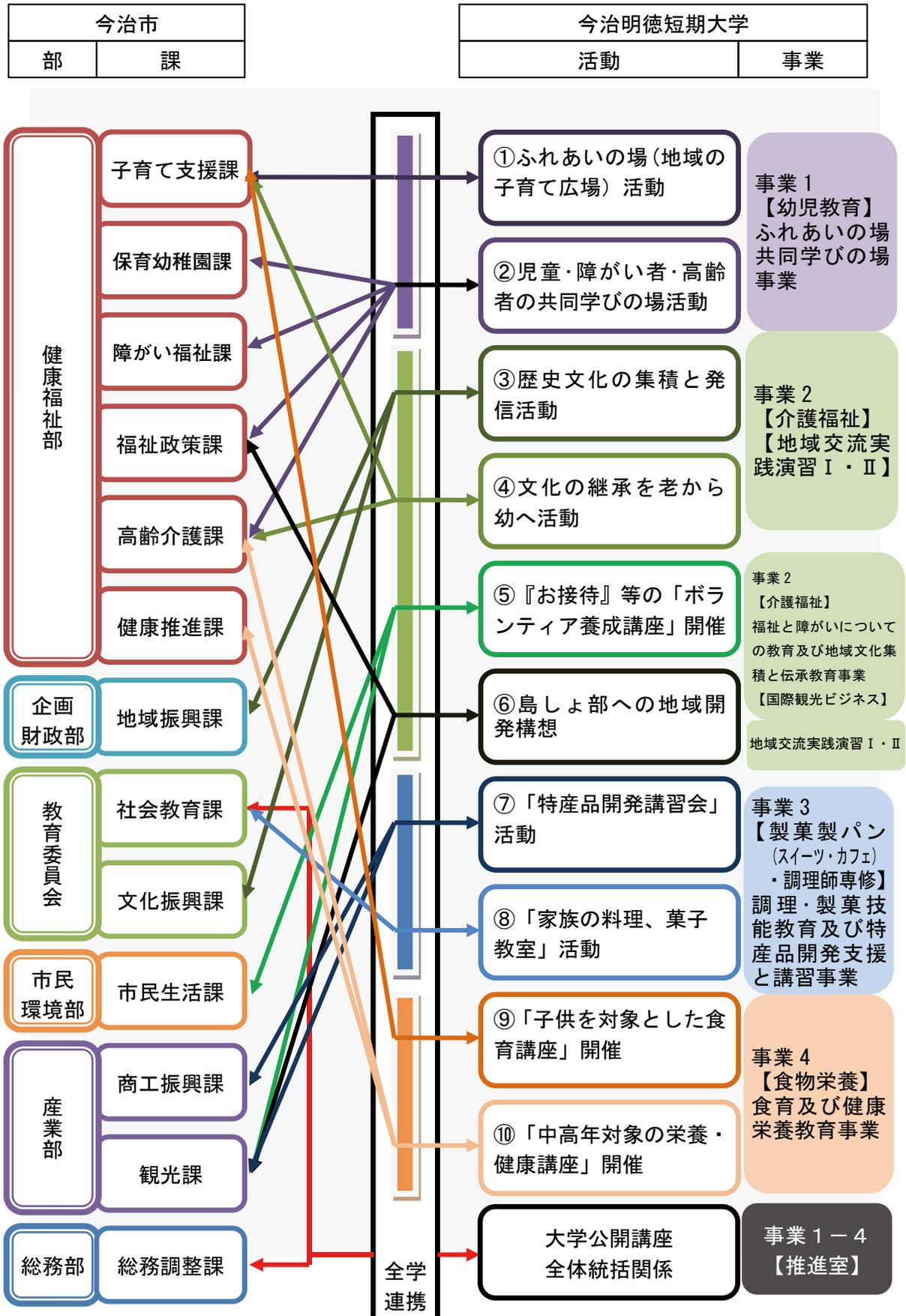
COC本部

目的：事業の検討・方針等を決定する。
 構成員：学長・地（知）の拠点整備事業推進室室長及び副室長
 COC コーディネーター、事務部長、その他学長が必要と認めた者

COC 推進室

目的：地（知）の拠点整備事業の具体的な活動を計画し、調整する。
 構成員：学科長、各学科コース及び専修科の専任教員、事務部長
 その他事務職員、地（知）の拠点整備事業のために雇用された専任教職員・
 COC コーディネーター

3-4 今治市—明德短期大学の連携図



4 活動報告



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

4-1-1 平成29・30年度 地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ

目 的		
地域やそこに生きる人々との交流を通して、地域における取り組むべき課題に気づき、自らその解決に向けて考え、実践態度を培う。		
地域交流実践演習終了時の達成目標	テーマ	
1 地域の人々との交流を通して、地域に関心を持つことができる	中心市街地活性化	文化の継承 (おへんろ)
2 地域の人々との交流を通して、地域の良さをあげることができる	文化の継承 (玉川)	文化の継承 (料理)
3 グループワークや地域の人々との交流を通して、積極的にコミュニケーションをとることができる	観光 (島とサイクリング)	
4 主体性をもって実践的に地域と関わることができる	連携自治体・関係団体等	学科・コース
5 実践を通して、地域における課題を自ら考えることができる		
6 実践を通して学んだことを適切な方法で発信することができる		
月 日	時 間	内 容
平成29年 4月13日(木)	14:30~15:20	オリエンテーション (学長挨拶、授業概要、スケジュールの説明) 地域交流実践演習の活動について ~今年の活動報告~
<p>「地域交流実践演習Ⅰ」は、29年度入学生全員が5つのテーマで各学科コースの枠を超えたグループを編成し、ゲスト講師による講義やグループワーク、地域での実践活動を中心に取り組んでいきます。2年生による5つのテーマの活動報告は、自分たちがテーマを選択するための指針となった。</p>		
月 日	時 間	内 容
平成30年 4月12日(木)	14:30~15:20	オリエンテーション (学長挨拶、授業概要、スケジュールの説明) 地域交流実践演習の活動について ~今年の活動報告~
<p>「地域交流実践演習Ⅰ」は、30年度入学生全員が5つのテーマで各学科コースの枠を超えたグループを編成し、ゲスト講師による講義やグループワーク、地域での実践活動を中心に取り組んでいきます。2年生による5つのテーマの活動報告は、自分たちがテーマを選択するための指針となった。</p>		

平成29年度 地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ テーマ選択

テーマ				
中心市街地活性化	文化の継承 (おへんろ)	文化の継承 (玉川)	文化の継承 (料理)	観光(島とサイクリング)
平成29年度テーマ選択				
文化の継承 (おへんろ)	4月13日(木) 15:30~17:40	「四国へんろ道文化について」 講師：四国へんろ道文化世界遺産化の会世話人 阿部芳司先生 遍路の歴史、目的、巡拝の交通手段など遍路の現状についてお話をしていただいた。四国八十八カ所を1回の巡礼でまわる通し遍路が減少し、区切り遍路が増加している。遍路の巡拝は、日本人のみならず、外国の方々の巡拝者が増加している。		
中心市街地活性化	4月27日(木) 14:30~15:30	「今治市中心市街地の活性化」 講師：今治市商工振興課 市街地活性化推進係長 渡部泰生先生 しまなみ海道の開通により、島と島を結んでいた航路がなくなり、自家用車やバスを利用して来る島民が多く、次第に商店街の人の流れも減少した。大型店舗も商店街からの郊外店へと移動していった。中心市街地を活性化するために、今治市では①暮らしたい町がある。②人が来る楽しめる街。③人が生きる頼れる町を目標に、まちなか促進事業に取り組んでいる。		
文化の継承 (料理)	4月27日(木) 15:30~16:30	食で楽しむ「ハレとケ」について 講師：野菜シニアソムリエ/食育マスター 年森恭子先生 「ハレ」祭礼や年中行事を行う日(非日常)めでたい時に食べるもの、「ケ」普段どおりの日(日常)、「行事食」1月おせち、3月ちらしずし、5月かしわ餅等昔は、地域で採れるものだけ(地域限定)、「地産地消」、その時期に採れるものだけ(期間限定)、「旬産旬消」など地域限定・期間限定で消費していた。 今は、物流や冷蔵技術によって地域、季節の差がなくなってきた。地域の良さ(個性)を見直し、再発見しよう。		
文化の継承 (玉川)	5月11日(木) 14:30~15:30	「ふれあい茶屋&鈍川地域土地農村共生対流協議会」 講師：今治市社会福祉協議会 地域福祉課 生活支援コーディネーター 木村玲奈先生 玉川地区における生活・福祉課題など玉川町の現状についての講話をして頂いた。玉川地区は、65歳以上の高齢化率が平成29年3月現在、38.25%である。地域を活性化するために、ワラシシ、グルメマラソンなどのイベントを企画して、玉川の社会資源を知ってもらえるようにしている。サロン活動から発展したふれあい茶屋は、地域の暮らしに密着した商品を取りそろえており、地域住民の交流の場となっている。		
観光(島とサイクリング)	5月11日(木) 15:30~16:30	「伯方島について」講師：宮司 馬越晴通先生 伯方島の産業や観光スポットについて講話をして頂いた。伯方島は、船・船舶で発展した町で、愛媛県で最後に残った塩田があったが、現在、塩田は廃止されている。地域の要望により、流化式塩田は、伯方塩業 大三島工場で見られるようになった。		
活動の様子				
				

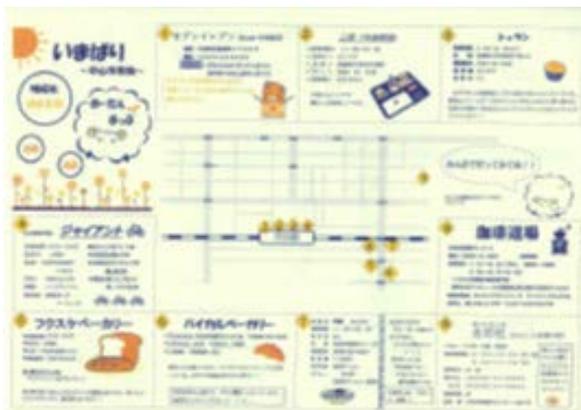
平成30年度 地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ テーマ選択

テーマ				
中心市街地活性化	文化の継承 (おへんろ)	文化の継承 (玉川)	文化の継承 (料理)	観光(島と サイクリング)
平成30年度テーマ選択				
文化の継承 (料理)	4月12日(木) 15:30~16:30	「食」の大切さを見直そう！ 講師：本学 調理師専修科講師 竹田貴好先生 偏った食事(ジャンクフード、好きなものだけを食べる)のではなく、栄養のバランスを考えて食事をするのが大切である。一汁三菜を基本とする日本食のスタイルは、理想的な栄養バランスであり、『うま味』を上手く使うことで、植物性油脂や塩分の少ない食生活を実践することができる。		
文化の継承 (おへんろ)	4月26日(木) 14:30~15:30	「四国へんろ道文化について」 講師：四国へんろ道文化世界遺産化の会世話人 阿部芳司先生 遍路の歴史、目的、巡拝の交通手段など遍路の現状についてお話をしていたいただいた。巡礼コースは200コースくらいあり、今治地域では大島や波方町など、四国八十八カ所のミニコースもある。巡拝する動機としては、父母など身近な人が亡くなった時や自分のためにまわるといふ人もいる。		
文化の継承 (玉川)	4月26日(木) 15:30~16:30	「ふれあい茶屋&鈍川地域土地農村共生対流協議会」 講師：今治市社会福祉協議会 地域福祉課 生活支援コーディネーター 木村玲奈先生 玉川地区における生活・福祉課題など玉川町の現状についての講話をしていただいた。ふれあい茶屋は、地域の声から始められた地域交流の場として定着してきており、鈍川地域以外の方との交流も増えてきている。10年を迎えて、茶屋活動の担い手が高齢になってきているなどの課題もある。		
中心市街地 活性化	5月10日(木) 14:30~15:30	「今治市中心市街地の活性化」 講師：今治市商工振興課 市街地活性化室 渡部紘誌先生 今治市の中心市街地の特色や活性化のための基本計画について話をしていたいただいた。中心市街地は、中心商店街以外に官公庁、金融機関、病院などが集積している地区である。中心市街地を活性化するためには、「モノ」消費から「コト」消費のコンセプトの転換が必要である。その他、今治散策マップ、「ぶらっと(今治まちなか活性化サロン)」、地域おこし協力隊の紹介をしていただいた。		
観光(島と サイクリング)	5月10日(木) 15:30~16:30	「大島の歴史文化と観光」について 講師：今治市村上水軍博物館 学芸員 田中謙先生 14・15世紀には、村上海賊の台頭と海城の築城ラッシュがあった。村上海賊には、能島村上氏、来島村上氏、因島村上氏の三家があり、海上のルールや秩序を守り、水先案内や海上警護を行っていた。宣教師ロイスフロイトの著書に、村上海賊の記述もあり、現在の日本最大の海事都市今治市につながっていることが伺える。村上水軍という言葉は後から出てきた言葉である。		
活動の様子				
				

1. 平成29年度 市街地活性化

目 的		
中心市街地活性化をテーマに「学生がどうかかわることができるか」、地域の人々との交流を通して考えます。前期は、中心市街地の現状と課題を知ることを中心に活動をしていきます。		
日 時	前期活動内容	
7月13日(木) 14：30～17：40	商店街視察	今治市役所商工振興課の職員の方々に商店街を案内していただき、商店街の現状を知ることができた。
7月27日(木) 16：00～17：40	前期活動報告会	一人ひとりが取材したい店舗を決定した。取材に行く前には、取材までに準備するものや留意点などをグループワークで話し合った。商店街では、お客様のために努力している店があることを身近に感じることができた。
日 時	後期活動内容	
9月28日(木) 14：30～17：40	店舗の取材	学生一人ひとりが前期に決めた店舗の取材を実施した。アポイントメントをとって取材することに最初戸惑いもあったが、お店の方が気さくにお話してくださった。
1月25日(木) 16：10～17：40	後期活動報告会	夏休み・9月にかけて、各自が前期で決めた店舗を取材した。取材にあたっては、グループワークで決めた内容、営業時間、定休日、おすすめ商品、駐車場の有無等についてお話を伺った。現地に行かないとわからないことも多く、店舗決定から取材、まとめ、マップ作りと一連の作業をやり遂げたことに達成感を味わうことができた。
活動の様子		
		

市街地 MAP



平成30年度 市街地活性化

目 的		
<p>中心市街地活性化をテーマに「学生がどうかかわることができるか」、地域の人々との交流を通して考えます。前期は、中心市街地の現状と課題を知ることを中心に活動をしていきます。</p>		
日 時	前期活動内容	
6月28日(木) 14:30~17:40	商店街視察	今治市役所商工振興課の職員の方々に商店街を案内していただいた。商店街の現状について新居田理事長にお話をいただいた。地域おこし協力隊の越智様には、「ぷらっと」での活動やまちなか学についてもご講話いただいた。また、港湾管理課の職員の方には、はーぱりー(みなと交流館)についてご説明していただいた。
7月26日(木) 16:10~17:40	前期活動報告会	今治市役所商工振興課職員及び今治市商店街組合長から今治商店街の現状を知ることができた。その中でも地域の特産物を販売している「ほんからどんどん」や地域おこし協力隊が勤務している「ぷらっと」、みなと交流センター「はーぱりー」など、地域の活性化や交流に積極的に取り組んでいる場所もあった。後期では、店舗の取材やインスタ映えのするスポットを探して、PRをしていきたい。
日 時	後期活動内容	
10月7日(日) 12月9日(日)	まちなか学 商店街ツアー 路地の歩き方	10月7日に地域おこし協力隊越智さんが所属している「ぷらっと」主催のまちなか学「商店街ツアー」に参加し、商店街で老舗のお店をまわり、商店主から商品の説明や現状をお話していただいた。12月9日には、10月7日に引き続き、「ぷらっと」主催のまちなか学「路地の歩き方」に参加し、歴史のつめ跡を残した路地裏の古い建築物をめぐり、ノスタルジックな雰囲気と魅力を発見することができた。
11月8日(木) 11月29日(木)	市街地スポット の取材	11月8日(木)及び11月29日(木)に5班に分かれて、学生が中心市街地にある魅力ある食や旅館などを選び、取材を行った。
1月10日(木) 15:00~16:00	市街地活性化 活動報告会	COC事業の連携先である今治市役所商工振興課と今治市商店街組合の方たちに向けて1年間の中心市街地で視察やまちなか学で学習したことをまとめた活動報告会を学生が主体となって実施した。
1月24日(木) 16:10~17:40	後期活動報告会	グループに分かれて、たくさんの店を取材し、良いところや改善点を見つけることができた。まちなか学に参加して、歴史を詳しく知ることができ、こだわりのある店も見つけることができた。多くの人に商店街に来てもらえる工夫を考え続けることの大切さがわかった。今治市商工振興課の職員からも励ましなどのコメントを頂くことができた。
成 果		
<p>地域での1年間の活動を通して、地域の固有価値を再発見することができた。また、コースや学科の枠を超えた学生間の交流や地域との関わりの中で、地域への関心が深まり、学生自身が何ができるかを主体的に考えるきっかけに繋がった。学内や地域での報告会を通して、学生が体験したことをまとめるとともにプレゼン力、発信力を高めることができた。</p>		
今後の展望		
<p>地域の固有価値を再発見するだけに止まらず、地域内外に発信していくことを視野に入れた活動をしていく。加えて、地域の活動に参画するだけでなく、地域住民と協働し継続的な活動展開を図っていく。</p>		
活動の様子		
		

2. 平成29年度 文化の継承（玉川）

目的		
地域住民が集う茶屋での活動、新たな観光資源となっているワラシシづくりの体験を通して地域の課題を自ら考える。地域活動の拠点でもある今治市社会福祉協議会でのイベント参加を通して、地域に根づいている文化を学び、発展・継続するために必要な事を考える。		
日時	前期活動内容	
6月29日(木) 14:30~16:00	社会福祉協議会職員の話	今治市社会福祉協議会 地域福祉課 木村怜奈先生に、7月8日の地域活動「ふれあい茶屋」の活動についてご教示いただいた。
7月1日(土) 7月8日(土) 16:00~17:40	「ふれあい茶屋」活動	①清掃班、②調理班、③交流班に分かれて活動を実施した。 ①清掃班：地域交流の場となっている交流センター内の清掃、周辺環境整備を行った。 ②調理班：ふれあい茶屋でジビエ料理「鹿カレー」、「まんてん焼き」、「赤飯」、「ランチ」等の調理を行った。鹿の肉は獣肉独特の臭みを取るためのあく取りや盛り付け方などの工夫を教えていただいた。 ③交流班：「ふれあい茶屋」外周の清掃活動や接客と販売の活動を行った。 その他、茶屋活動の方や宮司さんからのお話で玉川町鈍川地区のことについて知ることができた。
7月27日(木) 16:10~17:00	前期活動報告会	今治市社会福祉協議会職員の話や地域活動を通して、学生が玉川地域の問題点と改善点について発表を行った。
日時	後期活動内容	
12月3日(日) 9:00~15:00	鈍川溪谷 グルメマラソン	4つのグルメステーションでランナーに地元のグルメを提供した。給水所でマラソンランナーが来るまで地元の方との話を弾ませ、交流を深めた。かぼちゃプリン容器に、学生が手作りの“応援シール”を貼付し、メッセージとともにお接待を行った。ランナーからは、「すごくかわいい」「このメッセージ嬉しいね。これだけでがんばれるよ」「ひとつひとつ違うんだね」と言っていたと、ボランティア活動の励みになった。
1月25日(木) 16:10~17:40	後期活動報告会	人と人の繋がりの大切さ、温かみを感じ、今後も自分たちができることを見つけ、少しでも地域活性化に貢献できるように頑張ろうと思った。 この1年間ボランティアの楽しさや、人に感謝される喜びを知り、とてもよい経験ができた。この先、このような機会があれば進んで参加したい。 私たちの活動が来年の1年生につながればよいと思う。
活動の様子		

平成30年度 文化の継承（玉川）

目 的		
<p>地域住民が集う茶屋での活動、新たな観光資源となっているワラシシづくりの体験を通して地域の課題を自ら考える。地域活動の拠点でもある今治市社会福祉協議会でのイベント参加を通して、地域に根づいている文化を学び、発展・継続するために必要な事を考える。</p>		
日 時	前期活動内容	
6月14日(木) 14:30~16:00	社会福祉協議会 会職員の講話	今治市社会福祉協議会 地域福祉課 木村怜奈先生に、7月8日に地域活動「ふれあい茶屋」の活動についてご教示いただいた。
6月16日(土) 6月30日(土) 9:00~16:40	「ふれあい茶屋」 活動	<p>①清掃班、②調理班、③交流班に分かれて活動を実施した。</p> <p>①清掃班：交流センター内の清掃、周辺環境整備を行った。</p> <p>②「ふれあい茶屋」：ジビエ料理「鹿カレー」、「まんてん焼き」、「赤飯」、「ランチ」等の調理を行った。鹿の肉は獣肉独特の臭みを取るためのあく取りや盛り付け方などの工夫を教えていただいた。</p> <p>③交流班：「ふれあい茶屋」外周の清掃活動や接客と販売の活動を行った。その他、茶屋活動の方などからのお話で玉川町鈍川地区のことについて知ることができた。</p>
7月26日(木) 16:10~17:00	前期活動報告会	今治市社会福祉協議会職員の講話や地域活動を通して、学生が玉川地域の問題点と改善点について発表を行った。
日 時	後期活動内容	
9月23日(日) 9:00~15:00	ワラシシづくり	「ワラシシ」は玉川の冬の風物詩で、イノシシの形の巨大な藁アートづくり。地域活性化と域外交渉促進のために2014年度から始まり、本学の参加は、2回目となる。作業している人は高齢の方が多く、教えていただきながらワラシシを完成させた。作業の間、地域の方との交流を深めていった。若い人がもっと参加できる環境づくりが必要だと感じた。
12月2日(日) 9:00~15:00	鈍川溪谷 グルメマラソン	「鈍川溪谷グルメマラソン」は、鈍川溪谷の美しい風景と里山の美味しいものを堪能するマラソン大会。18.1km、標高差450mのハードなコースで各グルメステーションでは給水だけでなく、地域の郷土料理などの美味しいグルメ「かぼちゃプリン」、「猪豚そうめん」、「ブルーベリージュース」、「炊きごみご飯のおにぎり」を4か所に分かれて、ランナーに提供した。ランナーからは「ありがとう」「おいしい」などの声を頂き、作業を一層頑張れた。地域の方とイベントの準備や当日の作業を共にすることで、交流を深めた。
1月24日(木) 16:10~17:40	後期活動報告会	1年間の活動を通して、地域の方と関われる機会を持つことができ、玉川地区の人々の温かさや優しさに触れることができた。高齢化が進み、グルメマラソンなどのイベントを継続していくことが難しくなっているため、地域のイベントなどに若い人たちが参加できるようにSNSなどで発信していく。また、マップを作って町中に旗を立てるなど、周知活動の提案をしていく。
成 果		
<p>1年間の活動を通して、地域で伝承されている行事などのイベントに参加することにより、玉川町鈍川地区の「地域活性化」について地域の方々と交流を深めることができた。関係団体とも連携の構築をすることができた。</p>		
今後の展望		
<p>過疎化が進むなか、大学と地域が共に「地域活性化」の取組や経験したことを情報発信していく。</p>		
活動の様子		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div>		

3. 平成29年度 文化の継承（料理）

目的		
留学生を含めた学生は今治の郷土料理を知らない、食べたことがない学生が多い。郷土料理を知るとともに、穏やかな気候がもたらす多彩な食文化を継承するための方法を考える。		
日時	前期活動内容	
6月22日(木) 14:30~16:00	ゲスト講師による料理講習	JA おちいまばり乃万支部女性部の方々をゲスト講師に迎え、地域の伝統料理、郷土料理を学んだ。 メニューは、「ひじきご飯」、「お煮しめ」、「いぎす豆腐」、「おみそ汁」の4品。日頃料理をしない学生も、地域の方々に教えていただきながら、料理を完成させた。また、留学生は、今治地域の伝統料理・郷土料理について知るきっかけとなった。 親から子へまた、孫へと受け継がれる郷土料理について調理する機会を得たことで、伝承していく大切さを学ぶことができた。
7月27日(木) 16:10~17:40	前期活動報告会	今治地域の特産物、郷土料理を調査し、郷土料理には“何があるのか”から始めた。6月22日(木)には郷土料理を継承している地元のJA おちいまばりの講師から郷土料理「ひじきご飯」、「いぎす豆腐」などの調理方法を学び、調理をしながら、地元の方々と交流を図った。グループの中には、留学生もおり、今治地域の郷土料理を学ぶとともに、自分の国の郷土料理との違いについて知ることができた。
日時	後期活動内容	
12月2日(土) 9:00~15:00	ゲスト講師による調理実習	郷土料理普及推進協議会からゲスト講師を迎え、鯛料理（鯛めし、鯛のからあげ、鯛のあらだき、潮汁）の郷土料理を試作し、レシピにまとめた。
1月25日(木) 16:10~17:40	後期活動報告会	日本人学生、中国及びベトナムからの留学生混合の3つのグループに分かれて、それぞれの理解を深めるために郷土料理の調理を行った。それぞれの料理を通してコミュニケーションを図るとともに、地域のゲスト講師から鯛の調理方法について学ぶこともできた。 料理を経験したことがない人にとっては、野菜を細かく切る事、魚をさばく事などの調理の大変さと楽しさを実感できた。 調理した料理を写真に撮り、親族や友達に送ったり SNS に投稿するなど、学生が郷土料理を広く伝えていくことをしていきたい。
活動の様子		

平成30年度 文化の継承（料理）

目 的		
<p>留学生を含めた学生は今治の郷土料理を知らない、食べたことがない学生が多い。郷土料理を知るとともに、穏やかな気候がもたらす多彩な食文化を継承するための方法を考える。</p>		
日 時	前期活動内容	
6月14日(木) 14:30~17:40	調理実習	<p>地元特産品、郷土料理について調べ、特産品を使った料理のレシピを3グループごとに考案し、調理実習を開催し考案した料理を通して、留学生と日本人学生の交流が図れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1班：枝豆たこコロケ、じゃがいも餅 作るにより新たな郷土料理を知ることができた。 2班：レンコンと鶏肉のギョウザ、たこねぎギョウザ、鯛しそギョウザ、中国ニラ玉水餃子：ぎょうざの皮作りが難しかった。 3班：みぞれザンキ in 温玉丼 今治のソウルフード「焼き豚卵飯」のアレンジで特産品の「せんざんき」を使った「みぞれザンキ in 温玉丼」を考案した。
7月26日(木) 16:00~17:40	前期活動報告会	<p>郷土料理を調べることで、今まで知らなかった料理も知ることができた。</p> <p>実習した料理を家庭で再現し、家族にも喜んでもらった。</p> <p>料理をすることにより国際交流ができ、他国の料理や文化に関心ももてた。</p> <p>いろいろな国の料理や調理法をお互いに知る事ができた。</p>
日 時	後期活動内容	
10月25日(木) 14:30~17:40	調理試作	<p>愛媛の三地域『東予・中予・南予』の古くから伝わる郷土料理をそれぞれグループに分かれて調査し、実際に作った。</p> <p>東予：れんこん饅頭、中予：松山鮓（もぶり鮓）、南予：ふくめん</p>
11月17日(土) 8:50~16:00	ゲスト講師による調理実習	<p>地域の料理を継承している近藤一樹講師を迎え、地域の伝承料理・郷土料理の講習を実施した。今回は来島海峡の鯛や、今治産の野菜を使った、スペインと地元の特産品を融合させた料理を作った。</p>
1月24日(木) 16:10~17:40	後期活動報告会	<p>前期の活動について、COC コーディネーターからの質問、指摘事項について調べたことを発表した。</p> <p>愛媛県内の東予・中予・南予の3グループに分かれて担当し、その地方に伝わる郷土料理について歴史などを調べ、各地域の郷土料理の調理を実施した。近藤一樹先生の提案による鯛と魚介のパエリアの調理についての発表をした。</p>
成 果		
<p>改めて郷土料理について調べることにより、その地域の先人の知恵によって生まれた食文化や郷土料理の大切さを感じることができた。日本だけでなく中国やベトナムにも郷土料理はあり、次世代に伝える必要さと大切さを知ることができた。またグループワークによりコミュニケーションや主体性も身についた。</p>		
今後の展望		
<p>郷土料理に関しグループワークや講義による知識だけでなく、今後次世代へと継承するためにも実際に郷土料理を作ってみることが大切であると感じた。また、学生間の交流や情報交換にも繋がる。</p>		
活動の様子		
    		

4. 平成29年度 文化の継承（おへんろ）

目 的		
市内のへんろ寺をめぐる住職の講話を聴くなどして、また実際に遍路道を歩くことで日本文化及び地域への理解を深める。同時に環境整備の一環としてクリーンウォークを行い、今治市のごみの分別方法などを学び、自身の日常生活、地域史活を想定しながら、地域の課題を考える。		
前期活動内容		
5月20日(土) 8:50~15:30	2017へんろ道 体験クリーン ウォーク in 今治	へんろ体験準備学習の一環として、四国へんろ道文化世界遺産化の会の皆様、市民の方々とともに、希望学生ライフデザイン学科 国際観光ビジネスコースの留学生19名と担当教員が参加した。札所から札所までの間、歩きながらごみ拾いをし、環境整備も行った。ごみ袋は全体で12袋分にもなった。
6月22日(木) 14:30~17:40	へんろ道体験と クリーン ウォーク① 延命寺~南光坊	今治市リサイクル推進課に市民ボランティア清掃活動用のゼッケンやトンクをお借りし、本学から延命寺を經由して南光坊までへんろ道に沿ってごみ拾いをしながら歩きへんろ体験を行った。本学から延命寺までの県道や南光坊までの一般道には、たくさんのペットボトルやたばこの吸い殻、お菓子の外袋などのごみが落ちていた。
6月29日(木) 14:30~17:30	へんろ道体験② 栄福寺~南光坊	栄福寺の副住職による「栄福寺」についてのお話や、映画「僕は坊さん」の撮影秘話などをお聞きした。その後、バスで移動し、南光坊でご住職による「南光坊の成り立ち」「へんろ巡礼の意義」などについて話をうかがった。
7月27日(木) 16:10~17:40	前期活動報告会	遍路（巡礼）や遍路道にこれまで興味関心を持ったことがなかった学生も、ご住職の講話を聴き、街へ出てへんろ道を歩くことで、当時の人々の暮らしや、先祖供養などの人々の行動や願いに思いを馳せた様子だった。また、クリーンウォークを通じて街の美化に対する姿勢も変化した様子だった。
後期活動内容		
10月12日(木) 8:50~15:30	へんろ道体験③ 延命寺~栄福寺	延命寺で講話を聴き、雨模様の中、栄福寺まで歩いた。道しるべなどをもう少し確認できればよかったのだが、距離が思ったより長く、必死で歩くという状態だった。歩き遍路の方々の大変さを思いながらの道程だった。
11月9日(木) 14:30~15:30	今治市リサイクル 推進課職員の講話	今治市リサイクル推進課越智課長補佐から新規のごみの分別方法についての講話をしていただいた。
11月30日(木) 14:30~17:40	へんろ道体験と クリーンウォーク④ 仙遊寺~国分寺	仙遊寺の紅葉を見ながら晩秋の午後の道を国分寺まで歩きつつごみを拾った。日が落ちるのが早く、暗くなった道を急ぐ形となり、また、最後は国道を歩く必要もあり、苦勞した。
1月11日(木) 16:10~17:40	へんろ体験クリーン ウォーク活動 発表会	へんろ道体験とクリーンウォークの実践内容や学びを発表することによってより一歩進んだ学びになることを期待して、今治市ボランティア協議会の皆様に活動報告会を実施した。ごみに対する考え方の違いを認識し、ごみ削減への意見交換ができた。今治市リサイクル推進課から留学生への質問をいただき、ボランティア連絡協議会からは、「ポイ捨てごみ削減には「接待の文化の継承を盛り上げることが重要である」との話をついた。
1月25日(木) 16:10~17:40	後期活動報告会	へんろ体験を通して学生は日本の巡礼に対する文化を学ぶことができた。クリーンウォークを通して、ごみ削減に対する提案を出すことができた。
活動の様子		
    		

平成30年度 文化の継承（おへんろ）

目 的		
市内へのんろ寺をめぐり、また実際に遍路道を歩くことで日本文化及び地域への理解を深める。同時に環境整備の一環としてクリーンウォークを行い、今治市のごみの分別方法などを学び、地域の課題を考える。		
日 時	前期活動内容	
6月14日(木) 15:00~16:00	へんろ道体験 ① 栄福寺	栄福寺白川副住職よりお遍路についての基礎知識や「栄福寺」の成り立ちについてご講話をいただいた。今年度は学生22名のうち19名が留学生というグループ編成となった。留学生は四国遍路の歴史や意味、それらを支えてきた日本文化の一端について理解を深めた。
6月16日(土) 9:00~15:00	へんろ道体験 ②とクリーン ウォーク 南光坊~仙遊寺	南光坊から仙遊寺まで、ごみを拾いながら歩き遍路体験を行った。仙遊寺では、小山田住職によるお遍路やお参りについて講話をしていただいた。お餅のお接待を受け、留学生はお接待文化に触れることができ、遍路道体験クリーンウォークについて新聞やテレビの取材も受けた。
7月26日(木) 16:10~17:40	前期活動報告会	前期、栄福寺の副住職や仙遊寺のご住職による講話を伺い、四国遍路やお参りの仕方について学ぶ事ができたこと、へんろ道では、ペットボトルやタバコの吸い殻など環境整備も行ったことなどの活動報告を行った。
日 時	後期活動内容	
10月11日(木) 15:00~16:00	へんろ道体験③ 延命寺	延命寺では、池口住職によるお遍路の基礎知識を学ぶとともに、延命寺の由来やお参りされている方々の様子などの講話をしていただいた。
10月25日(木) 14:30~15:30	へんろ道体験④ 南光坊	南光坊では、板脇住職によるお遍路の基礎知識や南光坊の由来、お参りされる方々の様子などの講話をしていただいた。
12月1日(土) 9:00~15:00	へんろ道体験⑤ とクリーンウォーク 仙遊寺~国分寺	仙遊寺から国分寺まで、ごみを拾いながら歩き遍路体験を行った。仙遊寺から国分寺までの道程は、山を下ったあたりからごみが目立つようになり、大きなものもあった。国分寺を参拝し、春日神社でもお話をうかがうことができた。
1月10日(木) 15:00~17:00	へんろ道体験と クリーンウォーク 活動報告会(市 リサイクル推進課、 クリーンセンター にて)	これまでの1年間のへんろ道体験の予備クリーンウォークについて、学生が5つの班に分かれてそれぞれがテーマ「へんろについて」「ごみの分別について」「街の美化について」などに沿って、自国の状況との比較や日本の現状、ごみ処理システムなどから学んだことを発表した。今治市ボランティア連絡協議会から活動への評価と、今後の一層の学習についての激励をいただいた。
1月24日(木) 16:10~17:40	後期活動報告会	クリーンセンターでの発表をベースにそれぞれが学んだことを発表した。班に分かれて作成した模造紙をパワーポイントで大きく映し、自国の考え方や習慣の違いについて、日本語でしっかりと発表することができた。
成 果		
留学生が多かったため、日本の宗教や先祖供養を含む巡礼の文化について、今も残る遍路道を実際に歩くことで理解を深めることができた。また日常生活者・地域住民の視点でごみ処理と削減についても考えることができた。		
今後の展望		
今後日本で就労する者、自国で就労する者ともに、それぞれが宗教や供養などの心のよりどころとするものを尊重するとともに共生していくための「思いやり」について理解を深め、互いに快適な地域生活を送るためのごみ分別などのルール厳守について周囲にも知らせ、自らも実践していく姿勢を身につけてほしい。		
活動の様子		
    		

5. 平成29年度 観光（島とサイクリング）

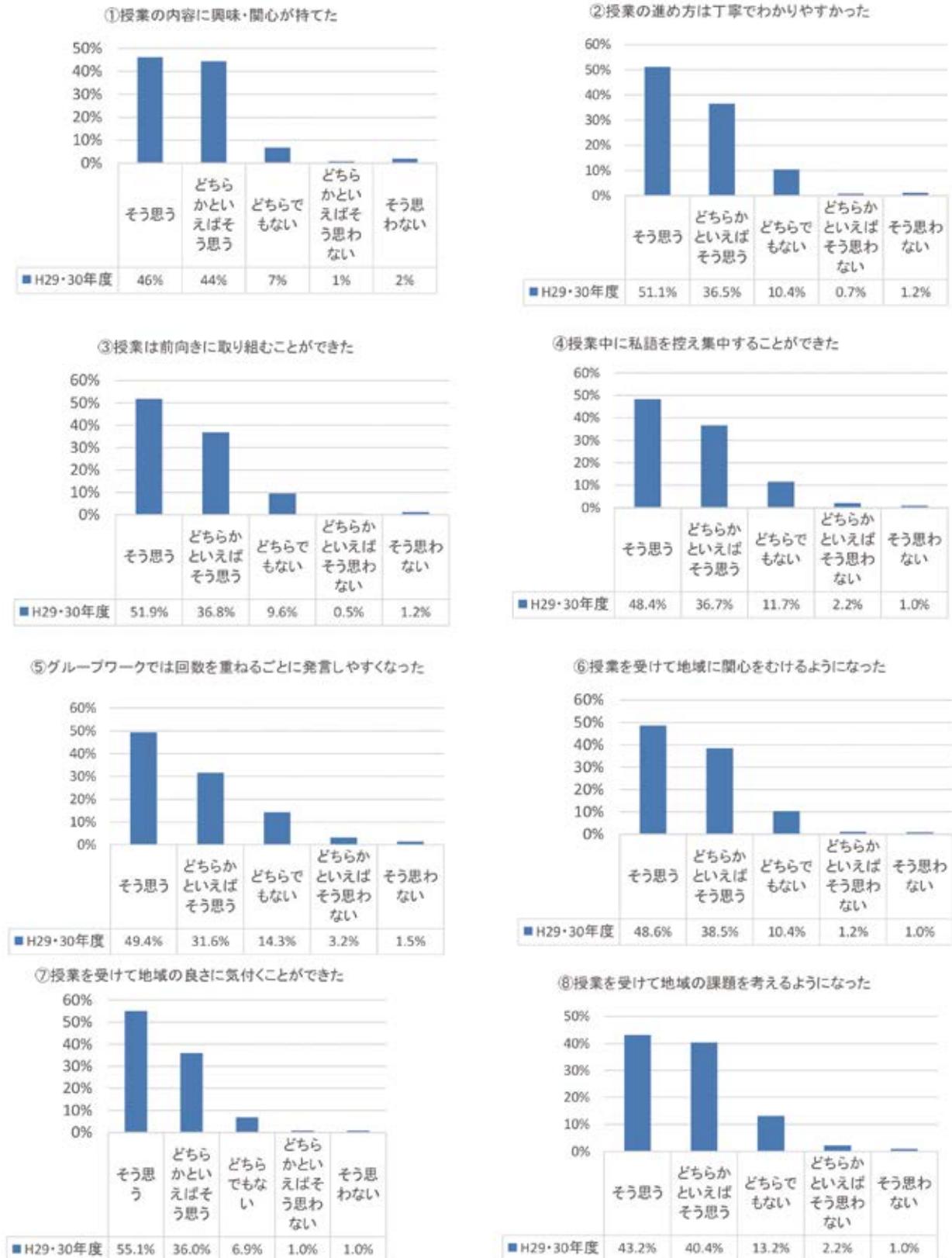
目的		
「自転車」をキーワードにして「しま」とつながる。今年度は、伯方島を活動の舞台とし、伯方島での調査でサイクリング及び「しま」の資源に関心を向け、観光をイメージする。島内をサイクリングしながら学生の視点で島の情報を中心としつつ、伯方島のサイクリング観光マップを作成していった。		
日時	前期活動内容	
6月22日(木) 14:30~17:40	サンライズ糸山視察	サンライズ糸山川原支配人に「レンタサイクルの現状」について講話をしていただいた。レンタサイクルの利用者は、台湾から来る人が多く、特に11月の利用者が多い。年間の利用者は7万人で、愛媛より広島からの利用者が多い。様々な保険があり、サービスも多く特にタイヤチューブの自動販売機には興味が出た。歴史は浅いが世界から注目されており、これからもっと広まってほしいと思った。
6月29日(木) 14:30~17:40	伯方島訪問	今治市役所伯方支所のご協力により、現地を案内していただいた。①伯方S・Cパーク②伯方ビーチ③船折瀬戸④ふるさと歴史公園実際に伯方島へ行き、様々な島の魅力を発見し、資料にまとめることもできた。授業を通してこれから学んでいく場所に興味を持った。伯方島では、自然を楽しむだけでなく島の歴史も知ることができた。地元の人、観光する人たちに魅力を発信していきたい。
7月27日(木) 16:00~17:40	前期活動報告会	サイクリングターミナルで、しまなみ海道の自転車の利用状況や様々な保険・サービスについての情報、特にタイヤチューブの自販機には興味が出た。今治市役所伯方支所のご協力により、伯方島の観光スポットの現地案内と説明をしていただき、「しま」の歴史文化や美しい風景などを知ることができた。
日時	後期活動内容	
9月30日(土) 9:00~15:00	伯方島調査	前期での活動をもとに、具体的にサイクリング計画を立て、レンタサイクルを利用した伯方島の現地調査を実施した。スタート地点からの時間や道路状況などのメモをとったり、立ち寄ったお店で写真を撮ったりしながら事前の計画に沿って実施した。
1月25日(木) 16:10~17:40	後期活動報告会	活動を通して、伯方島について知ることができた。伯方島には美味しい食べ物や風光明媚な景色があり、とてもいいところだと感じたので、もっとたくさんの人に伯方島のことを知ってほしい。伯方島のサイクリングでは、お店で他県から来たサイクリストの人に出会ったり、地元の人とお話できた。
活動の様子		

平成30年度 観光（島とサイクリング）

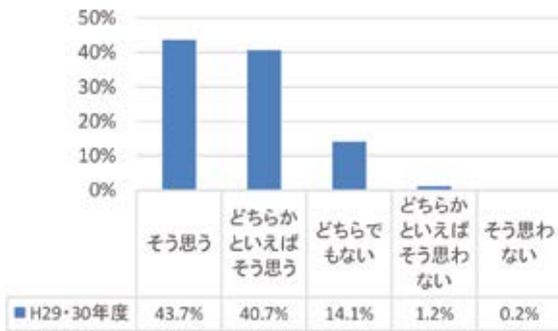
目 的	
<p>「自転車」をキーワードにして「しま」とつながる。今年度は、大島を活動の舞台とし、大島での調査でサイクリング及び「しま」の資源に関心に向け、観光をイメージする。後半は「しま」の自然、歴史文化、芸術、農業、生活等を大島の島内をサイクリングしながら学生の視点で大島の情報を中心としつつ、大島のサイクリング観光マップを作成していく。</p>	
日 時	前期活動内容
6月14日(木) 14:30～17:40	サンライズ糸山視察 サンライズ糸山川原支配人に「レンタサイクルの現状」について講話をしていただいた。平成31年度に開通20周年を迎える。サイクリングに参加する外国人が年々増えており、毎年10万人以上の人が利用。多くのサイクリストを迎えているが、安全面での対策を行っている。サイクリングロードの落ち葉でスリップするという声があったため冬場を中心に、清掃活動を実施しており、昨年度は50人ほどが参加した。また、事故の発生が多い場所には、2年前より注意喚起のポールを設置などの措置を実施し、事故件数も減少している。ヘルメットの着用など安全面での注意喚起なども行っている。
6月28日(木) 14:30～17:40	大島訪問 今治市役所吉海支所のご協力により、現地を案内していただいた。①映日果（えいじっか）②カレイ山展望公園③村上水軍博物館④ようみバラ公園⑤亀老山展望公園の順にバスで巡り、様々な島の魅力を発見し、資料にまとめることもできた。授業を通してこれから学んでいく場所に興味を持った。大島は、サイクリング休憩所としてのカフェも増えてきていたり、カレイ山展望公園や亀老山展望公園から眺める多島美や村上水軍博物館をはじめとする島の歴史も知ることができた。
7月26日(木) 16:10～17:40	前期活動報告会 サイクリングの現状についての講話からは、県外からのサイクリストが多く、観光客向けのサービスもある。安全面を考慮して、清掃活動や注意喚起などを行っている事を知った。実際に大島を周遊してみると、景色、自然の綺麗な島、歴史的、産業的な場所であることがわかった。
日 時	後期活動内容
10月6日(土) 8:50～15:30	大島訪問 ①見る②走る③食べるの3つのグループに分かれて現地調査を行った。①見る バラ公園では、世界のバラが5月中旬～12月末ごろまで見ごろである。②走るでは、亀老山展望台からの来島大橋、島、海、空の景色が最高である。③食べるでは、石のカフェや映日果等、地域の方々にお話を伺いながら現地調査を行った。カフェなどが新しくオープンするなど、地域の方たちが地域活性化に向けての取り組みをしている。
1月24日(木) 16:10～17:40	後期活動報告発表会 ①見る②走る③食べるの3つのグループに分かれてサイクリングマップを手にしながらの発表となった。①見るでは、バラ公園や潮流体験、村上水軍博物館。②走るでは、バラ公園、亀老山展望台。③食べるでは石のカフェ、映日果の説明を行った。
成 果	
<p>活動の終了時には、「学生の私たちができること」を考えて小さなことでもやっていきたいという声があがった。活動を通して、それぞれが大なり小なり地域への興味を持ち、その課題に気づくことができた。また、一つのものを作り発信していくという作業の中で、自分たちに必要な力、求められている力にも気づくことができた。</p>	
今後の展望	
<p>今回の活動で、学生らは「身近なはずなのに知らないことの多さ」に気づかされたようだ。活動での体験をもとに自分たちが住まう地域に関心を寄せて、知らないことを知る楽しさに触れ、そこから「私たちができること」をそれぞれが考え実行することが今後の学びにもつながってくる。</p>	
活動の様子	
	

地域交流実践演習 授業アンケート (学生)

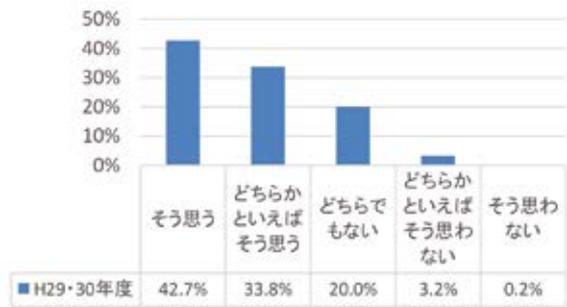
地域志向科目「地域交流実践演習」の授業を担当した学生に対し、授業終了時に授業に関する意識変化の調査を行った結果である。(対象 平成29年度及び平成30年度 延べ学生 405名)



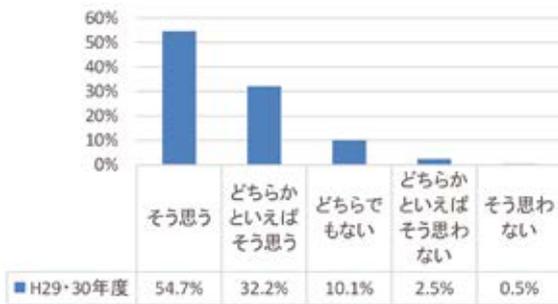
⑨授業を受けて地域で実践活動をしたと思った



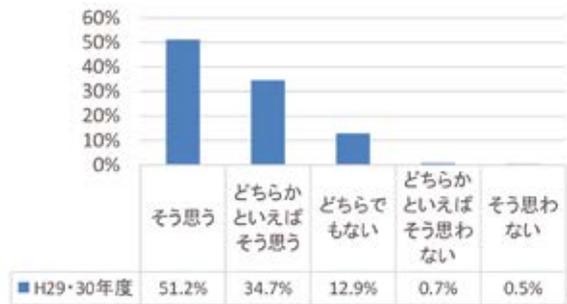
⑩授業を受けて学んだことや考えたことを自分から発言できるようになった



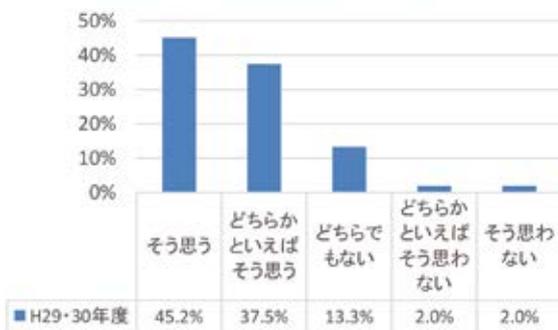
⑪授業を通じて他学科・他コースの学生と交流することができるようになった



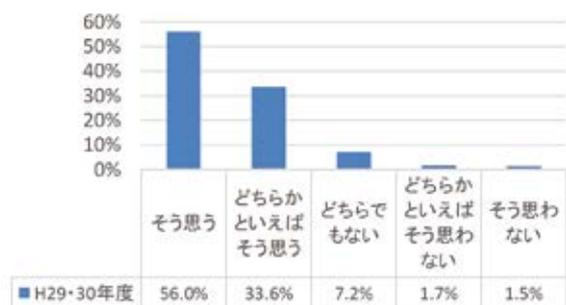
⑫授業を通じて他学科・他コースの教員と交流することができるようになった



⑬授業を受けて今後も実践活動をしたと思った



⑭総合的にみてこの授業は評価できるものであった



Ⅱ 本授業で、印象に残ったこと、良かったこと、自分にプラスになることを記述してください。

今治の良さを知ることができた（4名）。

今治のことについてたくさん知ることができた（7名）。

他の学科の学生と交流でき良かった。留学生と交流を深めることができた。

自分から主体的に動くという経験ができた。

積極的にコミュニケーションができるようになった。

自分達で発表する資料をまとめたりして、伝えたいことをどうすればよく伝わるか考えたりできた。

Ⅲ 本授業でこうすればもっと良くなること、改善してほしいことを記述してください。

プレゼンテーションを作成する時間の余裕があったらいいなと思った。

実践することを今後増やしてほしい。

Ⅳ 本授業では、課題解決型学習の方法として、グループワークを試しました。グループワークを体験して、何か意見や感想があれば記述してください。

自分の意見が話せて良かった（3名）。グループの人と話せるようになり、コミュニケーションがとれた。

この授業を通して問題解決ができたところまではいってないと思いますが、その糸口にはなったと思う。

グループワークの方法を教わってからすると、もっと良い（時間配分、役割など）グループワークになると思う。

回数を重ねるごとにひらめきとか発見などおもしろい研究になってくるのではないかと思った。

Ⅴ 本授業について、感想等、なんでも自由に記述してください。

普段は、自分の学科以外の人と関わることがないので、この授業を通して色々な人とコミュニケーションを取ることができた。

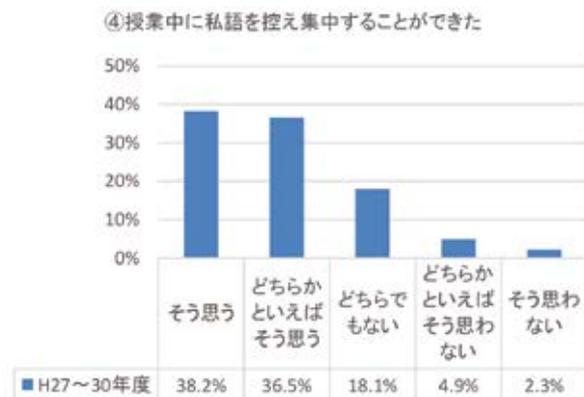
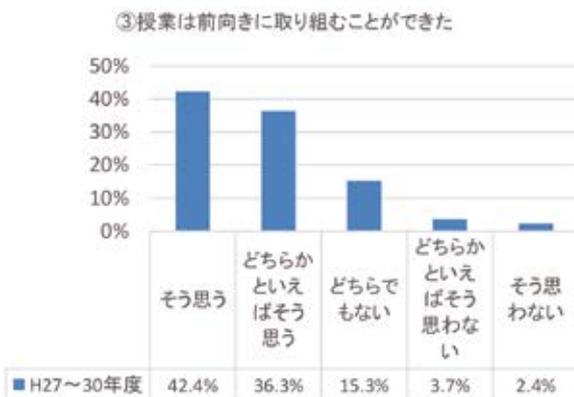
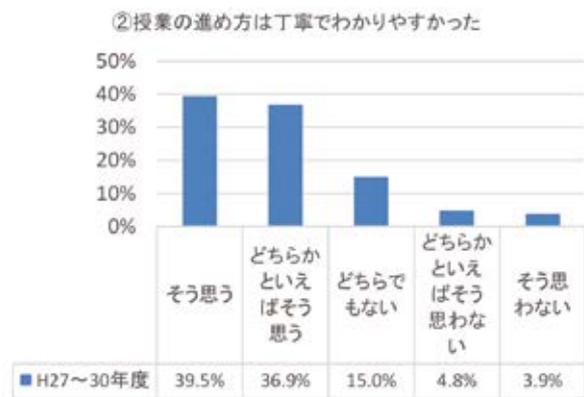
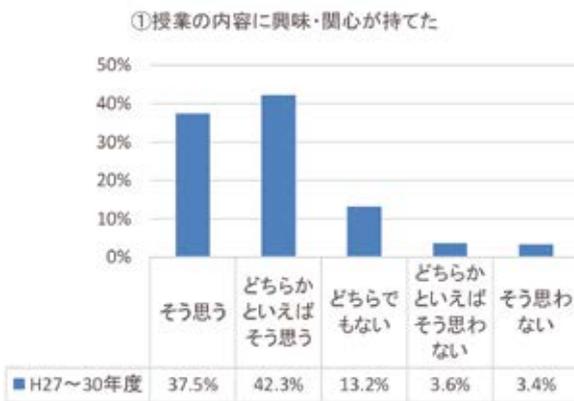
地域について愛着をもてて良かったです。楽しく活動ができました（20名）。

たくさんのテーマや意見などを少しでも考えたいと思った。交流の楽しさをもっと知っていけるようにしたいです。

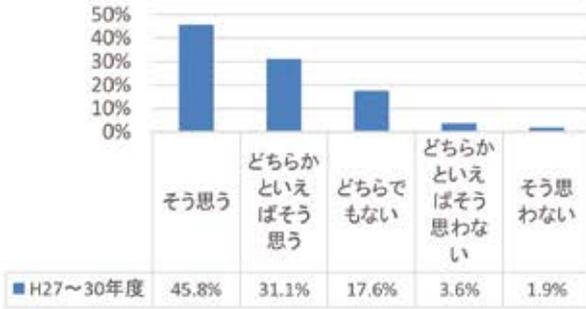
自分のしたいことのない体験ができ、とてもよい経験になった。

地域交流実践演習 授業アンケートまとめ（学生）

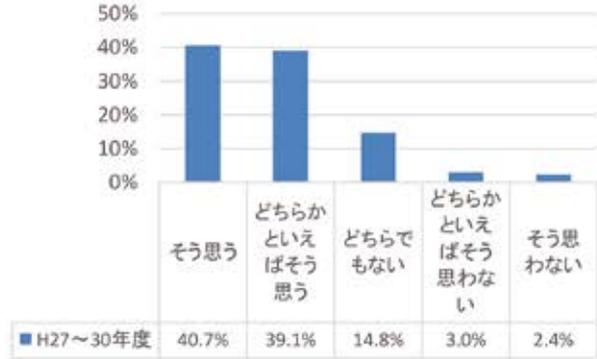
地域志向科目「地域交流実践演習」の授業を担当した学生に対し、授業終了時に授業に関する意識変化の調査を行った結果である。（対象 平成27～30年度 延べ学生795名）



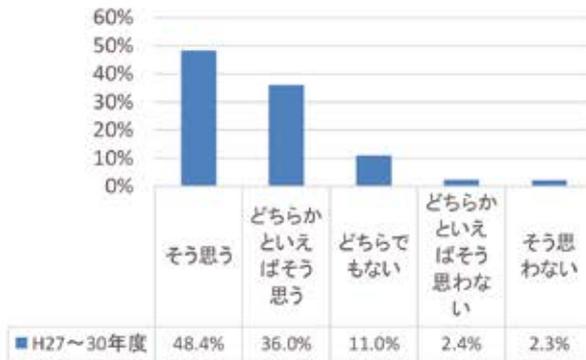
⑤グループワークでは回数を重ねるごとに発言しやすくなった



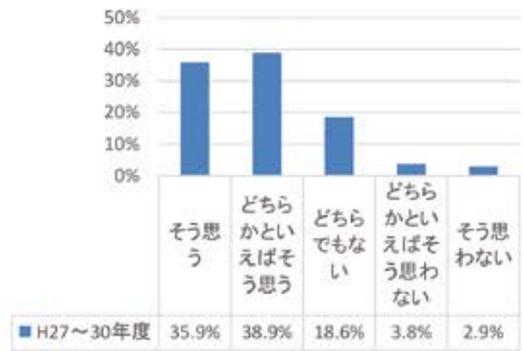
⑥授業を受けて地域に関心をむけるようになった



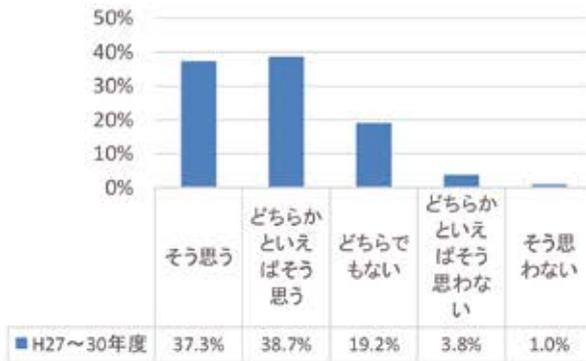
⑦授業を受けて地域の良さに気付くことができた



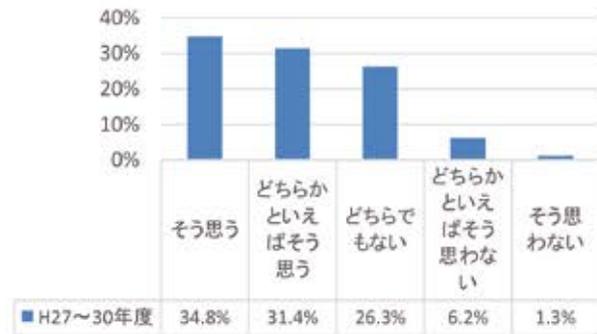
⑧授業を受けて地域の課題を考えるようになった



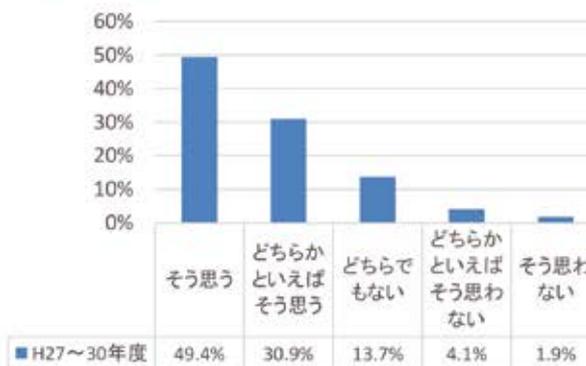
⑨地域交流実践では、自ら進んで(主体的に)活動できた



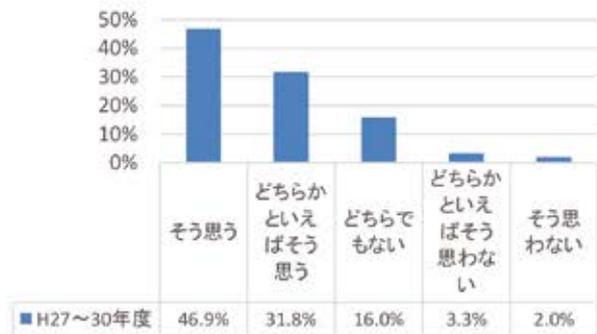
⑩授業を受けて学んだことや考えたことを自分から発言できるようになった

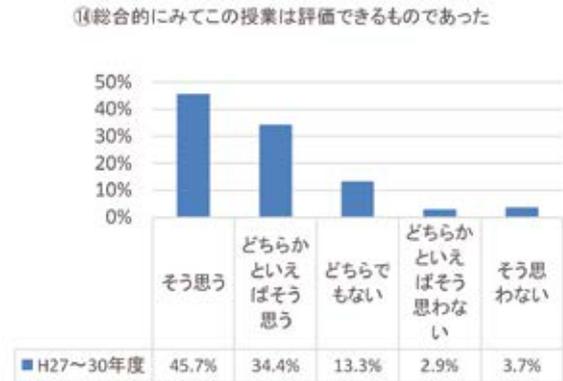
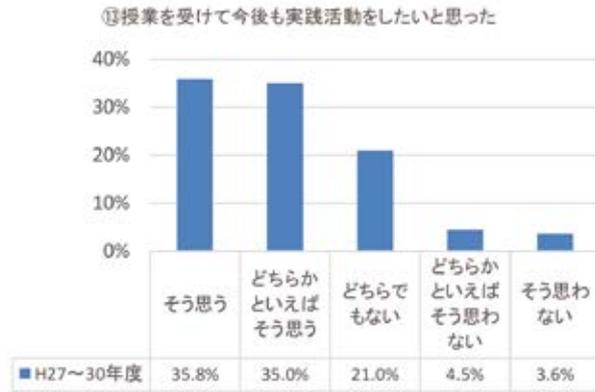


⑪授業を通じて他学科・他コースの学生と交流することができるようになった



⑫授業を通じて他学科・他コースの教員と交流することができるようになった





Ⅱ 本授業で、印象に残ったこと、良かったこと、自分にプラスになることを記述してください。

地域のことをたくさん知ることができ、地域の活動に目が向くようになった。

他コース、他学科の学生と交流を深めて楽しかったです。コミュニケーション能力が高まった気がした。ボランティア活動にも積極的に参加したい。

普段ではあまりできない人前に立って発表することで、自分に自信がついたことと良い経験になった。

自分から主体的に動くという経験ができた。

Ⅲ 本授業でこうすればもっと良くなること、改善してほしいことを記述してください。

もう少し、若者が興味を持つテーマにしてほしい。課題に対して期別ではなく通年で行えばいいと思う。

1回1回の授業を重ねるごとに、内容を明確化した方がよいかと思った。最終的な目標を明確に計画し、充実した授業にする。

プレゼンテーションを作成する時間の余裕があったらいいなと思った。実践することを今後増やしてほしい。

Ⅳ 本授業では、課題解決型学習の方法として、グループワークを試しました。グループワークを体験して、何か意見や感想があれば記述してください。

多くの人たちの意見を聞いて、その人たちの考えを知ること、課題をいろんな方向から見て解決することができた。

授業を重ねるにつれて他学科コースの人と会話をする回数も増え、普段はできないコミュニケーションが図れた。

今治明德短大で地域貢献できるということなども知り、実現できる事を考えるのはとてもよかった。

この授業を通して問題解決ができたところまではいってないと思いますが、その糸口にはなったと思う。

Ⅴ 本授業について、感想等、なんでも自由に記述してください。

他学科・コースの人との交流ができ、協力して取り組めた。グループに中国の学生がいて日本との違いがよくわかった。

本当に、よい経験になりました。自分に任されていると感じて、責任感はとてもありましたが、任務を果たすことができたので良かったです。

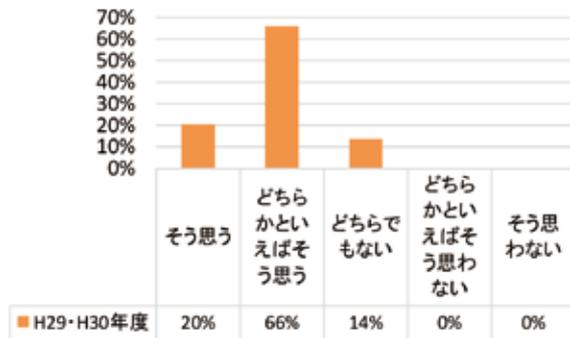
今治の事を側面から考えるように、他の地域の方から見た今治や、他県の講師の方の話も聞いてみたいと思いました。

これからの時代は、職場でもプレゼンテーション能力が求められるので、その力をつけるためには、非常に良い授業であったと思う。

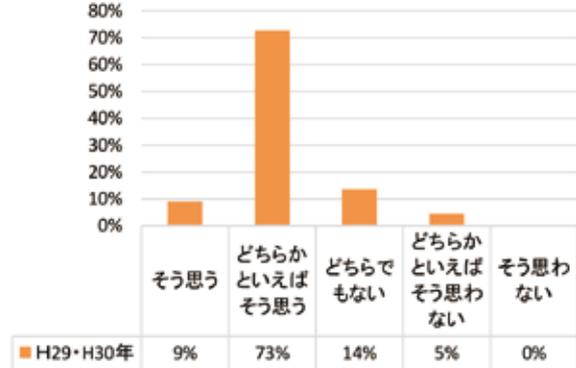
地域交流実践演習 授業アンケート（教員）

地域志向科目「地域交流実践演習」の授業を担当した教員に対し、授業終了時に授業に関する意識変化の調査を行った結果である。（対象 平成29年度及び平成30年度 延べ教員 44名）

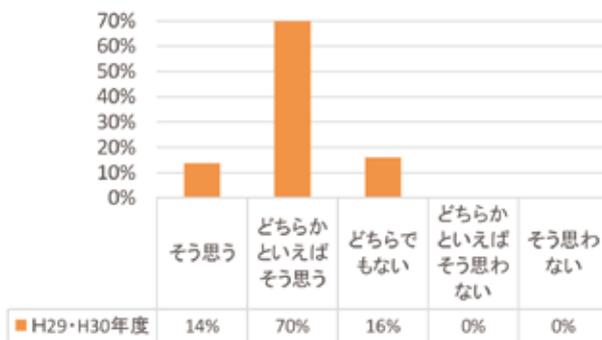
①学生は、授業の内容に興味・関心を持っていた



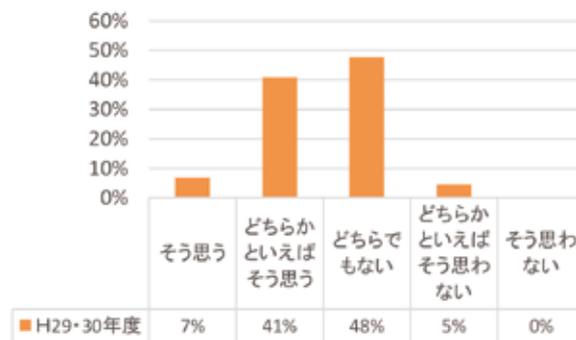
②学生にとって授業の進め方は丁寧でわかりやすかった



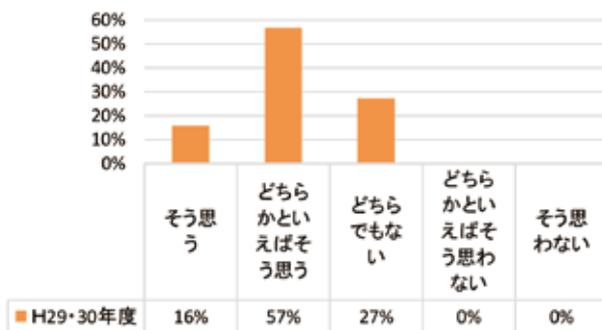
③学生は授業に前向きに取り組んでいた



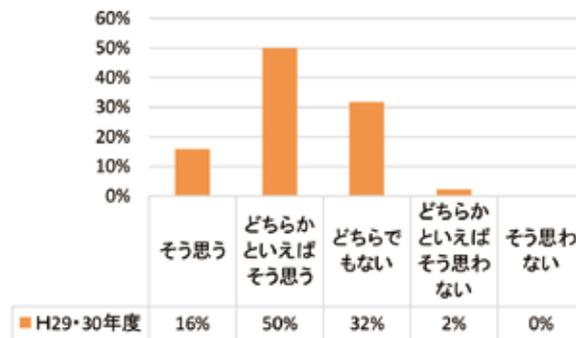
④学生は授業中に私語を控え集中していた



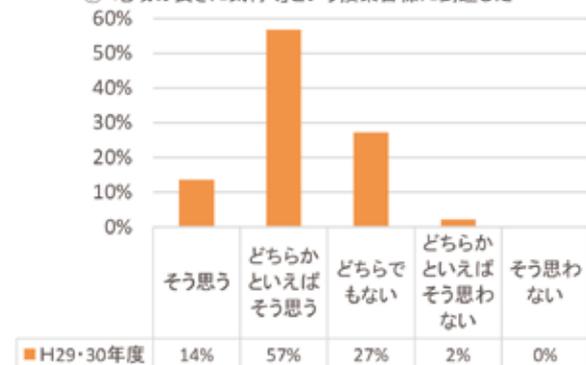
⑤学生はグループワークにおいて回数を重ねるごとに発言するようになった



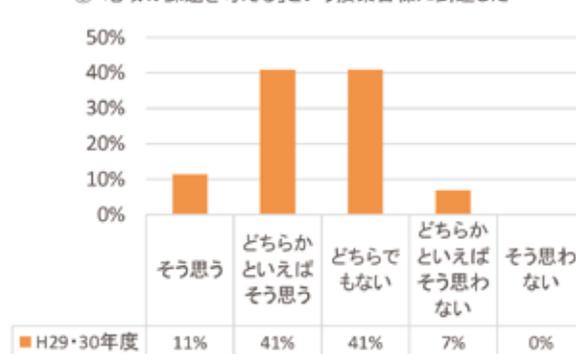
⑥「地域に関心をむける」という授業目標に到達した



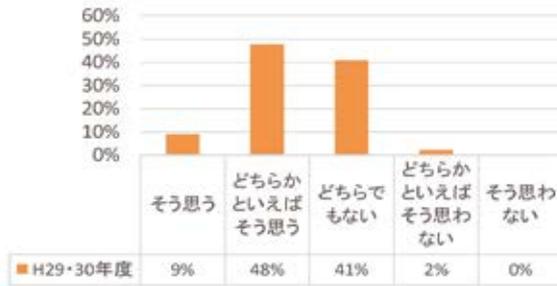
⑦「地域の良さに気付く」という授業目標に到達した



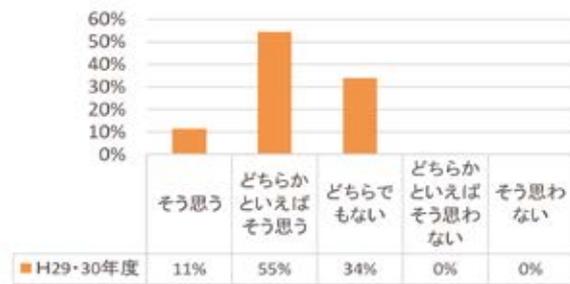
⑧「地域の課題を考える」という授業目標に到達した



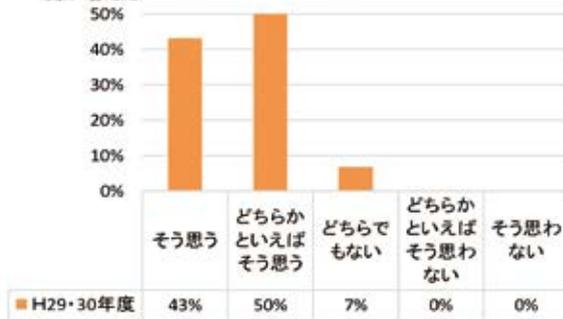
⑨学生は地域で実践活動をする意識を高めた



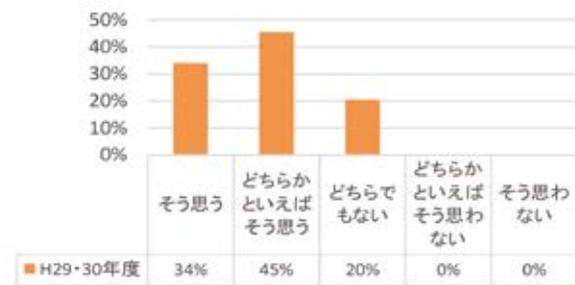
⑩学生は学んだことや考えたことを自分から発言することができるようになった



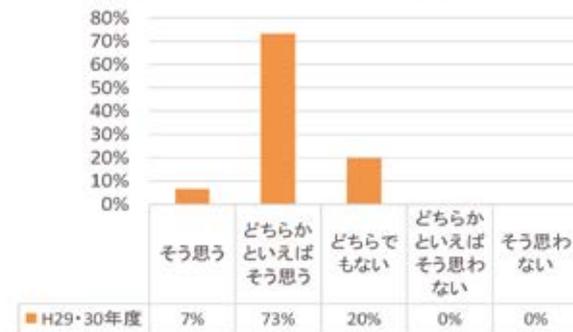
⑪教員自身、授業を通じて他学科・他コースの学生との交流が増えた



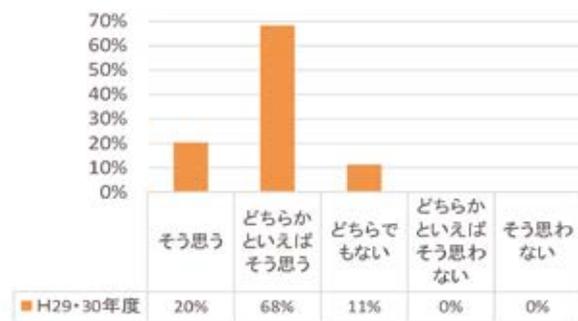
⑫教員自身、授業を通じて他学科・他コースの教員との交流が増えた



⑬学生は地域で活動実践をする意識を高めた



⑭総合的にみてこの授業は評価できるものであった



Ⅱ 本授業で、印象に残ったこと、良かったこと、自分にプラスになることを記述してください。

グループワークの方法、進め方など自身が授業をしていくうえでも参考になることが多かった。

一緒に活動していただいた先生方と協力しながら進められたこと。学生は、グループ内でそれぞれ役割を意識しながら前向きに取り組んでいた。1年目(平成27年度)からみると教員側の指導スキルが上がっているように感じる。

Ⅲ 本授業でこうすればもっと良くなること、改善してほしいことを記述してください。

学生一人ひとりのモチベーションを高めるために、細めに言葉がけをする。一人で活動するのに不安がある学生には、帰属意識や安心感を持たせるために、教員から働きかける。学生間でのやり取りを促進するために、グループワークの基本を教員が学ぶ。教員の負担や学生の負担の隔たりをなくすべく、選択科目にするとよいと思う。

テーマによっては授業開始までにすべて教員がお膳立てをし、1年間の活動が決まっている。前期で評価を出すことを考えれば難しいうえ、入学直後の学生にできるか、さらに次年度に継続できるかはわからないが、前期分をかけて学生たちが取り組むテーマを考え、夏期休暇も含めて活動してみるのもよいのではと思った。

Ⅳ 本授業では、課題解決型学習の方法として、グループワークを試しました。グループワークを体験して、何か意見や感想があれば記述してください。

学生の主体性を活かしながらグループワークを進めていくことが難しかった。どうしても教員主体になってしまう。

通常の授業でグループワークがどれだけ取り入れられているかはわからないが、数年前より、現在の方がグループワーク慣れしてきている学生が多いように感じる。留学生は言葉のハードルがあるが、お互い(学生間)話せるコミュニケーションをしようとしている姿が見られた。

V 本授業について、感想等、なんでも自由に記述してください。

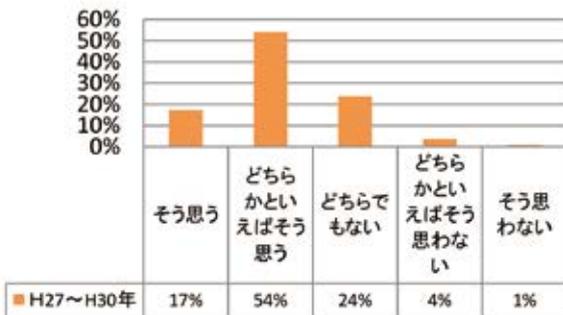
授業を通して学生は、地域について主体的に学び、交流することができることは、良い経験にもなると思う。

熱心に取り組む学生、どう動いてよいかわからない学生、様々でしたが、お互いの存在を認めながらよい雰囲気での授業が展開できた。学生には、まず、地域を知り、関心を持ち、肯定的にとらえることができれば、良いのではないかと思います。また、主体的前向きに考えたり、動いたり、発表したり、プレゼンしたりすることが少しずつできるようになってきているのではないのでしょうか。

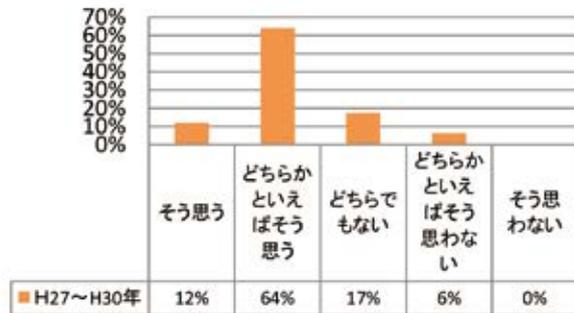
地域交流実践演習 授業アンケートまとめ (教員)

地域志向科目「地域交流実践演習」の授業を担当した教員に対し、授業終了時に授業に関する意識変化の調査を行った結果である。(対象 平成27年度～平成30年度 延べ教員 70名)

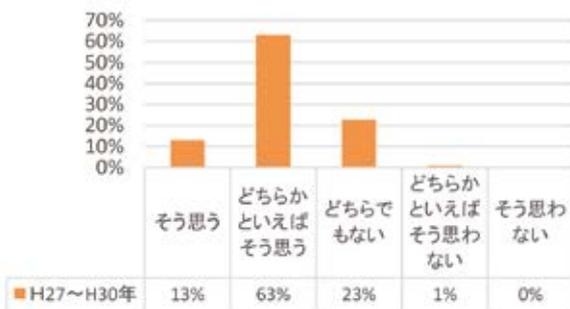
①学生は、授業の内容に興味・関心を持っていた



②学生にとって授業の進め方は丁寧でわかりやすかった



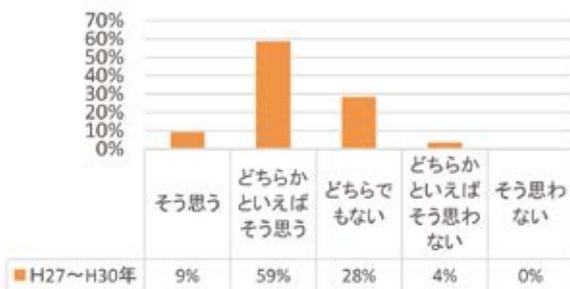
③学生は授業に前向きに取り組んでいた



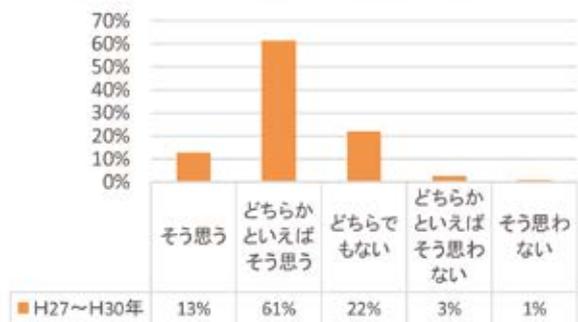
④学生は授業中に私語を控え集中していた



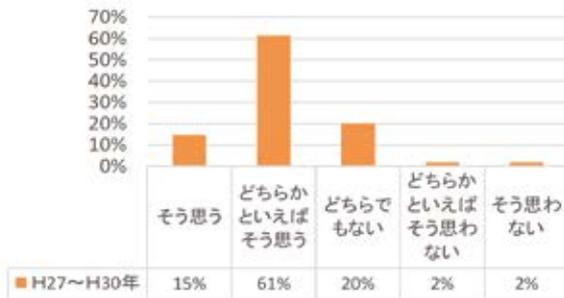
⑤学生はグループワークにおいて回数を重ねることに発言するようになった



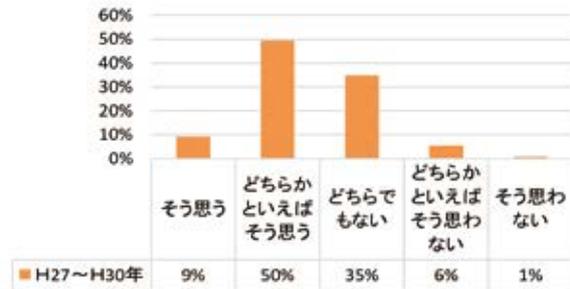
⑥「地域に関心をむける」という授業目標に到達した



⑦「地域の良さに気付く」という授業目標に到達した



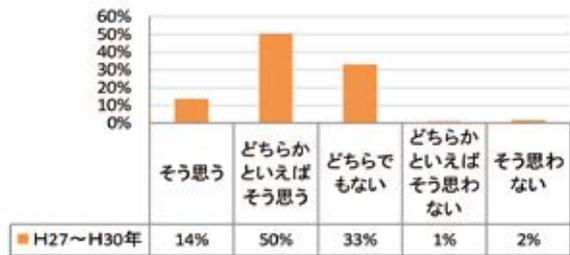
⑧「地域の課題を考える」という授業目標に到達した



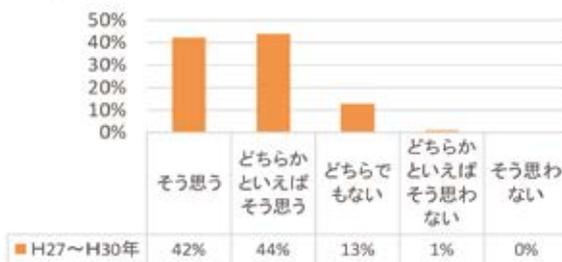
⑨学生は地域で実践活動をする意識を高めた



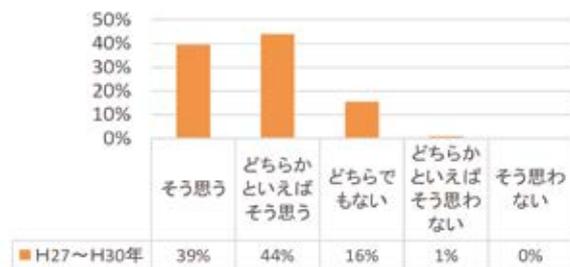
⑩学生は学んだことや考えたことを自分から発言することができるようになった



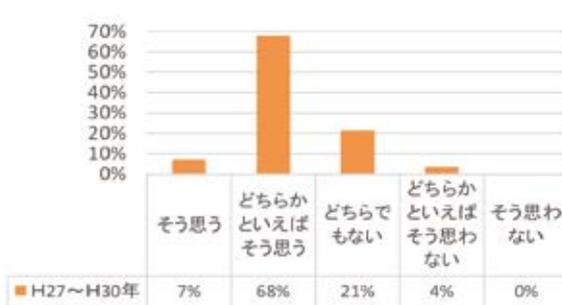
⑪教員自身、授業を通じて他学科・他コースの学生との交流が増えた



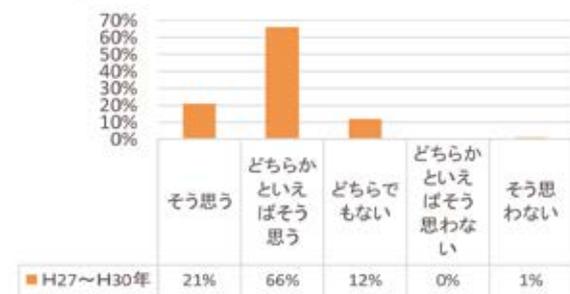
⑫教員自身、授業を通じて他学科・他コースの教員との交流が増えた



⑬学生は地域で活動実践をする意識を高めた



⑭総合的にみてこの授業は評価できるものであった



Ⅱ 本授業で、印象に残ったこと、良かったこと、自分にプラスになることを記述してください。

多彩なゲストティーチャーの話を聴講したことにより、不明確な知識しかなかった地域の現状と課題が鮮明になり、改めて意識的に考えることができた。

他の先生方との協働授業はこれまでなかったので、その活動そのものが新鮮であった。学生はどのように地域に関心をもつかと思ったが、想像以上に関心を示していた。学生の成長を間近で感じることができた。

他学科・コースの学生と交流する機会が少ないので、貴重な事業である。地域との連携では地域の方や関係する機関や団体がこの授業をどのように評価しているかが気になる。

学生にとって、地域を知ると同時に、地域に対し、肯定的な関心を向けることができることがこの授業の目的である。授業そのものも学生にとってやりがいのある達成感のある形になるもの（学習成果）が求められる。短期間でそれを達成するためには、授業のしかけ、授業の進め方の工夫が必要だとも思うが、十分できていないからこそ、反省事項として毎日挙げられる。

一緒に活動していただいた先生方と協力しながら進められたこと。学生は、グループ内でそれぞれ役割を意識しながら前向きに取り組んでいた。1年目(平成27年度)からみると教員側の指導スキルが上がっているように感じる。

Ⅲ 本授業でこうすればもっと良くなること、改善してほしいことを記述してください。

人数が多かったためグループ全体としての取り組みや深まりが難しかった。

ITCによる教育環境が整っているのだから本授業でもっと有効活用する方法を考えてはどうか。

教員同士、積極的に協力して授業に取り組む。

1つのテーマに対して、人数が多すぎると上手く授業を進めることが難しいので、あまりにも多くなるようなら、人数調整を行った方がいいのではないかと思った。

テーマによっては授業開始までにすべて教員がお膳立てをし、1年間の活動が決まっている。前期で評価を出すことを考えれば難しいうえ、入学直後の学生にできるか、さらに次年度に継続できるかはわからないが、前期分をかけて学生たちが取り組むテーマを考え、夏期休暇も含めて活動してみるのもいいのではと思った。

Ⅳ 本授業では、課題解決型学習の方法として、グループワークを試しました。グループワークを体験して、何か意見や感想があれば記述してください。

グループワークに関しては、学生の主体性をできる限り尊重したが、教員がファシリテーターとしてどれほど関わればいいのかもわからなかった。

グループによって、積極的に発言するところとそうでないところの差が結構あったと感じた。そのような差があると、全体で何かしようとする時も、上手くいかないなので、まずは、学生が主体的に活動するような環境作りもしなければならぬと思った。

グループワークを促進させるためには、手順、目的、時間が明確に学生に示されていることが、大事だと思う。また、多様な意見を聞くには、メンバーも多様性が求められる。教員の役割としては、GWの目的とルールの明確化、ある意味の司会役、ファシリテーター役として機能することが必要。留学生については、言葉の理解のためのフォローが必要である。

地域活動における交流の目的をさらに教員間、学生間で共有すること。1年次であり、課題解決型学習は難しい面もあり、より具体的なイメージが持てる交流が良いかもしれない。

Ⅴ 本授業について、感想等、なんでも自由に記述してください。

この授業を通して、「短大全体で学生一人ひとりの教育を行う」「学生が主体となって学修に取り組む事ができる」という雰囲気が醸成されていくことを願っている。

1年間じっくりと取り組むことができた。初年度に比べ、学生、教員も意欲が高まったと思った。

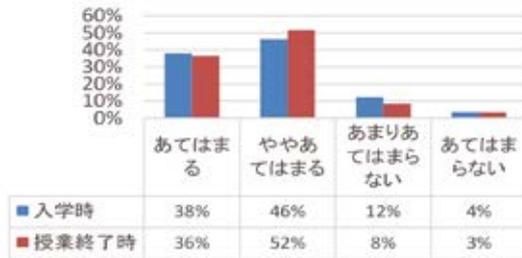
授業を通して学生は、地域について主体的に学び、交流することができることは、良い経験にもなると思う。

熱心に取り組む学生、どう動いてよいかわからない学生、様々でしたが、お互いの存在を認めながらよい雰囲気で授業が展開できた。学生には、まず、地域を知り、関心を持ち、肯定的にとらえることができれば、良いのではないかと思う。また、主体的に考えたり、動いたり、発表したり、プレゼンしたりすることが少しずつできるようになってきているのではないのでしょうか。

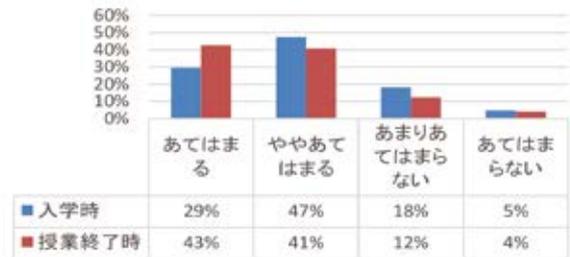
地域志向アンケート

地域志向科目「地域交流実践演習」受講者に対し、入学時、授業終了時に地域への意識変化の調査を行った結果である。(対象 平成29年度及び平成30年度入学生 延べ255名)

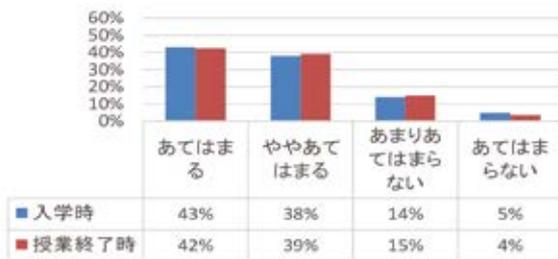
①今治(島しょ部を含む)に関心がありますか



②今治に親しみ(愛着)をもっていますか



③今治地域は住みやすい街だと思いますか



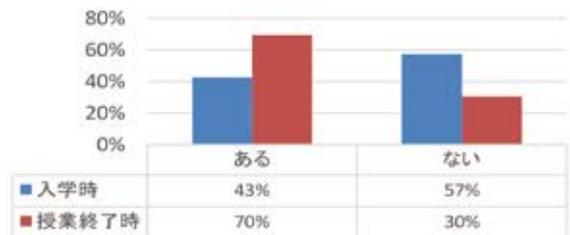
④地域の文化や伝統に関心はありますか



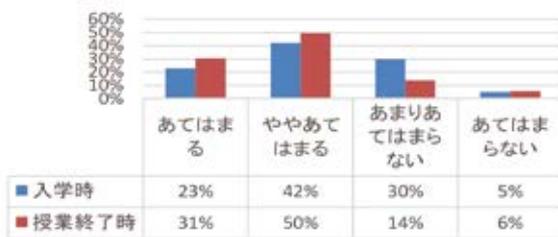
⑤地域活動・ボランティア活動に関心はありますか



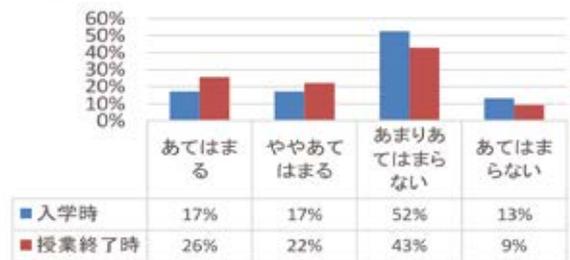
⑥地域活動・ボランティア活動に参加したことはありますか



⑦今後、地域活動・ボランティア活動に参加しようと思っていますか

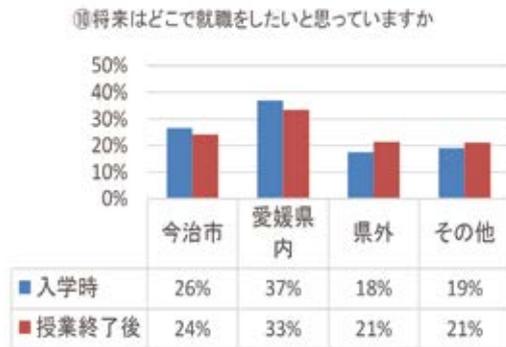


⑧今後、今治地域は変わっていくべきだと思いますか



⑨どのように変わればよいと思いますか (⑧の質問で、あてはまる、ややあてはまると答えた方のみ回答)。

入学時	授業終了後
地域産業の発展(タオルなど)、市内の活性化(商店街など)	交通がもっと便利になった方がよい
若い人が今治で就職し、子育てできる環境が整えばもっと人が集まると思う	もっと市街地の活性化をする
来島大橋、島の活用、イベント開催の効率化を図ること	お年寄りも若者も住みやすい場所が変わっていけばいいと思う



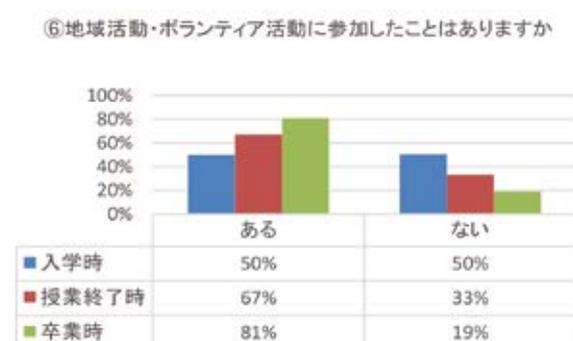
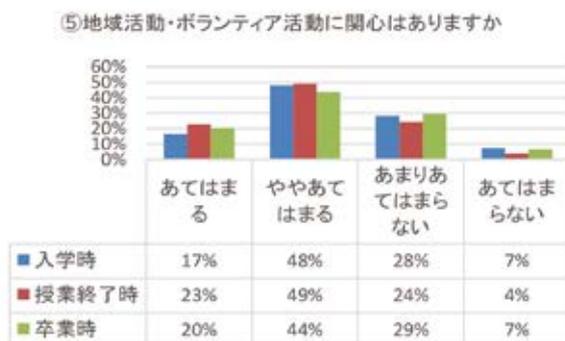
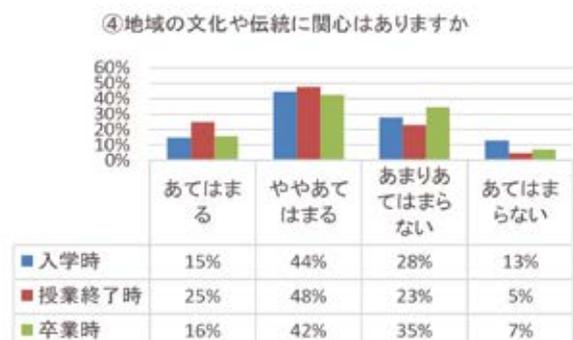
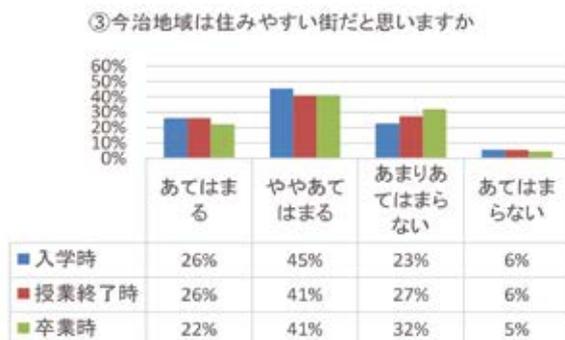
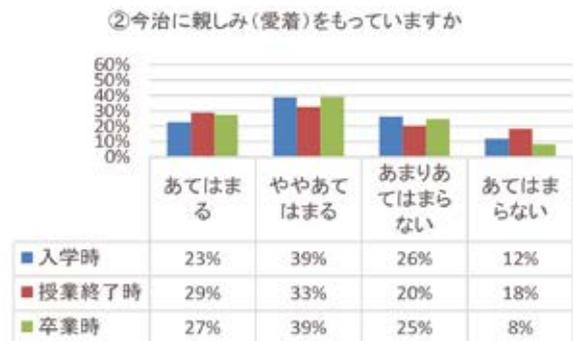
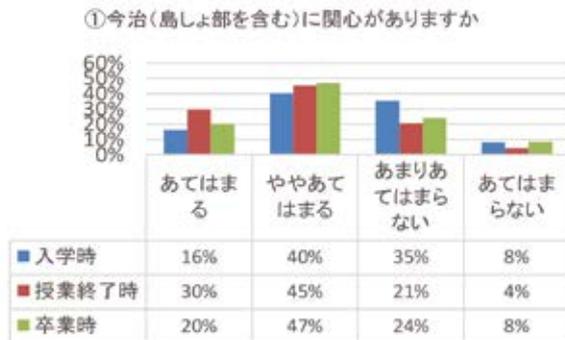
① 地域に望む事はありますか

入学時	授業終了後
若い人の働く場所を増やして活性化してほしい	地域文化発展のために全国的にアピールをする(TV・雑誌・新聞・ラジオ)
交通手段をもっと便利にしてほしい	交通をもっと便利にしてほしい
今治はとても住みやすい町だと思いますが、いろんな世代の人にとって、もっと住みやすい町になってほしい	安全で安心できる街づくりを広げてほしい

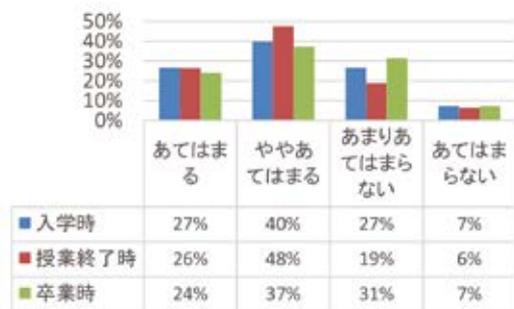
地域志向アンケートまとめ

平成27年度から開講した地域志向科目「地域交流実践演習」受講者に対し、入学時、授業終了時、卒業時に地域への意識変化の調査を行った結果である。

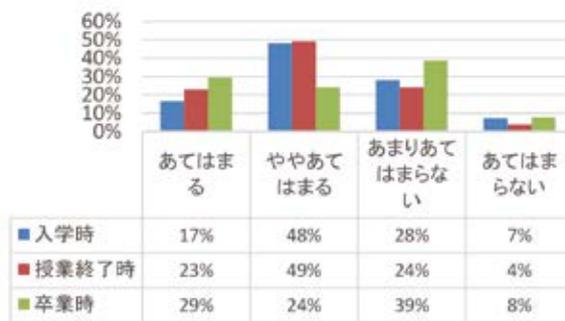
(対象 平成27年度及び平成28年度入学生 延べ208名)



⑦今後、地域活動・ボランティア活動に参加しようと思っ
ていますか



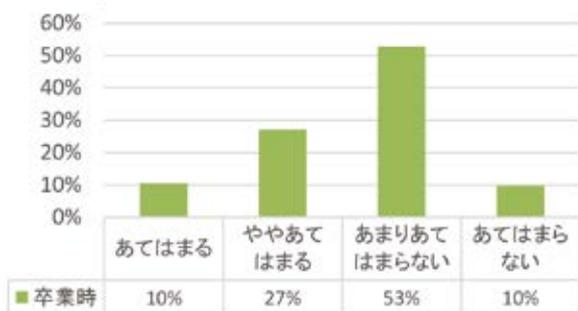
⑧今後、今治地域は変わっていきべきだと思いますか



⑨どのように変わればよいと思いますか（⑧の質問で、あてはまる、ややあてはまると答えた方のみ回答）。

入学時	授業終了後
地域以外の人たちにも魅力を伝える。	交通機関を充実させる（5名）。
町と商店街をもっと活気づける。	若者の活気があふれる若者が住みやすい街へ（4名）。 人が集まるようなイベントを増やせばよいと思う（2名）。

⑩地域志向の学びを通してあなたにとって変化はありましたか。



⑪どのように変化がありましたか

（⑩の質問で当てはまる、ややあてはまると答えた方のみ）

- 今治に興味・関心を持てた
- 今治という地域への愛着度が上がった
- 他の地域の取り組みに関心が向くようになった
- 地域活性化を考えるようになった
- 地域の人と関わる、接する機会が増えた

まとめ

平成27年度から地域志向科目として新設され、学科・コースの枠を越えたグループ編成によるグループワークや地域活動などのアクティブラーニングの手法は、教員にとって戸惑いもあり試行錯誤の授業展開だった。

連携自治体や関係団体、地域との協働による活動は、主担当の教員にとっては調整など難しい面もあった。しかし、5年間の活動の中で地域とのつながりもでき、連携自治体からの講師派遣などの連携体制もできはじめている。

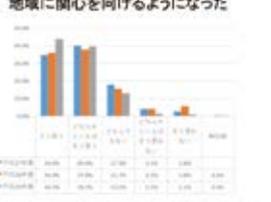
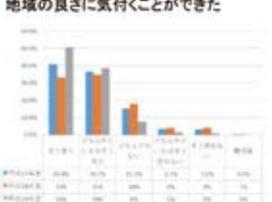
授業を通して、他学科・他コースの学生や教員との交流も生まれ、教員間での学生の指導方法などの相談や情報共有ができるようになったなど、教員間の交流が広がりを見せている。

学生にとっては短期大学という2年間の授業や資格取得の勉強に加え、休日などでの地域活動の時間配分が難しかったようである。地域のゲスト講師の講話や地域活動を通じた地域の方との交流は、「地域を知る」、「地域に関心を向ける」という意味では、成果があったとアンケートからも伺える。COC事業の一環としての授業は終わるが、COC事業の精神を引き続き、今後どのように授業運営をしていくかが課題である。

しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり

地域交流実践演習 実施実践報告

本学では、平成27年度入学生より地域志向科目「地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ」(必修)を新設。
 活動③歴史文化の集積と発信活動、活動④文化の継承を老から幼へ活動、活動⑥鳥しょ部の地域開発について学科・コースの枠を超えたグループを編成し、地域志向を深める授業に取り組んだ。

目的																															
地域やそこに生きる人々との交流を通して、地域における取り組むべき課題に気づき、自らその解決に向けて考え、実践態度を培う。																															
地域交流実践演習終了時の達成目標	テーマ																														
1 地域の人々との交流を通して、地域に関心を持つことができる 2 地域の人々との交流を通して、地域の良さをあげることができる 3 グループワークや地域の人々との交流を通して、積極的にコミュニケーションをとることができる 4 主体性をもって実践的に地域と関わることができる 5 実践を通して、地域における課題を自ら考えることができる 6 実践を通して学んだことを適切な方法で発信することができる	<table border="1"> <thead> <tr> <th>中心市街地活性化</th> <th>文化の継承 (おへんろ)</th> <th>文化の継承 (玉川)</th> <th>文化の継承 (料理)</th> <th>観光 (鳥とサイクリング)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5"> 中心市街地活性化 前期：今治市職員による市街地の現状の講話、取材の店舗の準備、商店街視察 (商店街組合長の講話)、前期報告会 後期：市街地調査、MAP 作成、報告会 商店街の店舗では、商店街に来ないと買えない、また創業が古い、独自の商品を開発するなどの努力をしているお店もあった  </td> </tr> <tr> <td colspan="5"> 文化の継承 (おへんろ) 前期：札所住職の講話とへんろ道体験、前期報告会 後期：へんろ道クリーンウォーク、報告会 今治市内の6か寺について、それぞれのご住職からお寺の由来、おへんろについての決まりごと、巡礼の基礎知識を学ぶことができた  </td> </tr> <tr> <td colspan="5"> 文化の継承 (玉川) 前期：今治市社会福祉協議会職員による講話、ふれあい茶屋活動、前期報告会 後期：ワラシ制作、グルメマラソンにお接待参加、報告会 玉川の良さを知ることができた。地域の行事に参加することで、地域の方と交流ができ、コミュニケーション能力の向上ができた  </td> </tr> <tr> <td colspan="5"> 文化の継承 (料理) 前期：郷土料理実習、前期報告会 後期：出身地の料理試作実習、報告会 ゲスト講師から郷土料理を学び、興味や関心を持つことができた。学んだ郷土料理を家族に作ってみようと思った。留学生に中国、ベトナムの郷土料理を教えてもらうことができた  </td> </tr> <tr> <td colspan="5"> 観光 (鳥とサイクリング) 前期：サイクリングターミナル糸山で支配人による講話、現地調査、前期報告会 後期：サイクリング調査、MAP 作成、報告会 地域の方々にインタビューし、交流する楽しさを感じることができた。みんなと協力して地図を作成し、達成感を味わうことができた  </td> </tr> </tbody> </table>	中心市街地活性化	文化の継承 (おへんろ)	文化の継承 (玉川)	文化の継承 (料理)	観光 (鳥とサイクリング)	中心市街地活性化 前期：今治市職員による市街地の現状の講話、取材の店舗の準備、商店街視察 (商店街組合長の講話)、前期報告会 後期：市街地調査、MAP 作成、報告会 商店街の店舗では、商店街に来ないと買えない、また創業が古い、独自の商品を開発するなどの努力をしているお店もあった 					文化の継承 (おへんろ) 前期：札所住職の講話とへんろ道体験、前期報告会 後期：へんろ道クリーンウォーク、報告会 今治市内の6か寺について、それぞれのご住職からお寺の由来、おへんろについての決まりごと、巡礼の基礎知識を学ぶことができた 					文化の継承 (玉川) 前期：今治市社会福祉協議会職員による講話、ふれあい茶屋活動、前期報告会 後期：ワラシ制作、グルメマラソンにお接待参加、報告会 玉川の良さを知ることができた。地域の行事に参加することで、地域の方と交流ができ、コミュニケーション能力の向上ができた 					文化の継承 (料理) 前期：郷土料理実習、前期報告会 後期：出身地の料理試作実習、報告会 ゲスト講師から郷土料理を学び、興味や関心を持つことができた。学んだ郷土料理を家族に作ってみようと思った。留学生に中国、ベトナムの郷土料理を教えてもらうことができた 					観光 (鳥とサイクリング) 前期：サイクリングターミナル糸山で支配人による講話、現地調査、前期報告会 後期：サイクリング調査、MAP 作成、報告会 地域の方々にインタビューし、交流する楽しさを感じることができた。みんなと協力して地図を作成し、達成感を味わうことができた 				
中心市街地活性化	文化の継承 (おへんろ)	文化の継承 (玉川)	文化の継承 (料理)	観光 (鳥とサイクリング)																											
中心市街地活性化 前期：今治市職員による市街地の現状の講話、取材の店舗の準備、商店街視察 (商店街組合長の講話)、前期報告会 後期：市街地調査、MAP 作成、報告会 商店街の店舗では、商店街に来ないと買えない、また創業が古い、独自の商品を開発するなどの努力をしているお店もあった 																															
文化の継承 (おへんろ) 前期：札所住職の講話とへんろ道体験、前期報告会 後期：へんろ道クリーンウォーク、報告会 今治市内の6か寺について、それぞれのご住職からお寺の由来、おへんろについての決まりごと、巡礼の基礎知識を学ぶことができた 																															
文化の継承 (玉川) 前期：今治市社会福祉協議会職員による講話、ふれあい茶屋活動、前期報告会 後期：ワラシ制作、グルメマラソンにお接待参加、報告会 玉川の良さを知ることができた。地域の行事に参加することで、地域の方と交流ができ、コミュニケーション能力の向上ができた 																															
文化の継承 (料理) 前期：郷土料理実習、前期報告会 後期：出身地の料理試作実習、報告会 ゲスト講師から郷土料理を学び、興味や関心を持つことができた。学んだ郷土料理を家族に作ってみようと思った。留学生に中国、ベトナムの郷土料理を教えてもらうことができた 																															
観光 (鳥とサイクリング) 前期：サイクリングターミナル糸山で支配人による講話、現地調査、前期報告会 後期：サイクリング調査、MAP 作成、報告会 地域の方々にインタビューし、交流する楽しさを感じることができた。みんなと協力して地図を作成し、達成感を味わうことができた 																															
地域志向・授業アンケート																															
地域に関心を向けるようになった 	地域の良さに気付くことができた 																														
地域の課題を自ら考えることができた 	学んだことや考えたことを自分から発言できるようになった 																														
連携自治体・関係団体等 	学科・コース 																														

学生の意識変化	地域交流実践演習の授業を通して、印象に残ったこと、良かったこと、自分にプラスになったこと
	地域や地域の現状について知ることができ、地域の活動に目が向くようになった
	普段ではあまりできない人前に立って発表することで、少し自分に自信がついたことと良い経験になった
	今治地域の取り組みなど聞いて関心を持つことができ、もっと知りたいと思うようになった。そしてそのように積極的に取り組みたいと思った

教員の意識変化	地域交流実践演習の授業を通して、印象に残ったこと、良かったこと、自分にプラスになったこと
	学生が学生なりに考えて授業に取り組む事ができており、他学科の学生とも交流を深めることが良かったと思った
	多彩なゲストティーチャーの話を聴講したことにより、不明確な知識しかなかったが、地域の現状と課題が鮮明になり、改めて意識的に考えることができた
	地域に生きる教員として、学生とともに意欲をもって前向きに地域とかかわる気持ちになれた。まずは、教員として、学生にモデルを示すことができるようになりたい

4-2-1 ふれあいの場（地域の子育て広場）活動 平成29年度 幼児教育学科

課題と目的

「今治市子ども子育て支援会議」による子育て中の保護者へのニーズ調査の結果、「親子が安心して集まれる公園等の施設の整備」が行政への要望の上位となっている。こうしたニーズを踏まえ、子育て中の親が抱える悩みなどの解決の場として、地域の子育て広場「めいたんパーク」を定期的に開催する。

回数	開催日	内容	参加者(A)	参加者(B)	参加者(C)	参加者(D)	参加者(E)
1	4月18日(水)	ふれあい遊び	18	16	2	0	3
2	4月25日(水)	こま回し・折り紙の製作	22	20	2	0	1
3	5月9日(水)	遊具の点検	12	11	1	0	0
4	5月16日(水)	絵本	9	7	2	0	0
5	5月23日(水)	お絵かき	29	26	3	0	4
6	5月30日(水)	ふれあいの遊び	22	19	3	0	3
7	6月6日(水)	お絵かき	27	29	2	0	3
8	6月13日(水)	動物園	19	20	0	0	3
9	6月20日(水)	ひまわり作り	30	27	3	0	3
10	6月27日(水)	絵本	32	31	1	0	4
11	7月4日(水)	クッキング	14	12	2	0	0
12	7月11日(水)	こま回し	46	49	4	0	10
13	7月18日(水)	七夕	25	21	4	0	9
14	8月5日(水)	サーキット	20	24	2	0	3
15	8月12日(水)	お絵かき	32	28	4	0	2
16	8月19日(水)	新聞	32	28	4	0	5
17	8月26日(水)	絵本の読み聞かせ	29	25	4	0	4
18	9月2日(水)	絵本	36	32	4	0	3
19	9月9日(水)	サーキット	34	32	2	0	6
20	9月16日(水)	お絵かき	29	26	4	0	5
21	9月23日(水)	お絵かき	43	38	5	0	7
22	10月7日(水)	クッキング	21	17	4	0	0
23	10月14日(水)	サーキット	35	27	8	0	0
24	10月21日(水)	新聞	33	29	4	0	0
☆	12月9日(水)	学生祭					
☆	12月16日(水)	学生祭					
25	12月23日(水)	サーキット	30	26	4	0	0
26	12月30日(水)	新聞	30	22	8	0	0
27	1月6日(水)	お絵かき	31	28	3	0	6
28	1月13日(水)	絵本	48	40	8	0	5
29	1月20日(水)	お絵かき	41	31	10	0	3
30	2月3日(水)	新聞	37	31	6	0	2
31	2月10日(水)	サーキット	40	39	1	0	4
32	2月17日(水)	新聞	40	32	8	0	4
33	2月24日(水)	お絵かき	60	48	12	0	3
		合計	1617	876			
		内訳	1892				

地域の子育て広場「めいたんパーク」

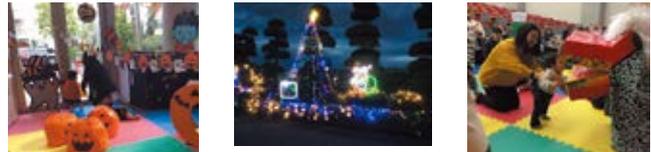
地域の親子対象に学生による手遊びや絵本の読み聞かせ、紙芝居等のプログラム「楽しい遊び講座」を実施しています。

地域の子育て広場「めいたんパーク」活動の様子

児童館職員指導によるプログラム



季節のイベント



子育て相談



学生祭



学生発表交歓会



学生によるプログラム



成果

教育

イベント型の「めいたんパーク」では、今治市児童館職員の専門的・実践的な指導を受けながら遊びを中心とした子育て広場の運営方法を学んでいる。その学びを12月に学生プログラムとして実施することで、学生自身が主体的に企画運営に取り組む事ができた。めいたんパークの活動をはじめ、幼児教育学科における地域での学びをカリキュラムに位置づけることを検討し平成30年度入学生より「地域と子育て支援Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を必修科目として開講する。

社会貢献

「めいたんパーク」に参加した保護者から、「ふれあい遊びや工作など家庭での遊びの幅が広がった。」「子どもとゆっくり向き合える時間が増えた。」などのコメントがあり、安心して楽しく遊ぶことのできる場を提供することができたと考えられる。

今後の課題及び展開

教育

COC事業終了後を見据え、さらに学生の学びにつなげるよう、学科・コースの枠を超え、本学全体の取り組みとして子育て支援の課題を捉えていく視点を持ち、実現可能な回数及び具体的な活動に結び付ける。

社会貢献

今後も長期的に地域のニーズに応じた子育て支援広場を継続して行く。地域に本学の活動の内容及び成果を周知していく。

平成30年度 幼児教育学科

課題と目的

「今治市子ども子育て支援会議」による子育て中の保護者へのニーズ調査の結果、「親子が安心して集まれる公園等の施設の整備」が行政への要望の上位となっている。こうしたニーズを踏まえ、子育て中の親が抱える悩みなどの解決の場として、地域の子育て広場「めいたんパーク」を定期的に開催する。

回数	開催日	内容	幼児(人)	大人(人)	2人連れ(組)	3人連れ(組)	新規(人)
1	4月17日(火)	ふれあい遊び	26	23	3	0	8
2	4月24日(火)	こいり作り	26	24	2	0	4
3	5月15日(火)	お豆腐さんごっこ	35	30	5	0	15
4	5月22日(火)	さつまいもの収穫会	32	29	3	0	6
5	5月29日(火)	親子で食育	43	39	4	0	6
6	6月12日(火)	動物園ごっこ	47	41	6	0	13
7	6月19日(火)	おもちゃ工作	29	24	5	0	6
8	7月3日(火)	色水あそび・水やり	43	38	5	0	14
9	7月10日(火)	調理クラブ	19	18	1	0	0
10	8月4日(火)	プレゼント作り (台風のため中止)	0	0	0	0	0
11	8月11日(火)	お豆腐さんごっこ プレゼント作り	36	30	6	0	3
12	10月2日(火)	新聞紙遊び	53	49	4	0	6
13	10月16日(火)	パワフィン工作	42	38	4	0	10
14	10月23日(火)	いもほり	60	54	6	0	8
15	11月20日(火)	スイーツクラブ	28	27	1	0	0
16	11月27日(火)	やさいも	46	38	2	0	1
17	12月4日(火)	クリスマスグッズ作り	29	27	2	0	2
18	12月11日(土)	学生プログラム	28	25	2	0	2
19	12月18日(日)	学生プログラム	29	26	3	0	6
20	1月22日(火)	スカーフあそび	22	19	3	0	0
21	1月29日(火)	節分	23	22	1	0	0
22	2月5日(火)	楽器作り・リズム遊び	28	23	2	0	7
23	2月26日(火)	動物園ごっこ	46	37	3	0	8
24	3月5日(火)	お豆腐さんごっこ	37	33	4	0	4
小計			792	714			
合計			1506				

地域の子育て広場「めいたんパーク」

地域の親子対象に学生による手遊びや絵本の読み聞かせ、紙芝居等のプログラム「楽しい遊び講座」を実施しています。

地域の子育て広場「めいたんパーク」活動の様子

児童館職員指導によるプログラム



季節のイベント



子育て相談



学生祭



学生発表交歓会



学生によるプログラム



成果

教育

平成30年度入学生より、「地域の子育て支援Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を必修科目とした。その授業の一環として「めいたんパーク」を開催している。12月には学生プログラムとして学生自身が主体的に企画運営に取り組む事ができた。卒業生へのアンケートを行った結果、「めいたんパーク」での学びは、保育者として子ども・保護者との対応に役立っていることがわかった。

社会貢献

5年目を迎えた「めいたんパーク」は、月平均35組の親子が参加している。特に、季節のイベントなどに多くの参加をいただき、地域の未就園児の保護者に地域の子育て支援広場として定着している。

今後の課題及び展開

教育

COC事業終了後は大学で学んだ知識と技術をもとに遊び場を提供する「めいたん広場」を「地域と子育て支援」の授業の一環として年4回実施する。

社会貢献

今治市子育て支援課、健康推進課との連携による「子育て講座」を「めいたん広場」と同時に開催する。また、今治市の児童館職員による「おでかけ児童館」を年4回実施する。

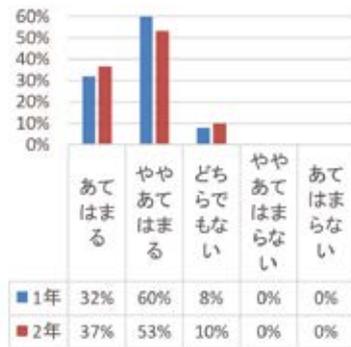
めいたんパーク学生アンケート

平成30年 3月実施

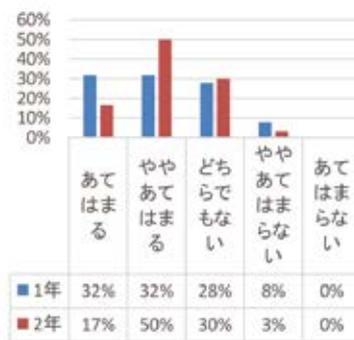
1年	2年	計	男	女	計
25人	30人	55人	3人	52人	55人

参加者数									
0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
1人	1人	1人	0人	0人	0人	23人	0人	0人	1人
10回	11回	12回	13回	14回	15回	16回	未記入	計	
1人	18人	3人	1人	0人	0人	2人	3人	55人	

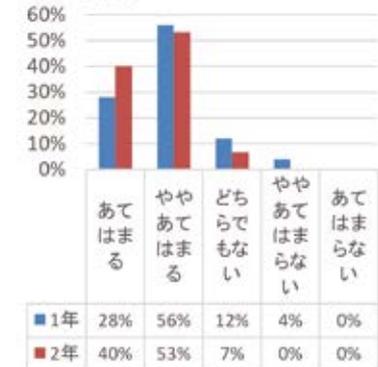
子どもと主体的に関わることができていますか。



保護者と主体的に関わることができていますか。



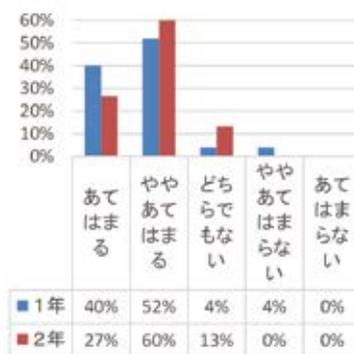
一人ひとりに合わせたかかわり方を学ぶことができた。



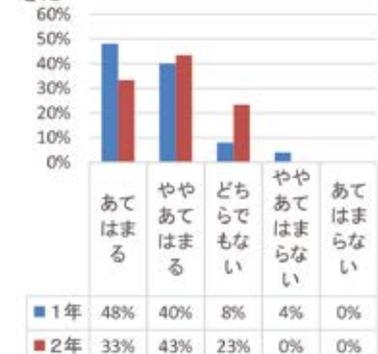
親子とともに楽しむことができた



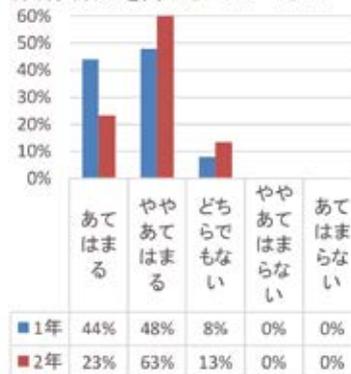
安心して過ごせる環境づくりができた



コミュニケーション能力を高めることができた



保育実践力を高めることができた



めいたんパークへの参画により、どのような子育て支援の専門性が高まるとお考えですか。

地域と連携したり、地域の人との見守り、安全に子育てできる支援につながる。

保護者と直接会話することができるため、親子支援の場での適切な接し方が身に付くと感じた。

実践することができるのでコミュニケーションの能力を高めたり、遊びを展開することで、こどもの興味の対象を学べる。

学生主体のめいたんパークの取り組みとして、どのようなことをすると良いと思いますか。

季節にあったものを取り入れて、成長を促してプログラムを考える。

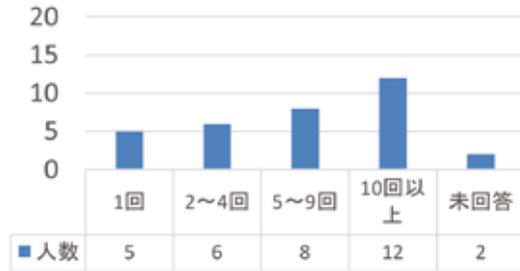
学生が考えて自分たちの保育を形にできること。子どもと関わる実践が増える。

めいたんパーク利用者（保護者）アンケート

平成31年1・2月実施

参加家庭数 33名 回答者数 33名 回答率 100%
お住まいの地域：今治市 33名

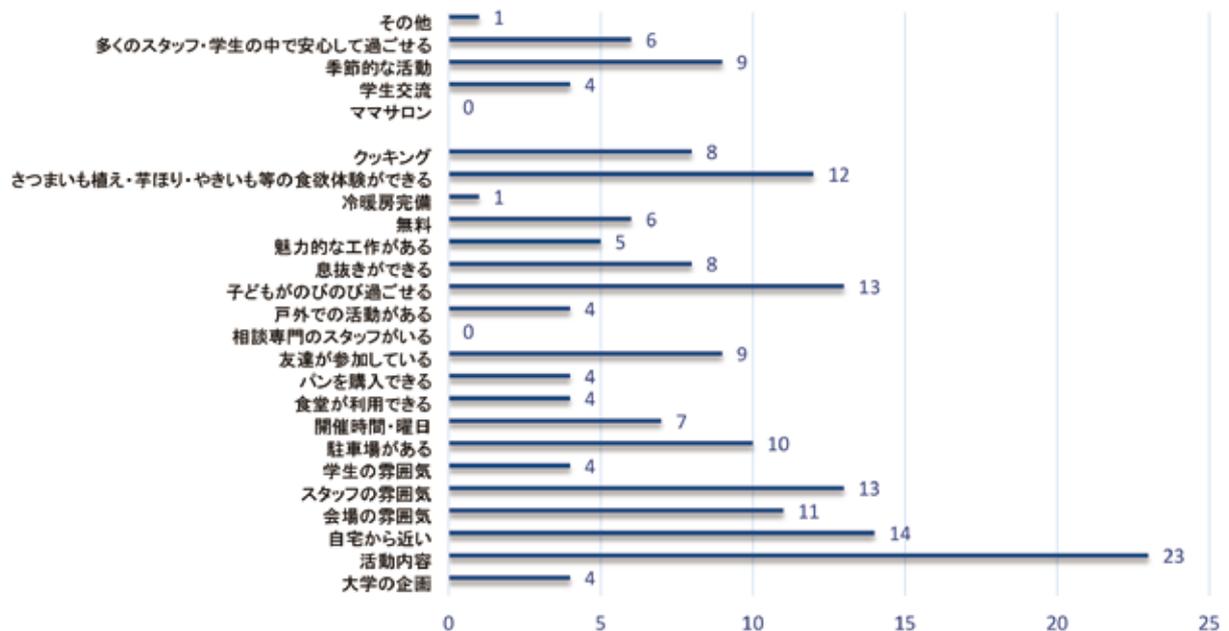
・平成30年度「めいたんパーク」の参加回数は



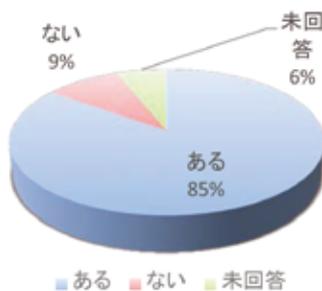
・「めいたんパーク」を知ったきっかけは何ですか



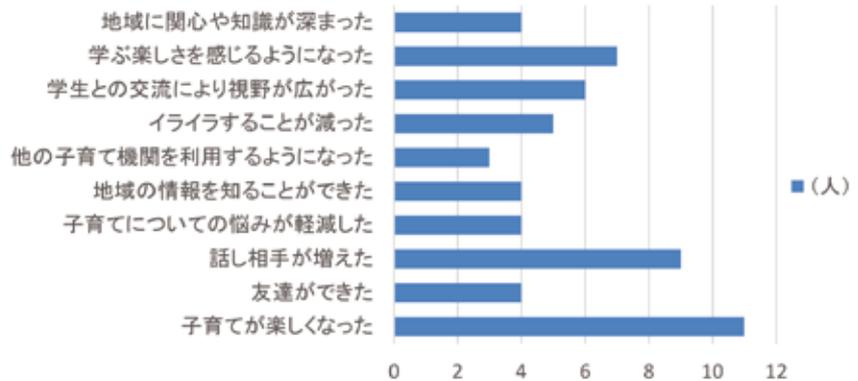
・「めいたんパーク」に遊びに来る決め手は何ですか



・「めいたんパーク」に参加してあなた自身や子育てに何か変化はありましたか



・「ある」に、○をつけた方にお聞きます。当てはまる項目の記号に○をつけてください



めいたんパークについてご意見・ご感想があればお願いします。

いつも、子どもがのびのび遊ぶ場を作ってくださいありがとうございます。

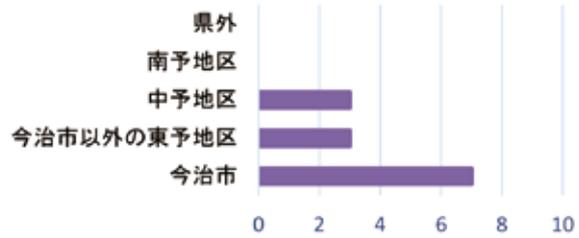
学生の方など普段触れあうことのできない人たちと一緒に遊んでもらって、本人も刺激になっていると思います。

幼児教育学科 卒業生アンケート

平成31年2月実施
 回答者 13名

1. 勤務地

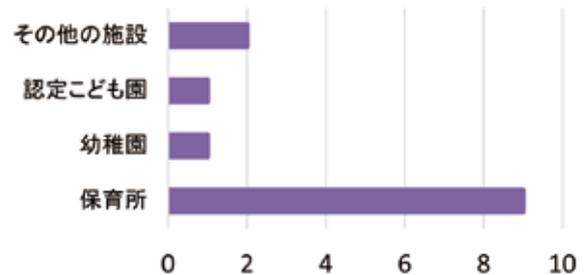
今治市	7
今治市以外の東予地区	3
中予地区	3
南予地区	0
県外	0
合計	13



	今治市	今治市以外の東予地区	中予地区	南予地区	県外
人数	7	3	3	0	0

2. 勤務場所

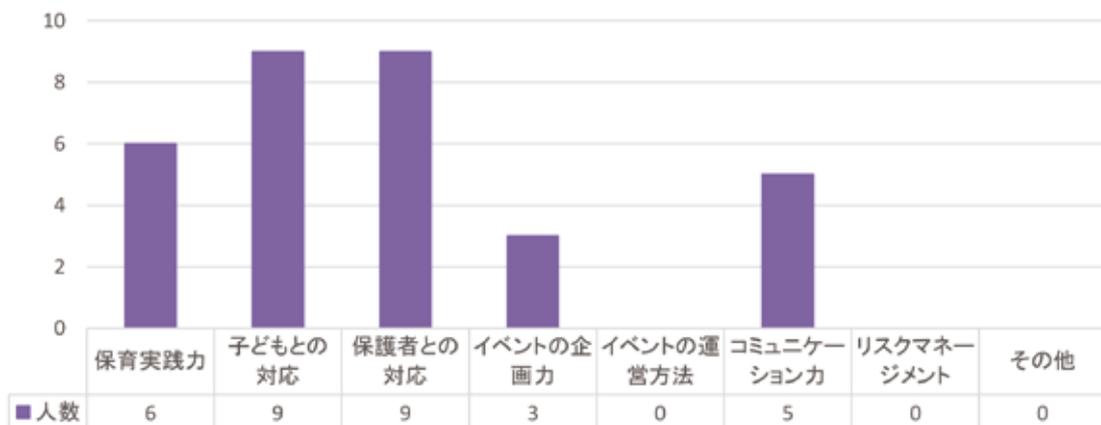
保育所	9
幼稚園	1
認定こども園	1
その他の施設	2
合計	13



	保育所	幼稚園	認定こども園	その他の施設
人数	9	1	1	2

※その他: 福祉型児童入所施設
 児童館

3. めいたんパークを経験してどんな事が今の仕事に役立っていますか。



4. めいたんパークについてご意見・ご感想があればお願いします。

今治の子どもたちの遊び場として普及していくと良いなと思う。(めいたんパークでは) 子どもに触れられるので学生にも良い経験になった。その中でも保護者の対応が特に役立つかなと思う。

学生にとっても、地域の親子にとっても役立つ活動だと思う。

めいたんパークは、子どもだけでなく保護者の方とも関わられて、来てもらう側にとっても行く側にとってもよい機会だと思う。

4-2-2 児童・障がい者・高齢者共同学びの場活動

平成29年度 幼児教育学科

課題と目的

主にめいたんパークに参加する親子や学生が核家族化が進む中で、ふれあう機会が減少している高齢者や障がい者への理解を深める場として「お互いを知る」機会を設けるとともに、地域の方々に本学の取り組みを理解し参加することで、地域に根ざした大学として活動していることを知っていただくことを目的とする。

子どものための食育講座

- 5月9日(火)・5月30日(火) 10:30~11:30

夏野菜(きゅうり・トマト)、さつまいもの苗植え体験

子どもたちは、お兄さん、お姉さんに野菜の苗の植え方を教えてもらい、スコップや手で土をかぶせながら「おおきくなってね。」と声をかけ水やりを行った。



- 7月4日(火) 10:30~11:30 親子12組が参加

めいたんクッキング 地域連携活動(幼児教育学科・調理師専修科・JA おちいまばり)

「ひじきご飯」、「煮物」、「お汁(すいとん風)」、「オレンジゼリー」

JA おちいまばり乃万女性部の方々と地域の郷土料理を調理した。

料理をしている間、幼児教育学科の学生は、子どもたちと託児場所で、手遊びや絵本の読み聞かせをしながら楽しい時間を過ごした。

- 11月21日(火) 10:30~11:30 親子19組が参加

めいたんクッキング 地域連携活動(幼児教育学科・ライフデザイン学科スイーツ・カフェコース・JA おちいまばり)「さつまいものクッキー」、「さつまいもとリンゴのオレンジ煮」、「さつまいもとパイナップルの茶巾しぼり」

学園内の畑で収穫したさつまいもなどを使ってJA おちいまばり乃万女性部の方々と菓子作りをした。試食会も実施し、会話を楽しみながらゆっくりと触れ合う時間を設けた。

認定子ども園、障害者支援施設などの訪問

- 1月18日(木)、1月25日(木)、1月26日(金)

認定子ども園、児童館、障害者支援施設2か所など合計4か所を訪問した。絵本の読み聞かせや「変身トンネル」のパネルシアター、「はらぺこあおむし」などの歌唱つきパネルシアターを披露した。

活動の様子



成果

教育

障害者施設では、特に手遊びが好評であったことから、学生は自分達の学習の成果を活かせる場所は、子どもの施設だけではないということが認識できた。このことは、彼らの自信や意欲向上につながった。保育士資格、児童厚生員資格等の養成課程において学んだ子どもの育ちを支援する手法やスキルは、地域とつながっていくための技術として有効であることが確認された。

社会貢献

子どもと地域の高齢者との世代間交流を図る場を持つことができ、大学と関係団体との構築も図ることができた。

今後の課題及び展開

教育

学生は、子どもたちと関わる専門職としての資格取得を目指しているが、高齢者や障がい者との関わりを持つことにより、福祉専門職としての視野拡大、技術・経験の拡充が期待される。今後は、相互理解を深めていくための知識、技術等を学ぶ機会を増やし、質の高い専門職を養成することを課題としたい。

社会貢献

障がい者との交流を継続し、子ども、高齢者、障がい者それぞれへの理解と共生の一步としての交流の場について検討していく。

平成30年度 幼児教育学科

課題と目的

主にめいたんパークに参加する親子や学生が核家族化が進む中で、ふれあう機会が減少している高齢者や障がい者への理解を深める場として「お互いを知る」機会を設けるとともに、地域の方々に本学の取り組みを知っていただき参加していただくことで、地域に根ざした大学として活動していることを知っていただくことを目的とする。

子どものための食育講座

- ・ 5月22日(火) 10:30~11:30 さつまいもの苗植え体験
 子どもたちは、お兄さん、お姉さんたちと一緒にさつまいもの苗の植えを行い、スコップや手でそっと土をかぶせながら、収穫を楽しみに水やりを行った。
- ・ 7月10日(火) 10:30~11:30 親子19組が参加
 めいたんクッキング 地域連携活動(幼児教育学科・調理師専修科・JA おちいまばり)「カラフル散らしずし」、「野菜スープ」、「みかんゼリー」をJAおちいまばり乃万女性部の方々と調理した。
- ・ 11月20日(火) 10:30~11:30 親子30組が参加
 めいたんクッキング 地域連携活動(幼児教育学科・ライフデザイン学科スイーツ・カフェコース・JA おちいまばり)「さつまいものたまごボーロ」、「もちもちさつまいも」、「スイートポテト」、「さつまいものオレンジ煮」、「さつまいものポタージュスープ」のお菓子のレシピを学生が考え、JA おちいまばり女性部の方々と作った。



保育所、障害者支援施設などの訪問

- ・ 12月21日(金) 9:00~12:00
 今治市立別宮保育所 園児91名、地域の高齢者21名、幼児教育学科学生8名
 発泡スチロール板に動物を描き制作した「てぶくろ」と手遊びを披露した。
- ・ 1月18日(金) 15:10~16:10 今治福祉園 1月29日(火) 9:30~10:30 今治育成園
 幼児教育学科2年生の有志(社会人4名)で、これまでに授業の中で作成し、図書館等でも実践した経験の中から、「歌遊び、パネルシアター、影絵」を今治福祉園、今治育成園を訪問して披露し、利用者の方々と交流をさせていただいた。

活動の様子



成果

教育

学生が子どもに一人ひとりに思いやりのある声掛けをし、乳幼児と触れ合いをする微笑ましい光景が見られた。地域の多様な体験活動の機会に参加することにより学生自身が学びを深め、地域との交流する大切さを学ぶことができた。

障害者施設では、「利用者の方が一緒に口ずさんでいた」「利用者の方がしっかり見ていたので、園でも実践を取り入れたい」という高評価をいただいた。

社会貢献

保育所の子ども、保育士、地域の高齢者、世代間交流のクリスマス会行事に参加することにより、多様な関わりを学ぶことができた。子どもへの支援を目的とした知識や技術が成人の方々にも喜んでいただけたことで、学生たちは保育士としての社会貢献の可能性の拡大を展望できた様子だった。

今後の課題及び展開

教育

社会福祉専門職として、地域福祉推進を視野に入れた活動が計画、実施できる人材を育てるため、知識の充実はもとより、地域住民とのふれあいや協働を通じた学びを重ねる必要がある。地域との相互交流の機会を増やし、情報を共有しながら、地域の課題について保育士ができることを確実にとらえるスキルを身につけるための指導をしてきたい。

社会貢献

地域活動やボランティア意識を高めより積極的に地域への連携や協働を進めて行きたい。障害者施設、高齢者施設への訪問活動等の継続を出発点に、相互交流をめざし保育士養成施設が担う地域福祉活動を模索、実施する。

しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり 幼児教育学科 実施実践報

幼児教育学科では、地域に根ざし、地域に貢献する人材の育成輩出と「知の共有」と「社会還元」を目的として、主に今治市子育て支援課と連携して地域課題である **課題①子育て支援の場(地)の提供** について、**<事業1>ふれあいの場 共同学びの場事業**を展開しています。

活動①ふれあいの場(地域の子育て広場)活動 活動②児童・障がい者・高齢者の共同学びの場活動

めいたんパーク

保育士・幼稚園教諭・児童厚生員を養成する本学で実施する、親子のふれあいの場、共同学びの場事業です。毎回、学生によるプログラムや外部講師によるふれあい遊び・乳幼児遊びの講座を行います。学生と地域の親子と一緒に楽しみながら共に学び合うことを目的としています。

教育	社会貢献
大学で行う地域の子育て広場	子育て中のお母さんたちの交流の場
学生のコミュニケーション力の向上	親子が安心して集まれる場
学生の学習、実践、発表の場	地域の子育て情報交換の場

地域の子育て広場「めいたんパーク」活動の様子 地域志向科目「子育て支援Ⅰ・Ⅱ」「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」



児童館職員指導による季節のプログラム
お正月あそび

季節のプログラム
ハロウィン

学生プログラム



森育



育児相談



学生発表交流会

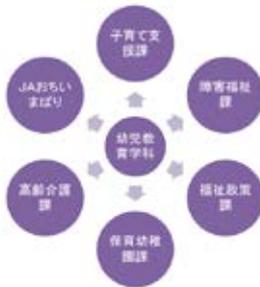


夏野菜(きゅうり・トマト)、サツマイモの苗植え体験



サツマイモ収穫体験

自治体等の連携体制



めいたんパーク実施状況

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	計
開催月	10月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～3月	
回数	15回	36回	38回	33回	23回	145回
幼児	158人	1,061人	1,164人	1,017人	792人	4,192人
大人	136人	888人	936人	875人	714人	3,549人
計	294人	1,949人	2,100人	1,892人	1,509人	7,741人
幼児平均人数	11人	29人	31人	31人	34人	29人
大人平均人数	9人	25人	25人	27人	31人	24人

平成30年度 幼児教育学科 地域志向科目

1年	2年
地域と子育て支援Ⅰ・Ⅱ	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	地域福祉論
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ

【幼児教育学科 ディプロマ・ポリシー】

学科の教育目的・目標に基づいて開設される教育課程の科目を修め、学期に定める成績評価に基づき、卒業に必要な単位を修得し、かつ、幼稚園教諭・保育士としての専門的な知識及び技術、多様なニーズに対応できる保育実践力、また、主体性をもち他と協働しつつ地域社会に貢献できる資質を身につけた者に対して短期大学士の学位(教育学)を授与する。

【カリキュラム・ポリシー】

- (1) 幼児教育・保育教育に関する教育課程を編成し、幼稚園教諭・保育士として必要な専門的知識と技能の修得を目指す。
- (2) 幼児教育・保育に関する教育課程を編成し、幼稚園教諭・保育士として必要な思考力・判断力・表現力及び保育実践力の涵養を目指す。
- (3) 幼児教育・保育に関する教育課程を編成し、幼稚園教諭・保育士として地域社会で主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度の涵養を目指す。



調理師専修科連携活動



スイーツカフェコース連携活動



めいたんクッキング JAおちいまばり乃万支部女性部連携活動



障害者就労支援作業所くらむハート利用者によるパンの販売



高齢者とのふれあい活動(グランドゴルフ)



障害者支援施設訪問

めいたんパークを通して学生の声

- 子どもの発達を理解、絵本など少しの時間でできるような遊びの技術、知識が必要だと思った。
- 子どもと関わることで、一人ひとりの発達に応じた対応、援助が必要であると感じた。
- 保護者と関わることで、話を聞くだけでも保護者の助けになることがわかった。
- 子育てに関して保護者の不安や子どもに対する望みを直接聞き、より親子に寄り添えるようになると子育ての専門性が高まると思った。
- 子どもだけではなく、親子が見れるので、その場の対応や様子が見れる。言葉では解決できない支援ができる。
- 外部講師からは、私たちが思いつかないようなアイデアや工夫を学ぶことができた。
- 参加者への説明のわかりやすさ、接し方を学ぶことができた。

4-3-1 『お接待』の「ボランティア養成講座」開催 平成29年度 ライフデザイン学科 介護福祉コース

課題と目的			
今治市の課題として、島しょ部での顕著な高齢化と障がい疾病・医療費の増大が挙げられている。ボランティア講座（介護教室）を開催し情報交換の場を設け、学生の活動を展開する。1年次に高齢者介護に関する講義を受講し、介護教室では一般市民と共同し交流を深める。このような講義や実習を通して、学生は高齢者介護やボランティア活動に関する意識を深めるとともに、基礎的な技術を学ぶ。次には、習得した技術を活かして、島四国へんろでお接待としての足浴を行う。			
日時	前期活動内容		
4月15日(土) 8:30~16:30	島四国へんろ足浴 ボランティア	足浴ボランティアは、介護福祉コースの先輩から受け継がれてきたボランティア活動の一つで、学生が授業で学んだ介護技術を実践する場となっている。 おへんろさんへの足浴のお接待では、「去年やってもらって気持ちよかったから今年もお願いしたい」と足浴を楽しみに歩きへんろ体験をしている方もいた。「ありがとう」の言葉は、学生にとって何よりの励みとなった。	
5月20日(土) 5月21日(日) 9:00~15:00	バラまつり ボランティア	吉海町バラ公園で1・2年生の学生26名が参加し、模擬店でのボランティア活動を行った。地域の伝統行事にも触れることができた。地域の方々との交流で得た感動を、今後ボランティア活動に活かしていきたい。	
日時	後期活動内容		
11月11日(土) 9:00~12:00 13:00~16:00	ボランティア養成講座「潜在力を引き出す介助」 講演の部 実技の部 講師：株式会社 大起エンゼルヘルプ 理学療法士 田中義行先生	今年度、本学では『介護の日』に、「潜在力を引き出す介助“営み”の支援のためには何が必要か」と題し、田中義行先生にご講演いただいた。特に、2年生は午後からの実技の部に参加し、地域の方々や介護現場で働く皆様と一緒に田中先生から指導を受けた。 午前中の講義内容を踏まえ、午後からの実技で実践できたのでより肌で感じるようになった。	 
成果			
教育 島四国へんろ市などの先人から受け継がれた活動に参加することで、継承していく大切さを学んだ。ボランティアに参加することにより、地域の方々との交流を図るとともに地域の現状を把握することができた。地域に根ざした福祉を考えるきっかけになった。			
社会貢献 島四国へんろ市などの先人から受け継がれた活動に参加することで、継承していく大切さを学んだ。ボランティアに参加することにより、地域の方々との交流を図るとともに地域の現状を把握することができた。地域に根ざした福祉を考えるきっかけになった。			
今後の課題及び展開			
教育 学生が、地域住民とともに、学ぶことにより介護技術、コミュニケーション技術向上が図れるように、教育としてどういう工夫が必要かが課題である。			
社会貢献 今後も開かれた大学として、公開講座、介護教室を開催していくことが必要である。地域の介護に関するニーズを集積し、公開講座や介護教室の内容を充実させ、展開していくかが課題である。			

平成30年度 ライフデザイン学科 介護福祉コース

課題と目的			
<p>今治市の課題として、島しょ部での顕著な高齢化と障がい疾病・医療費の増大が挙げられている。ボランティア講座（介護教室）を開催し情報交換の場を設け、学生の活動を展開する。1年次に高齢者介護に関する講義を受講し、介護実習では一般市民と共同し交流を深める。このような講義や実習を通して、学生は高齢者介護やボランティア活動に関する意識を深めるとともに、基礎的な技術を学ぶ。次には、習得した技術を活かして、島四国へんろでお接待としての足浴を行う。</p>			
日時	前期活動内容		
4月21日(土) 8:30~16:30	島四国へんろ足浴 ボランティア	<p>大島の皆さんの中には、毎年、本学の学生が来るのを心待ちにしてくださっている方もおられるとのことで、皆さんの温かいお気持ちに触れることができ、とても嬉しい経験をいたしました。また、そのお気持ちに笑顔で感謝の言葉を述べる学生達の姿に、頼もしさと同時に、今治明德短期大学の伝統はちゃんと続いていると実感しました。</p>	
5月19日(土) 5月20日(日) 9:00~15:00	バラまつり ボランティア	<p>吉海町バラ公園で1・2年生の学生19名が参加し、模擬店でのボランティア活動を行った。今年も来園者向けのお接待所で焼きそば作りとふるまいのお手伝いをさせていただきました。2年生は、1年生をさりげなくリードしながらボランティア活動に取り組みました。</p>	
日時	後期活動内容		
12月8(土) 9:00~12:00 13:00~16:00	ボランティア養成講座「二次障害を起こさせない介護技術の基本」 講演の部 実技の部 講師：株式会社大起エンゼルヘルプ 理学療法士 田中義行先生	<p>今年は『二次障害を起こさせない介護技術の基本』と題し、講演と実技の2部構成でご講演いただきました。午後からの実技の部では、午前中の講演でお話していただいたことや動画で見せていただいたことを田中先生にご指導いただきながら実践でき、大きな学びになった様子でした。利用者さんの病気や障害の状態を十分に理解して、利用者さんの状態を見極めることや病気や障害の特性をしっかりと理解する為にも、今まで学んできた事を深めていきたい。など間もなく社会に出ていく2年生にとっては特に、貴重な機会になりました。</p>	 
成果			
<p>教育 島四国へんろは、地域の人に支えられていることを知った。学生は、自分たちができることを自ら考え、地域の方に提供していく大切さを学ぶことができた。外部講師により介護に役立つ知識や技術を学ぶことができた。</p> <p>社会貢献 バラ祭りボランティアに参加することにより、お接待で地域の方にお返しすることができた。地域の方々に介護に役立つ知識や技術を公開講座で伝えることができた。</p>			
今後の課題及び展開			
<p>教育 地域の人に学生が学んできた知識や技術を役立てるように活動するために学生が専門性を地域住民に活かし提供できるようになることが課題である。</p> <p>社会貢献 今後も開かれた大学として地域の介護に関するニーズを集積し、公開講座や介護教室の内容を充実させ、展開していくかが課題である。</p>			

4-3-2 島しょ部への地域開発 平成29年度 ライフデザイン学科 介護福祉コース

課題と目的			
島しょ部（大島）では、島四国八十八カ所という貴重な文化があるが、後継者不足や高齢化による実施準備の苦労などの課題がある。またこのような文化保存、継承の面で今治市内での地域格差が大きい。本学の教育の一環として伝統の集積と保存を取り組むことを目的とし、郷土の伝統と文化を継承するため、その集積と保存に取り組んでゆく。			
日時	活動内容		
4月12日(水) 9:00~10:30	「島四国八十八カ所」の講話 講師：しまなみ地域活性化推進協議会連合体会長 矢野都林先生	4月12日(水)の講義では、島四国の歴史などの知識習得に加え、200年以上前からの善意で受け継がれているおもてなしの心に触れ、道徳的理念の学びの場となった。介護福祉の仕事を目指す学生にとって大切な思いやる気持ちを再認識した。 4月15日(土)おへんろのお参りの仕方など情報収集ができた。	
4月15日(土) 8:30~16:30	島四国へんろ体験	吉海町札所で4月14・15・16日と3日間開催されるへんろ市。今年度は4月15日(土)に歩きへんろに参加した。大島の住民が200年以上もの間大切に守り・受け継ぎ・伝えてきた“お接待の心”を実際に歩いて体験した。途中、その札所ごとでは、お接待がいろいろと用意され、お世話を下さっている地元の住民の方々との交流も深まった。	
4月~3月	島しょ部の地域診断	4月~3月、月1回程度、吉海町で通所介護デイサービストリトンと今治市社会福祉協議会吉海支部のご協力のもと、吉海老人福祉センターで、4月から月1回のペースで10数名の高齢者の方々とともに、手、肩、腰の症状を軽減する体操を行う健康教室を実施した。その後、個別に日々の体の部位の痛みなどについて予防方法などの相談を行った。学生も同行し、介護実習の場となっている。卒業後の介護福祉士として高齢者の関わりをもつ学生にとって、貴重な体験であった。	
成果			
教育 学生たちは、先輩から受け継がれた活動に参加することで、継承していく大切さを学び、お接待を通して地域の方と交流を図るとともに、地域の現状を知ることができた。 介護福祉士を目指す学生にとっては、参加者の生活課題の意識の把握が可能になった。高齢者との交流をもつことで、コミュニケーション力を高めることができ、日頃の介護技術を実践する場として活かすことができた。			
社会貢献 大島吉海地区で健康教室を開催し、島民の方々の介護予防の一翼を担うことができた。 健康教室を開催していく中で、しまなみ海道沿線の島々で健康教室を含めた島しょ部の活性化の協力体制を構築することができた。			
今後の課題及び展開			
教育 介護予防にアプローチが必要な対象者のモチベーションの向上をどのように図るのか、また、学生の自発的な行動をどのようにしていくのが課題である。			
社会貢献 健康教室は、今治市社会福祉協議会との協働作業で実施している。今後は、関係団体も含めて連携を深めて活動を実施していきたい。			

平成30年度 ライフデザイン学科 介護福祉コース

課題と目的			
<p>島しょ部（大島）では、島四国八十八カ所という貴重な文化があるが、後継者不足や高齢化による実施準備の苦勞などの課題がある。またこのような文化保存、継承の面で今治市内での地域格差が大きい。本学の教育の一環として伝統の集積と保存を取り組むことを目的とし、郷土の伝統と文化を継承するため、その集積と保存に取り組んでゆく。</p>			
日 時	活動内容		
4月12日(木) 9:00~10:30	「島四国八十八カ所」の講話 講師：しまなみ地域活性化推進協議会連合体会長 矢野都林先生	1年生は、島四国や四国遍路について、四国に住んでいながらも、馴染みがあまりないようであったが、4月12日(木)の講義では、島四国の歴史などの知識習得に加え、遍路さんへの民泊（善根宿）についてなど地域に根ざす文化についてのお話があった。4月21日(土)歩きへんろ体験の情報収集ができた。	
4月21日(土) 9:00~15:30	島四国へんろ体験	吉海町札所で4月20・21・22日と3日間開催されるへんろ市。今年度は4月21日(土)に歩きへんろに参加した。大島の住民が200年以上もの間大切に守り・受け継ぎ・伝えてきた“お遍路文化”を実際に歩いて体験した。地元の方々の交流も深まった。	
6月~3月	島しょ部の健康教室	今治市社会福祉協議会の協力を得て、6月~3月に伯方島での健康教室を月2回開催した。参加者は島民平均7人で、「運動不足の解消になった」や「運動に心がけるようになった」などの意識が芽生えた。	
9月14日(金) 13:30~15:30	島しょ部の健康教室「糖尿病予防について」	今治市社会福祉協議会 伯方支部のサロン活動（おってサロン）に参加し、9月に「糖尿病予防」、2月には「インフルエンザ予防」についての講話を実施した。受講生からは「糖尿病の怖さを改めて知った」など身近に糖尿病について認識してもらった事ができた。	
2月14日(木) 13:30~15:30	「インフルエンザ予防」について		
成 果			
<p>教育 島四国へんろ体験をする前に、外部講師の講話により島四国へんろの歴史などの理解を深めた。島四国へんろ体験をすることで、地域の方の温かさに触れ地域で受け継がれている歴史の重さを実感した。学生は、継承していく大切さを学ぶことができた。 介護福祉士を目指す学生にとっては、高齢者と交流することにより、コミュニケーション能力を高めることができた。</p> <p>社会貢献 伯方地区で健康教室を開催し、島民の方々の介護予防の一翼を担うことができた。健康教室開催終了後のアンケートでは、参加者が「生活にメリハリができた」、「家でも意識的に運動するようになった」など、生活の中で健康に対する意識が高まった。</p>			
今後の課題及び展開			
<p>教育 地域の方々に役立つ活動を学生が主体的に考え、行動することが課題である。</p> <p>社会貢献 健康教室は、今治市社会福祉協議会との協働作業で実施している。引きこもりの高齢者が多いため、その人々を健康教室や他の行事に参加してもらう工夫が必要で、孤立や認知症などの予防に繋げるため、関係団体も含めて連携を深めて活動を実施していきたい。</p>			

4-4-1 「特産品開発講習会」活動

平成29年度 ライフデザイン学科スイーツ・カフェコース 調理師専修科

課題と目的		
<p>当地の特産品である柑橘類は菓子加工品としての利用度は低い。市内の生産者による柑橘類を製菓製パンに利用する実習を継続して、地場産品を活用する創作力を養う。また、地場産品を利用した製菓・調理のレシピ公開と試作品の評価を通して、特産品の付加価値形成のための研究開発を行う。</p>		
日時	活動内容	
4月14日(金) 10:30~12:00	「地元特産品を使った菓子の商品開発について」	講師：川上峻志先生 地元の菓子店経営者に「地元特産品を使った菓子の商品開発」をご講話頂いた。商品化の動機、目的、原材料決定までのプロセス、協働団体との連携などについて学び取った。
4月15日(土) 10:30~12:00	地元特産品を使った菓子研究	今治市食生活改善推進員の方々に来学いただき、本学製菓製パンコース（スイーツ・カフェ）10名、調理師専修科学生有志2名が参加した。 はじめに食品の機能性や加工品の展開例などを説明し、無農薬の清見タンゴール約40個を用いてマーマレードを製造した。同時に瓶詰作業まで行い、食品加工を体験した。 次回試食会でのオリジナル菓子研究のため、各自持ち帰った。
7月8日(土) 12:30~15:30	柑橘類の機能性を打ち出す、ビジネスへの展開など	4月15日の参加メンバーが集結し、テーマ「柑橘類の機能性を打ち出す」を聴講した。4月に製造したマーマレードを用いたオリジナル試作品を持ち寄って官能評価を実施し、参加者にレシピを公開した。
11月12日(日) 10:00~15:00	美過疎市 in 玉川	元気な過疎を次世代に繋いでいくための地域活性化プロジェクトに参加した。「特産品を利用したお菓子の販売」を通して、地域のニーズを知ることや交流のあり方について学んだ。
12月21日(木)	大三島リモネ視察	製菓製パンコース2年生4名が、「瀬戸内シトラスゼリー」原材料のレモン果汁製造元である大三島リモネを訪問し、商品誕生のきっかけやレモン有機栽培の苦労話、人気商品、菓子との関わりについてお話していただいた。
活動の様子		
    		
成果		
<p>教育 地元特産品「れんこん」を使った菓子開発の話聴き、商品開発のきっかけや地域とのつながりを知ることができた。また、柑橘を活用したオリジナルレシピ開発が具体化し、学外活動において試食アンケートを実施した。</p> <p>社会貢献 食に高い関心を持つ団体との共同研究が実現し、製菓・調理における柑橘利用の可能性を示唆することができた。</p>		
今後の課題及び展開		
<p>教育 柑橘の機能性成分を可視化し、その有効性を打ち出した「機能性スイーツ」オリジナルレシピを確立する。菓子の嗜好的側面を活かしながら、食と健康分野にまで踏み込んだ菓子の存在価値を考え、今後の開発支援にまで結びつけていく。</p> <p>社会貢献 ビジネスに結び付けた地元菓子店や起業を考えている食分野の方々と協同開発し、短大との連携新商品として栄養効果を紹介しながら幅広い年齢層に喜ばれる「機能性スイーツ」を生み出す。</p>		

平成30年度 ライフデザイン学科スイーツ・カフェコース 調理師専修科

課題と目的		
<p>当地の特産品である柑橘類は、加工品としての利用度は高まってきているが、機能性成分の認知が課題となっている。地元産の柑橘類（河内晩柑）を製菓製パンに利用する実習を通して、地場産品を活用する創作力を養う。また、菓子店経営者と連携して「機能性スイーツ」の開発支援に取り組み、地域への情報発信ならびにニーズの掘り起こしのための研究を行う。</p>		
日時	活動内容	
11月22日(木)・30日(金) 16:10~17:40	「地元特産品を使った菓子の商品開発について」	講師：川上峻志先生 商品開発を進めるためのポイントを具体的にお示しいただき、販売に向けての戦略と位置づけた。
7月13日(金) 10:30~12:00	河内晩柑マーマレードの官能評価	柑橘果皮を使った菓子と従来品を比較しての官能評価を実施。柑橘の嗜好性を分析し、新商品開発の基礎データとした。
8月6日(月) 10:00~13:00	ブルーベリー農園視察	後期に新設された「スローフード創作実習」において、地域の農作物や行事食から「スローフード」を知った。ブルーベリーの収穫を体験し、品種や栽培法、素材の活かし方を学習した。菓子からのアプローチとしてレシピ考案に取り組み、地産地消を意識づけることができた。
11月25日(日) 10:00~14:00	美過疎市 in 玉川	元気な過疎を次世代に繋いでいくための地域活性化プロジェクトに参加した。「特産品を利用した菓子」を販売。柑橘の官能評価も並行して実施し、健康効果を紹介した。また、地域の方との対話から交流のあり方を学んだ。
1月30日(水)	河内晩柑マーマレードを利用した新商品開発から販売まで	地元菓子店にて、レシピ開発した菓子の販売 PR 活動を行った。学生は取材を受け、柑橘果皮の有用性と1年間の柑橘研究の取り組みを言葉に残した。
活動の様子		
		
成 果		
<p>教育 河内晩柑に含まれる機能性成分オーラプテンの優れた健康効果を地域に紹介することができた。学生は菓子販売と官能評価の体験から、地域とのつながりとコミュニケーションの大切さを学び取った。</p> <p>社会貢献 地元菓子店と連携し、柑橘果皮を利用した菓子のレシピ開発から販売までの支援を行った。</p>		
今後の課題及び展開		
<p>教育 地域へ向けて柑橘の有用性を情報発信するには、どのような方法が効果的であるかを研究する。</p> <p>社会貢献 柑橘がもつ健康効果を打ち出した「機能性スイーツ」をより幅広い年齢層に情報伝達し、さらに高い支持を得ることができるレシピを考案したい。</p>		

4-4-2 「家族の料理、菓子教室」活動

平成29年度 ライフデザイン学科スイーツ・カフェコース 調理師専修科

課題と目的		
<p>今治市は地産地消に積極的に取り組んでおり、食育にも関心を持つ地域であるが、行事食などの食文化・食習慣の教育の普及が課題となっている。食を通じて地域等を理解することや食文化の継承を図り、料理を通じて地域の食文化の向上と伝承をしていく。</p>		
日時	活動内容	
6月6日(火) 8:50~16:00	地域の料理 伝承 料理講習	<p>地域の料理講師を2名迎え、地元食材を使用した「いぎす豆腐」、「さくら寿司」、「瀬戸内小魚の吸い物」、「春雨と胡瓜の酢の物」、デザートには「びわ大福」計5品を教えて頂いた。</p> <p>郷土料理や行事食等は、地元の産物を使って独自の料理法で作られ、受け継がれてきた食文化であるが、親から子へと次世代への伝承される料理が少なくなっている。郷土料理伝承の大切さを改めて考えるきっかけとなった。</p>
7月4日(火) 10:30~12:30	めいたんクッキング (親子の料理教室)	<p>JA おちいまばり乃万女性部、幼児教育学科学生、調理師専修科学生が参加し、地元食材を使った料理「ひじきごはん・煮物・お汁(すいとん風)・オレンジゼリー」の4品を一緒に作って試食した。</p> <p>調理師専修科の学生は、日頃未就園児との関わりも少なく戸惑いもあったが、すいとんの団子の作り方など親子に指導し、子どもたちは見よう見まねで作業を行い、交流を図って共に試食した。</p>
11月21日(火) 10:30~12:30	めいたんクッキング (親子の菓子教室)	<p>今年はJAおちいまばり乃万女性部、幼児教育学科学生、製菓製パンコース(スイーツ・カフェコース)学生が参加し、「さつまいもクッキー」、「さつまいもとリンゴのオレンジ煮」、「さつまいもとパイナップル茶巾絞り」のお菓子を3品作って試食した。</p> <p>製菓製パンコース(スイーツ・カフェコース)の学生が先生役となって、参加の親子に茶巾絞りのこつやクッキーを丸める成型の指導をした。その後、学生がクッキー生地を焼き上げた。お代わりを求める子どもに笑顔で対応し、作って食べる喜びを双方が確認した時間であった。</p>
11月28日(火) 10:00~12:00	高齢者の食 べやすいお 弁当(介護食) 試食調査	<p>今治市食生活改善推進員12名のご高齢の方々にお弁当の試食とアンケート調査にご協力を頂いた。試食、交流を通して高齢者の意見を聞くことができ、アンケートにより今後の介護食の研究の資料とした。</p>
成果		
<p>教育 地域の食文化の継承を目指す取り組みが、世代間交流を意識したコミュニケーションと郷土料理を見直すきっかけづくりとの相乗効果をもたらした。継続的な活動により、さらに貴重なレシピを集積することができた。子どもたちが、食に興味を持つことを目の当たりにし、作る喜びと食べることの重要性を体感することができた。</p> <p>社会貢献 高齢者の嗜好を念頭に置き、どのような工夫や見せ方ができるのかを重ねて研究した結果、アンケート調査で高評価を得ることができた。今後の介護食研究への期待が高まる。</p>		
今後の課題及び展開		
<p>教育 郷土料理を学び、交流を深めながら料理への意欲を高め、得た知識や技術を高齢者の喜ぶ献立作りへと幅を持たせる応用力を養う。</p> <p>社会貢献 地元の方との協同で親子の食育教室を開催し、料理・菓子作りを行う。どの世代においても「食は人を結ぶ」ことを意識し、対象者とふれあいながら学生が主体的に行動できる場を増やしていく。</p>		

平成30年度 ライフデザイン学科スイーツ・カフェコース 調理師専修科

課題と目的		
今治市は地産地消に積極的に取り組んでおり、食育にも関心を持つ地域であるが、行事食などの食文化・食習慣の教育の普及が課題となっている。食を通じて地域等を理解することや食文化の継承を図り、料理を通じて地域の食文化の向上と伝承をしていく。		
日 時	活動内容	
6月5日(火) 8:50~12:00	地域の料理 伝承 料理講習	地域の料理講師を2名迎え、地元食材を使用した「ゴマ豆腐」、「散らし寿司」、「ホゴの吸い物」、「竹の子の煮物」、デザートには「よもぎ蒸し饅頭」計5品を教えて頂いた。 地元の産物を使って独自の料理法で作られ、受け継がれてきた郷土料理や行事食等の食文化を地元講師から学ぶことができた。講師から学んだ料理、行事食を家族や友達にふるまって身近なところから伝えていきたい。地元にながら改めて郷土料理を見直すきっかけとなった。
7月10日(火) 10:30~12:30	めいたんクッキング (親子の料理教室)	JA おちいまばり乃万女性部、幼児教育学科学生、調理師専修科学生が参加し、地元食材を使った料理「カラフル散らしずし・野菜スープ・みかんゼリー」の3品を一緒に作って試食・交流をした。 調理師専修科の学生は、日頃未就園児との関わりも少なく戸惑いもあった。カラフル散らしずしでは、学生の指導を受けながら子どもたちと一緒に作れる手軽さが好評だった。参加した親からは、学生さんやJAの皆さんと交流しながら楽しくクッキングできたとの感想があった。
11月20日(火) 10:30~12:30	めいたんクッキング (親子の菓子教室)	今年はJA おちいまばり乃万女性部、幼児教育学科学生、スイーツ・カフェコース学生が参加し、「さつまいものたまごボーロ」、「もちもちさつまいも」、「スイートポテト」、「さつまいものオレンジ煮」、「さつまいものポタージュスープ」のお菓子5品を作って試食した。今回は、スイーツ・カフェコースの学生の発案によるレシピを何度も試作を重ねて完成させた。 さつまいもについてのクイズや栄養についての説明など食育活動も同時に実施した。
12月4日(火) 10:00~12:00	高齢者の食 べやすいお 弁当(介護食) 試食調査	今治漁協の女性部の方たち、今治市水産課の方々15名にお弁当の試食とアンケート調査にご協力を頂いた。地元の海産物を使用したレシピを考え、試食、交流を通して地域の方や自治体の方の意見を聞くことができ、アンケートにより今後の高齢者介護食の研究の資料とした。
成 果		
教育 親子で一緒に作る体験は、「子どもにとって貴重な機会となりました」という意見を頂いた。家庭での食を育む力が低下していると言われている現在、今回の材料の収穫から作る、食べるまでの一連の流れが食材の理解や食の大切さを考えるきっかけとなった。また、学生たちにとっても自分たちの力でレシピを考え、試作を何度も重ねて料理を完成させたことは、調理スキルだけではなく技術の応用力を試す貴重な機会となった。		
社会貢献 対象年齢を考えた料理は、レシピ作成の際の大きな課題となった。なぜなら、適切な時期に適切な物を与えないと誤嚥や食中毒の危険が高まるからである。特に、子どもたちの成長に合わせた「適切なお菓子の選択」ができるきっかけを今回の実習により作ることができた。		
今後の課題及び展開		
教育 親子での適切な調理に向けて、地産地消をどのような形で展開していくことが効果的な地場産物の利用等につながっていくかどうかを研究する。		
社会貢献 今回学生たちが考案したレシピをさらにブラッシュアップして、より利用しやすく地元の食材を生かせるようなレシピを考案したい。		

しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり ライフデザイン学科 スイーツ・カフェコース 調理師専修科 実施実践報告

ライフデザイン学科スイーツ・カフェコースと調理師専修科では、地域に根ざし、地域に貢献する人材の育成輩出と「知の共有」と「社会還元」を目的として、今治市、関係団体と連携して地域課題である課題③文化保存・継承面での地域格差、後継者不足、課題④栄養と食習慣に関する正確な知識の教育普及について、〈事業3〉調理・製菓技能教育及び特産品開発支援と講習事業を展開しています。

活動⑦「特産品開発講習会」活動
活動⑧「家族の料理、菓子教室」活動

教育	研究	社会貢献
地元農産物の活用意義を学ぶ	地域に根づく地場産品を使った商品開発	公開講座
高齢者が食べやすいお弁当試作		高齢者への食べやすいお弁当試食・交流
地域の料理伝承・郷土料理の講習		親子の料理・菓子教室の開催(食育活動)

活動⑦の様子 地域志向科目「コースセミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「公開講座」



「柑橘類の新たな利用開発について」



「柑橘成分の機能性とそれを活用した商品開発」



柑橘類の機能性を打ち出すビジネスへの展開「マーレードを使った試作品」

柑橘を使った商品開発「和洋菓子へのアプローチ」から販売PRへ



【ライフデザイン学科 ディプロマ・ポリシー】

学科の教育目的・目標に基づいて開設される教育課程の科目を修め、学則に定める成績評価に基づき、卒業に必要な単位を修得し、地域志向の専門職業人としての資質を身につけた者に対して短期大学士の学位(生活科学)を授与する。

【スイーツ・カフェコース カリキュラム・ポリシー】

1. 製菓衛生師に関する教育課程を編成し、製菓衛生師として必要な専門知識と技能の修得を目指す。
2. 製菓衛生師に関する教育課程を編成し、製菓衛生師として必要な思考力・判断力・表現力の涵養を目指す。
3. 製菓衛生師に関する教育課程を編成し、製菓衛生師として主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度の涵養を目指す。

活動⑧の様子



「親子の料理教室」



「親子の菓子教室」



平成28年評価を受けて平成29年度より地域・他学科の連携活動



めいたんクッキング
「ひじきごはん」
「煮物」
「お汁(すいとん風)」
「オレンジゼリー」



めいたんクッキング
「さつまいもクッキー」
「さつまいもとリンゴのオレンジ煮」
「さつまいもとパイナップル茶巾絞」

平成30年度 スイーツ・カフェコース地域志向科目 調理師専修科地域志向科目

スイーツ・カフェコース		調理師専修科
1年	2年	1年
コースセミナーⅠ・Ⅱ	コースセミナーⅢ・Ⅳ	専門別調理Ⅱ
		集団調理実習
スローフード創作実習		

学生の声

「地域」を中心としたさまざまな食への取り組みを体験し、情報提供のみならず連携や現状を理解することの大切さに気づきました。地域社会の一員として今後も意識的に何かの形で貢献できればと考えます。学外活動や開発研究などクラスで協力し、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

自治体等の連携体制



【調理師専修科 ディプロマ・ポリシー】

学科の教育目的・目標に基づいて開講される教育課程の科目を修め、学則に定める成績評価に基づき、卒業に必要な単位を修得し、かつ調理師として専門的な知識及び技術が修得できていること、また、自ら考え判断する力を培い、地域社会に貢献できる資質を身につけた者に対して調理師専修科の修了を認める。

【カリキュラム・ポリシー】

1. 調理師に関する教育課程を編成し、調理師として必要な専門知識と技能と修得を目指す。
2. 調理師に関する教育課程を編成し、調理師として必要な思考力・判断力・表現力の涵養を目指す。
3. 調理師に関する教育課程を編成し、調理師として主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度の涵養を目指す。

4-5-1 「子どもを対象とした食育講座」開催 平成29年度 ライフデザイン学科 食物栄養コース

課題と目的

現在、生活習慣病や慢性疾患が、すべての世代で広がっている。生涯にわたって健康であるためには、バランスのとれた食生活を送らなければならない。そのためには、幼児期から食育を推進していく必要がある。日常の生活や遊びの中で、食についての理解を促す媒体（教材）を作製し、園や施設に寄贈し、日常的に活用してもらう、また実際に園児に食育指導を行うことで、あわせて、学生の食育指導力の向上を図る。

日時	活動内容	
6月6日(火) 8:50~12:00	「子供を対象とした食育講座」 乃万保育所	保育園児を対象に、学生が「食育講座」を開講。 「紙芝居」、「クイズ」、「ダンス」、「まとめ」を発表した。 普段の食事の大切さについて体験発表することにより、食育とは何かを学生自身が理解し、あわせて保育園児との交流を図った。
11月12日(日) 10:00~15:00 片原大型フェリー駐車場	JA おちいまばり第19回農業まつり・第12回漁協まつり	食育媒体の展示のほか、食育カルタ・ぬり絵などの遊びを体験できるコーナーを設けた。子どもたちに食の大切さを理解してもらう機会となった。
11月12日(日) 8:00~16:00	今治市総合福祉センターまつり	 
1月14日(日) 10:00~15:00	2018大西町農業まつり	

活動の様子



成果

教育

保育所等で「食育講座」を開講し、園児と遊びながら交流を図ることができた。
カルタ・ぬり絵などの指導教材を作成する過程で食育の大切さを学び、子ども達にどのように伝えればよいか学生自身で考えることができた。

社会貢献

「食育講座」として、保育園児を対象に学生が、「紙芝居」、「クイズ」、「体操」などを組み合わせた催しを発表することができた。保育所や図書館に「カルタ」、「ぬり絵」などの指導教材を配布することができた。

今後の課題及び展開

教育

普段の保育所生活では得られにくい内容「食育劇」を園児に楽しんでもらうための発表の場の検討が必要である。幼児教育学科と連携を図り、「食育劇」等の食育教育媒体の製作にあたっては協働する体制の構築が必要である。

社会貢献

子どもたちは食育カルタをたくさん取ることに夢中になり、読み札や絵札の内容がどこまで印象に残ったのか、また伝えられたのかを考えさせられた。子どもたちの発達段階を考慮して、わかりやすい言葉や表現方法による食育教育媒体の製作を考案していきたい。

平成30年度 ライフデザイン学科 食物栄養コース

課題と目的

現在、生活習慣病や慢性疾患が、すべての世代で広がっている。生涯にわたって健康であるためには、バランスのとれた食生活を送らなければならない。そのためには、幼児期から食育を推進していく必要がある。日常生活や遊びの中で、食についての理解を促す媒体（教材）を作製し、園や施設に寄贈し、日常的に活用してもらう、また実際に園児に食育指導を行うことで、あわせて、学生の食育指導力の向上を図る。

日時	活動内容	
5月29日(火) 10:30~11:30	「子供を対象とした食育講座」 めいたんパーク	幼児教育学科と連携活動「めいたんパーク食育講座」として、地域の親子に学生が作ったぬり絵やゲームなど工夫をしてわかりやすく野菜やその栄養について発表をした。
11月11日(日) 10:00~15:00	JA おちいまばり 第20回農業まつり・第13回漁協まつり	食育媒体の展示のほか、食育カルタ・ぬり絵などの遊びを体験できるコーナーを設けた。子どもたちに食の大切さを理解してもらう機会となった。
11月11日(日) 10:00~16:00	今治市総合福祉センターまつり	
1月13日(日) 10:00~15:00	2019大西町農業まつり	

活動の様子



成果

教育

本学の「めいたんパーク」において、未就学園児を対象に、ダンス、絵本の読み聞かせ、クイズ、ぬり絵を子ども達と一緒に遊びながら交流を図ることができた。事前に学生が指導教材をグループで考え、発表、練習する中で学生自身が食育の大切さを学ぶことができた。

社会貢献

学生が作成した教材で子どもたち遊ぶことにより、日頃の食事に関心をもってもらうことができた。作成したカルタ、ぬり絵、紙芝居を保育所や図書館に配布することができた。

今後の課題及び展開

教育

本学幼児教育学科と連携を図り、子どもに楽しんでもらうための教材づくりの工夫が必要である。どのような指導教材を活用すれば、食の大切さを伝える事ができるか検証や検討が必要である。

社会貢献

対象年齢に合った教材の作成と子どもたちが理解しやすい言葉づかいや新しい表現方法による指導媒体を考案していきたい。

4-5-2 「中高年対象の栄養・健康講座」開催 平成29年度 ライフデザイン学科 食物栄養コース

課題と目的	
生活習慣病や慢性疾患が、すべての世代で広がっており、それらを予防あるいは改善するための食生活指導を効果的に行える人材の育成が必要である。 地域の農業まつりや福祉まつりにおいて、健康・栄養チェック機器を用いて栄養指導を行うことで、食生活改善のきっかけを提供する。	
日時	活動内容
4月29日(土) 10:00~15:00	「食育SATシステムの活用方法」 講師：株式会社いわさき 管理栄養士 黒川一紗先生 食育SATシステムの運用・利便性、また機器の具体的な取り扱いについて学んだ。
7月22日(土) 12:45~15:30	健康塾で栄養指導体験(個別指導) 松岡健康教室 塾長 松岡道子先生 松岡健康教室塾長、松岡道子氏の講演を聴講した後、学生は講師の指導のもと栄養指導を体験した。その後、講師を交え栄養指導について意見交換を行った。
11月11日(土) 12:45~15:30	健康塾で栄養指導体験(集団指導) 「貧血予防のための食事」・「減塩による高血圧予防と健康長寿」・「骨を元気に！コツコツ生活習慣」をテーマにして、栄養指導を体験した。
11月12日(日) 10:00~16:00 10:00~15:00	第19回今治市福祉センターまつり JA おちいまばり第19回農業まつり・第12回漁協まつり 来場者の希望者に対し、栄養・健康チェック(健康チェック機器:骨密度計、SATシステムを活用)を行った。測定結果をもとに現状を説明した。
1月14日(日) 10:00~15:00	2018大西町農業まつり 来場者の希望者に対し、骨密度測定と体脂肪測定を行い、さらに、食生活の現状を聴取し、それをふまえた栄養指導を行った。
活動の様子	
	
成果	
<p>教育 学生、教員がSATシステムの活用法と機器の操作方法について学ぶことができた。 学生は、中高年齢者を対象に、個別の栄養指導、集団指導を体験することができた。 SATシステムを使った食事診断は、他の組織からの要請があり、集団指導では、高齢者サロンから本学学生と交流を希望する声があった。</p> <p>社会貢献 来場者には、その場で骨密度や食事の問題点を知ることができた。健康イベント時に本学学生と地域住民が、普段の食事を話題に交流を図ることができ、本学の学習内容の一端を知ってもらうことができた。</p>	
今後の課題及び展開	
<p>教育 栄養に関する「知識」、「技術」、「経験」が不足していることを学生自身が自覚し、今後の授業やボランティア活動に住民との接し方や食生活に関する不安や疑問を聞きとるなど、積極性をもつための促しが必要である。</p> <p>社会貢献 学生は、実際の食事のメニューを来場者に聞きながら栄養チェックを行っているが、経験不足のためマニュアル通りの説明になってしまいがちである。住民と交流を図る中で、自分が対象者にできることを考える事ができるように学生自身に磨いてほしい。</p>	

平成30年度 ライフデザイン学科 食物栄養コース

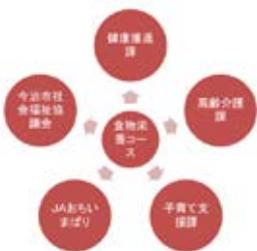
課題と目的		
<p>生活習慣病や慢性疾患が、すべての世代で広がっており、それらを予防あるいは改善するための食生活指導を効果的に行える人材の育成が必要である。 地域の農業まつりや福祉まつりにおいて、健康・栄養チェック機器を用いて栄養指導を行うことで、食生活改善のきっかけを提供する。</p>		
日時	活動内容	
6月14日(木) 13:30~14:30	阿方集会所 健康教室	<p>本学近辺の老人クラブの2団体に参加し、学生が「食事からとれる水分について～シニアの水分補給」について発表した。 普段生活で気になっていることなどを聞いて、学生から授業で学んだことからアドバイスをを行った。</p>
7月21日(土) 13:00~15:00	矢田集会所 健康教室	
6月24日(日) 9:30~13:00	今治市大三島公民館 「高齢者エプロン教室」	平成30年度から新設した「健康共育実践演習」の授業の一環として地域のイベント「高齢者エプロン教室」に参加し、講話、調理実習のあと地域の方との意見交換会を実施した。
7月23日(月) 12:50~14:20	地域で実施されている公衆栄養活動について	平成30年度から新設した「健康共育実践演習」の授業の一環として、公衆栄養活動の実際についての理解を深め、地域活動に活かすことができた。
10月7日(日) 10:00~14:00	元気ふれあいフェスタ in 大三島 今治市大三島福祉センター	普段の食事の栄養素バランスを測定するSATシステムを活用した食事診断や骨密度測定などを実施し、栄養指導を実施した。
11月11日(日) 10:00~16:00 10:00~15:00	第20回今治市福祉センターまつり JA おちいまばり第20回農業まつり・ 第13回漁協まつり	来場者の希望者に対し、栄養・健康チェック(健康チェック機器:骨密度計、SATシステムを活用)を行った。測定結果をもとに現状を説明した。
1月13日(日) 10:00~15:00	2019大西町農業まつり	来場者の希望者に対し、骨密度測定と体脂肪測定を行い、さらに食生活の現状を聴取し、それをふまえた栄養指導を行った。
活動の様子		
    		
成果		
<p>教育 地域志向科目「健康共育実践演習」を新設したことにより、島しょ部での地域の方との交流や実践活動が増え、学生の地域に対する意識が高まった。</p> <p>社会貢献 普段、高齢者と交流する機会が少ないので、人生経験豊富な高齢者から、現在の食生活の現状について聞くことができた。学生から外食や昼食について現在の食事情を説明したり、若者の考えを伝えることができた。</p>		
今後の課題及び展開		
<p>教育 イベントに参加する時の心構えとして、自分の役割分担や使用する機器や確認、当日の住民とのコミュニケーションの取り方をグループあるいは個人で考え行動する力を身につけてほしい。</p> <p>社会貢献 授業で学んだ高齢者に多くみられる生活習慣病などの予防を含めた食事に関する栄養指導などを地域のイベントに積極的に参加することにより、実践力やコミュニケーション力が見につくようにしていきたい。</p>		

しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり ライフデザイン学科 食物栄養コース 実施実践報告

ライフデザイン学科食物栄養コースでは、地域に根ざし、地域に貢献する人材の育成輩出と「知の共有」と「社会還元」を目的として、今治市健康推進課と社会福祉法人今治市社会福祉協議会と連携して地域課題である課題④栄養と食習慣に関する正確な知識の教育普及について、＜事業4＞食育及び健康栄養教育事業を展開しています。

活動⑨「子どもを対象とした食育講座」開催	活動⑩「中高年対象の栄養・健康講座」開催
教育	社会貢献
食育教育媒体の開発	子どものための食育講座 JAおちいまばり農業まつり／漁業まつり 大西町農業まつり
高齢者のための個別・集団栄養指導	健康教室（阿方・矢田公民館） 調理講習会（大三島）
食育SATシステムの講義	元気ふれあいフェスタ（大三島） 今治市総合福祉センターまつり

連携自治体・関係団体等との連携



平成30年度
 食物栄養コース 地域志向科目

1年	2年
コースセミナー I・II	コースセミナー III・IV
	栄養指導論実習 I・II
	健康共有実践演習 I・II

開発した教育媒体

子どものための食育活動の様子

乃万保育園 大西町農業まつり

H28年度評価を受け幼児教育学科との連携食育活動の様子（めいたんパーク食育講座）

【ライフデザイン学科 ディプロマ・ポリシー】
 学科の教育目的・目標に基づいて開設される教育課程の科目を修め、学則に定める成績評価に基づき、卒業に必要な単位を修得し、地域志向の専門職業人としての資質を身につけた者に対して短期大学の学位(生活科学)を授与する。
【食物栄養コース カリキュラム・ポリシー】
 1. 栄養士に関する教育課程を編成し、栄養士として必要な専門知識と技能の修得を目指す。
 2. 栄養士に関する教育課程を編成し、栄養士として必要な思考力・判断力・表現力の涵養を目指す。
 3. 栄養士に関する教育課程を編成し、栄養士として主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度の涵養を目指す。

学生の声

- ・栄養指導をする難しさを感じた。
- ・わかりやすく説明するためには、自分が一番理解していない とできないことを改めて感じた。
- ・グループで媒体づくりをする大変さや協調性の難しさを学ぶことができた。
- ・地域の人々の目線で発表を見てもらうことができる良いきっかけとなった。
- ・人に何かを伝え、それを共有することは、人の輪が広がる感じがしてとても幸せなことだと思った。これからも知識を求め、自分を磨いていきたい。

活動⑩中高年対象の健康教室（乃万地区、阿方地区、大三島地区）

地域志向科目 「栄養指導論実習Ⅰ」

地域志向科目 「健康共有指導論実習」

活動⑩対象の栄養指導・健康指導についての講義

活動⑩中高年対象の栄養指導・健康指導実践の様子

SAT システム講習 地域志向科目「コースセミナー」
 松岡健康塾 地域志向科目「栄養指導論実習」
 元気フェスタ in 大島 (H28) 今治市総合福祉センターまつり
 大西町農業まつり

4-6 平成29年度・平成30年度 ライフデザイン学科 国際観光ビジネスコース

課題と目的	
<p>サイクリングロード整備や外国人観光客へのガイド、清掃活動などへのボランティアに参加し、地域文化の伝承とおもてなしの精神を学び、地域の方々との交流を深める。</p> <p>交流人口の拡大が課題になっている中で、地域の団体、構成員の方々と連携しながら固有の観光資源やその活用方策について学び、具体的な実施に向けてボランティア参加を行う。</p>	
日時	活動内容
平成29年4月29日(土) 10:00~15:00 平成30年4月28日(土) 10:00~15:00	半島四国八十八カ所 へんろ歩き体験 国際ビジネスコースの留学生は、今治東ライオンズクラブの方々と地域住民の方々と「半島四国八十八カ所波方霊場巡り」に参加し、12キロを完歩した。札所では、それぞれお接待のおもてなしを受け、留学生は日本のおもてなしの文化に触れることができた。
平成29年12月1日(金) 平成30年11月30日(金)	今治市立別宮小学校 訪問 異文化交流 平成29年度は、今治市国際ベトナム人留学生3名と中国人留学生2名が今治市立別宮小学校を訪問し、小学4年生の国際理解の授業に参加した。 平成30年度は、ベトナム人留学生と中国人留学生が今治市立別宮小学校を訪問し、小学4年生の国際理解の授業に参加した。小学生による今治市の紹介(名物料理、お菓子、温泉、魚)を聞き、初めて聞く内容に留学生たちは真剣に耳を傾けていた。留学生による母国の文化の紹介で、小学生は興味深そうに聞き入っていた。
平成29年12月16日(土) 平成30年11月25日(日)	清掃ボランティア 平成29年度は、吉海町バラ公園の清掃活動を行った。バラ公園内は落ち葉がとても多く、用意していたごみ袋はすぐにいっぱいになった。 平成30年度は、サンライズ糸山近くの海岸に行き、清掃活動を行った。海岸には、ペットボトルなどのごみが多かった。ボランティアに参加することにより、留学生は日本の「おもてなし」の文化を学び、環境整備の一翼を担うことができた。
活動の様子	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div>	
成果	
<p>半島四国歩き遍路では、今治東ライオンズクラブの方々と地域の方々と交流を図るとともに、日本文化に触れることができた。地元の小学生と異文化交流が図れ、地域について小学生から学ぶことができた。地域の観光名所を学びながら、環境整備に取り組むことができた。</p>	
今後の課題及び展開	
<p>外国人の目線から地域の観光名所を学ぶだけでなく、それを活かしさらに外国人観光客に伝える活動に拡大するよう計画する。</p>	

4-7 平成29年度 大学公開講座

目 的

市民生涯学習の機会を提供するため、大学主催の公開講座を開催。今年度は、「地域と大学～地域と共に～」をテーマにして、文化、産業、福祉などの切り口から地域を見つめ、将来の展望を考えるというコンセプトで開講した。

大学公開講座の開催は、今年度で37回目である。本学が開催し今治市の共催を得て開催された。8回の講座が開講され、参加者は延べにして521名であった。

日 時	前期：7月1日(土)～29日(土)
7月1日(土) 13：30～15：30	『切迫「南海トラフ地震」を迎え撃つ！』 今治市危機管理室 室長 二場健児 先生
7月8日(土) 13：30～15：30	『道の駅を地域再生の拠点へ』 株式会社しまなみ 代表取締役社長 村上秀人先生
7月22日(土) 13：30～15：30	『「からだ」と「暮らし」と「おくすり」のこと』 摂南大学 薬学部 薬学教育学研究室 安原智久先生
7月29日(土) 13：30～15：30	『世界に誇れる日本料理は人と暮らしを結ぶ』 料理研究家・愛媛食育応援団 近藤一樹先生
日 時	後期：9月2日(土)～30日(土)
9月2日(土) 13：30～15：30	『コラーゲンってなに？』 今治明德短期大学 ライフデザイン学科 教授 内藤一郎先生
9月9日(土) 13：30～15：30	『あなたも“いまばり博士”になろう！』 今治地域史研究家 大成経凡先生
9月23日(土) 13：30～15：30	『広げよう心とところを結ぶハーモニー』 アンサンブル「Evergreen」代表 上村聖子先生
9月30日(土) 13：30～15：30	『人、地域をはぐくむ民具』 伊予市教育委員会文化財整理指導員／日本民具学会会員 沖野新一先生

活動の様子



成 果

受講後のアンケート調査については、全体的に8割以上の方が「非常によかった」、「よかった」との回答が得られた。「今治市との大学公開講座の強化やオープンカレッジ・公開講座の展開をしていく」というCOC事業目標は、ある程度の達成はできた。

今後の課題及び展開

今治市の広報誌や公民館等、本学ホームページで講座の開催の周知をしているが、広報以外の周知方法についても検討していく必要がある。

アンケートからは歴史文化や産業など地域に密着した内容の要望もあり、今後は今治市と内容を検討していく必要がある。

平成30年度 大学公開講座

目的

市民生涯学習の機会を提供するため、大学主催の公開講座を開催。今年度は、「地域と大学～地域と共に～」をテーマにして、文化、産業、福祉などの切り口から地域を見つめ、将来の展望を考えるというコンセプトで開講した。

大学公開講座の開催は、今年度で38回目である。本学が開催し今治市の共催を得て開催された。8回の講座が開講され、参加者は延べにして618名であった。第1回目は台風接近のため中止となった。

回	日時	前期：7月7日(土)～28日(土)
第1回	7月7日(土) 13:30～15:30	『守り伝える～文化と心～』 台風接近のため中止 しまなみ地域活性化推進協議会連合体 会長 矢野都林先生
第2回	7月14日(土) 13:30～15:30	『三味線知ってる？弾いてみる？』 松山検番 田村咲富美先生 門下有志
第3回	7月21日(土) 13:30～15:30	『100歳まで元気に歩ける足づくり』 フットケアサロンカノン代表 NPO 法人介護予防フットサルケアサポートネット副理事 小野めぐみ先生
第4回	7月28日(土) 13:30～15:30	『中国の経済成長と一般市民の生活』 今治明德短期大学 副学長 西本修文先生
回	日時	後期：9月1日(土)～29日(土)
第5回	9月1日(土) 13:30～15:30	『食の大切さを再認識する』 愛媛の食育応援団・全技連マスター 今治明德短期大学 非常勤講師 近藤一樹先生
第6回	9月8日(土) 13:30～15:30	『自分らしく生きるための成年後見制度活用法』 一般社団法人 愛媛社会福祉士会理事権利擁護センターぱあとな愛媛代表 今治明德短期大学非常勤講師 鍋島修治先生
第7回	9月15日(土) 13:30～15:30	『相手に寄り添うコミュニケーション術』 フリーアナウンサー オーラソーマプラクティショナー (カラーセラピスト) 新山純子先生
第8回	9月29日(土) 13:30～15:30	『糖尿病は、万病のもと～糖尿病予防・管理は長生きの秘訣～』 今治明德短期大学 ライフデザイン学科 准教授 藤井皆子先生

活動の様子



成果

受講後のアンケート調査については、全体的に8割以上の方が「非常によかった」、「よかった」との回答が得られた。「今治市との大学公開講座の強化やオープンカレッジ・公開講座の展開をしていく」というCOC事業目標は、ある程度の達成はできた。

今後の課題及び展開

今治市の広報誌や公民館等、本学ホームページで講座の開催の周知をしているが、広報以外の周知方法や若い人への参加の働きかけについても検討していく必要がある。

4-8-1 平成29年度 シンポジウム

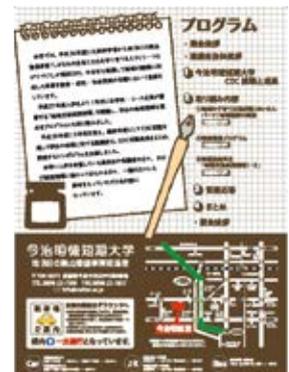
日 時	内 容
<p>平成29年 9月 9日(土) 13:00~15:40</p>  	<p>和歌山信愛女子短期大学 COC 事業『きょう育の和』シンポジウム 「地域とともに歩む短期大学を目指して」 和歌山信愛女子短期大学 セシリアホール</p> <p>第1部 「今治明德短期大学のCOC事業について」の概要と活動報告をCOC推進室 野方円室長が行い、聖徳大学短期大学部は「聖徳大学短期大学部のCOC事業について」の活動報告を行った。また、和歌山市による「行政と短期大学の連携による人材育成 手ごたえと今後について」の基調講演を拝聴した。</p> <p>第2部 「COCとして短期大学はどうあるべきか」をテーマに和歌山県、聖徳大学短期大学部、和歌山信愛女子短期大学、今治明德短期大学 幼児教育学科 寺川夫央学科長が登壇しパネルディスカッションを実施した。</p>  
日 時	内 容
<p>平成30年 2月 8日(木) 15:00~18:00</p> 	<p>COC/COC+ シンポジウム2018 地域課題の解決と大学の役割 - 地域と大学の連携を中心に - 松山全日空ホテル 南館 2F サファイアルーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体からの報告及び大学との取組紹介 「今治明德短期大学のCOC事業について」の概要と活動をCOC推進室 野方室長が報告を行った。 パネルディスカッション 「自治体と大学の連携、大学間の連携の現状と課題」をテーマに、愛媛県、松山市、愛南町、愛媛大学、松山東雲女子大学、聖カタリナ大学、今治明德短期大学 幼児教育学科 寺川夫央学科長が登壇しパネルディスカッションを実施した。  
 	<p>全国ネットワーク事業 平成29年度 COC/COC+ 全国シンポジウム 「地域が描く日本の未来」 平成30年 3月 2日(金) 13:30~17:00 高知県立県民文化ホール・グリーン</p> <p>第1部</p> <ul style="list-style-type: none"> 文部科学省挨拶 基調講演「日本の未来を考えよう」 立命館アジア太平洋大学 学長 ライフネット生命保険株式会社 創業者 出口治明氏 パネルディスカッション 「地域連携の長期的継続に向けて」 ポスターセッション <p>平成30年 3月 3日(土) 9:00~11:35</p> <p>第2部</p> <ul style="list-style-type: none"> 分科会 「組織的連携について」 「学生の地元定着について」 「地域における雇用の創出について」

4-8-2 平成30年度 地(知)の拠点整備事業(COC事業)シンポジウム

目 的	
<p>COC事業「しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり」が採択され、今治市と連携して地域の課題に対応した事業を教育・研究・社会貢献の分野において各学科コースの特徴を活かした「4事業10活動」を展開している。平成27年度入学生より1年次に全学科・コース全員が履修する「地域交流実践演習」を開講し、学生の地域理解を深めるプログラムにも取り組みました。平成30年度に5年目を迎え、最終年度としてCOC活動成果のまとめを行い、本学に入学を希望している学生や保護者、進路指導に関わっておられる方々、地域住民に周知を行う。</p>	
内 容	10月27日(土) 13:00~14:30 3号館 大講義室
開会挨拶	今治明德短期大学 学長 野口 学
連携自治体挨拶	今治市健康福祉部長 石丸 司
COCの挑戦と成果	今治明德短期大学 副学長/地(知)の拠点整備事業推進室長 西本修文
地域の子育て広場(めいたんパーク)地域との連携の成果	今治明德短期大学 幼児教育学科 准教授 正岡節子
健康推進プログラム	今治明德短期大学 ライフデザイン学科長 食物栄養コース 教授 藤田正隆
地域交流実践演習	今治明德短期大学 幼児教育学科長 幼児教育学科 准教授 寺川夫央
まとめ	今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業推進室 コーディネーター 林 和男
活動の様子	
	
成 果	
<p>シンポジウムは、「4事業10活動」と「地域交流実践演習」について教育、研究、社会貢献活動を取り組んできた経緯と成果を発表した。5年目を迎えた本年度は、今治市や関係団体との取り組みも深まってきた。COC事業を採択されてから卒業した学生が本シンポジウムで、COC活動を通して現在にいかされていることについて発表した。グループワークや活動報告会での発表者を経験することにより、自分の意見や考えを人に伝えることの難しさや大切さを身をもって体験できた。地域の職場でCOC活動の精神を受け継いで日々研鑽をしていることが伺えた。</p>	
今後の課題及び展開	
<p>COC事業活動を通して培ってきた体験を活かし、地域に根ざし、地域に貢献できる人材を育成していく。卒業生を巻き込んだシステム作りの構築を検討していく。</p>	

シンポジウムの感想やご意見等、ご自由にお書きください。(一部抜粋)

- 子育て支援広場活動(めいたんパーク)は、発表のスライドがよくわかりにくかった。良い取り組みだとは思いますが。健康推進プログラムは、想像以上に地域に学生が出向いていてよく活躍されており、主体性が育まれていると思う。地域交流実践演習は、今治の取り組みでよい展開ができていて成果が楽しみです。
- 学校の規模がこじんまりしているのが、先生と生徒の関係が近く地域の活動もやりやすいと思いました。また、様々な課との連携も取りやすいメリットがあると感じました。
- 現在、めいたんパークに関わっています。毎回楽しみに来てくださる子どもの顔を見るのがうれしい。そういう場所が地域にあることが大切だと感じました。
- 今治市内のかなり広い範囲で活動したり、市外にも学生がボランティアをしていることに関心をもった。交流がたくさんあるので、コミュニケーション能力も自然と身につくと思った。
- 演習の成果について数的根拠もあり、説得力があった。課題も明確にしている点で今後のつながりが期待できた。
- 5年間の地域交流実践演習のCOC事業の成果をまとめたシンポジウムを開催されたことは、5年間の成果を理解する良い機会でした。学生の活動、成長もわかりました。地域の人々とのあらゆる世代の方との交流や価値観を学び学生の視野が広がるので、今後も継続していただきたいと思います。卒業生の声を聞くことができ良かった。
- 活動の話でなく卒業生の体験を交えて聞けたので良かったです。
- 地域の人たちと実際に関わりながら、今後必要になる技術を身につけていくことは良いことだと思った。



松山東雲女子大学 松山東雲短期大学
 2018年度 地(知)の拠点による地域創生推進事業(COC+)シンポジウムⅡ

- 地域協働教育の「これから」を考える
 2019年2月12日(火) 15:00~17:30
 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 本館北3階 本-3-11教室
- 第1部
- 基調講演「地域創生に向けた地域協働教育について考える」
 高知大学 副学長 次世代地域創生センター長 受田浩之氏
- 第2部
- トークセッション
 しなのめの地域協働教育の「これから」を考える



全国ネットワーク事業 平成30年度 COC/COC+ 全国シンポジウム

- 「見える大学 魅せる大学」
 平成31年2月19日(火) 13:30~17:45
 高知県立県民文化ホール・グリーン
- 第1部
- 文部科学省挨拶
 - 基調講演「人口減少日本でキラリ輝く大学」
 ジャーナリスト「未来の年表」著者
 高知大学客員教授 河合雅司氏
 - パネルディスカッション 「大学の見える化と魅せる化」
- 平成31年2月20日(水) 9:00~11:40
- 第2部
- 事例発表



5 今治市連携協議会



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

5-1 平成29年度 今治市 今治明德短期大学 連携協議会

目 的		
今治市と今治明德短期大学が包括的な連携のもと、相互に協力し、今治地域の発展と人材育成の寄与することを目的とする。		
回	日 時	内 容
第1回	平成29年8月1日(火) 13:30~15:15 今治市役所 2F 庁議室	今治市 今治明德短期大学連携協議会
第2回	平成30年2月9日(金) 10:30~11:30 今治市役所 2F 庁議室	
今治市出席者		
第1回		第2回
今治市健康福祉部長		今治市健康福祉部長
健康福祉部 高齢介護課長・課長補佐		健康福祉部 高齢介護課長・課長補佐
健康福祉部 子育て支援課長・子育て支援係長		健康福祉部 子育て支援課長・子育て支援係長
健康福祉部 保育課長・課長補佐		健康福祉部 保育課長・課長補佐
産業部 商工振興課長補佐・市街地活性化係長		産業部 商工振興課長補佐・市街地活性化係長
産業部 観光課長補佐・職員		産業部 観光課長・課長補佐
今治市教育委員会 社会教育課長		今治市教育委員会 社会教育課長
総務部 総務調整課長補佐		総務部 総務調整課長
計13名		
今治明德短期大学 出席者		
第1回		第2回
学長		学長
地(知)の拠点整備事業推進室長		地(知)の拠点整備事業推進室長
地(知)の拠点整備事業推進副室長		地(知)の拠点整備事業推進副室長
コーディネーター		コーディネーター
事務部長		事務部長
ライフデザイン学科長		ライフデザイン学科長
幼児教育学科長		幼児教育学科長
共通教育委員長		共通教育委員長
調理師専修科 講師		調理師専修科 講師
地(知)の拠点整備事業推進室 事務局		経理課長
		地(知)の拠点整備事業推進室 事務局
計10名		計11名

報告事項

第1回

- (1) 学長あいさつ
- (2) 地(知)の拠点整備事業
 - ①概要、②連携自治体の課題、③本学の取り組み
- (3) 「平成28年度 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業 事業報告について」
 - ①活動報告
 - <事業1～事業4><地域交流実践演習I・II>
- (4) 「平成29年度 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業 中間報告について」
- (5) その他
 - ①1月の連携協議会の意見と回答
 - ②COC事業終了後の今治市と連携について
- (6) 今治市健康福祉部長 挨拶



第2回

- (1) 学長あいさつ
- (2) 「平成29年度 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業 中間報告について」
 - ①活動報告
 - <事業1～事業4><地域交流実践演習I・II>
- (3) 「平成30年度 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業 事業計画について」
 - <事業1～事業4><地域交流実践演習I・II>
- (4) 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業
事業終了後の連携について
- (5) その他
- (6) 今治市健康福祉部長 あいさつ



成果と課題

本学の「地(知)の拠点整備事業」の概要・取り組みについて市側に理解をしていただくことができた。今治市からは、「子育て支援」、「児童館」、「商工振興課」などからゲスト講師として派遣をしていただいている。

今後も専門性を活かした方に講師として来ていただけるように連携を図っていきたい。

また、今治市のその他の課にも、「地(知)の拠点整備事業」についての理解を推進していきたい。

平成30年度 今治市 今治明德短期大学 連携協議会

目 的		
今治市と今治明德短期大学が包括的な連携のもと、相互に協力し、今治地域の発展と人材育成の寄与することを目的とする。		
回	日 時	内 容
第1回	平成30年8月9日(木) 13:30~15:15 今治市役所 第2別館 特別第3階会議室	今治市 今治明德短期大学連携協議会
第2回	平成31年2月27日(水) 10:30~11:30 今治市役所 第2別館 特別第3階会議室	
今治市出席者		
第1回		第2回
今治市健康福祉部長		今治市健康福祉部長
健康福祉部 高齢介護課長補佐		健康福祉部 健康推進課長・課長補佐
健康福祉部 子育て支援課長・子育て支援係長		健康福祉部 高齢介護課長・課長補佐
健康福祉部 保育幼稚園課長・課長補佐		健康福祉部 子育て支援課長・子育て支援係長
産業部 商工振興課 市街地活性化係長		健康福祉部 保育幼稚園課長・課長補佐
産業部 観光課長		産業部 商工振興課 市街地活性化係長
産業部 営業戦略課 係長		産業部 観光課長
企画課 国家戦略特区推進室長補佐		産業部 営業戦略課係長
教育委員会事務局 教育総務課 係長		企画課 国家戦略特区推進室長補佐
今治市教育委員会 社会教育課長補佐、主事		教育委員会事務局 教育総務課 係長
総務部 総務調整課長		今治市教育委員会 社会教育課長、主事
		総務部 総務調整課長
計14名		17名
今治明德短期大学 出席者		
第1回		第2回
学長		学長
地(知)の拠点整備事業推進室長		地(知)の拠点整備事業推進室長
地(知)の拠点整備事業推進副室長		コーディネーター
コーディネーター		事務部長
事務部長		ライフデザイン学科長
ライフデザイン学科長		幼児教育学科長
幼児教育学科長		ライフデザイン学科 介護福祉コース コース長

共通教育委員長	ライフデザイン学科 スイーツ・カフェコース コース長
調理師専修科講師	ライフデザイン学科 国際観光ビジネスコース 講師
ライフデザイン学科 介護福祉コース 講師	調理師専修科 講師
経理課長	地（知）の拠点整備事業推進室 事務局
地（知）の拠点整備事業推進室 事務局	
計12名	計11名
報告事項	
第1回	
(1) 学長あいさつ (2) 報告 ①今までの活動報告 ②学生地域志向アンケート等 ③評価について（文部科学省 H28年評価、第三者評価委員会の評価報告） ④COC 事業終了後の活動予定 ⑤今後の連携協議会について (3) その他 今治市企画課「今治市学生まちづくり活動応援事業」 (4) 今治市健康福祉部長 あいさつ	
第2回	
(1) 学長あいさつ (2) 報告 ①「平成30年度 今治明德短期大学 地（知）の拠点整備事業活動について」 ②「平成31年度 今治明德短期大学 地（知）の拠点整備事業終了後の活動について」 (3) その他 新聞記事、COC 事業活動まとめ、めいたん広場チラシ紹介 (4) 今治市健康福祉部長 あいさつ	
成果と課題	
<p>地（知）の拠点整備事業（COC 事業）の事業終了後の連携や連携協議会のあり方について、今治市と共通認識を持つことができた。本学の活動内容を精査し、今後も、本学の学科・コースと今治市のそれぞれの事業に対応する課が連携を図り、地域での活動を展開していく必要がある。</p>	

6 第三者評価委員会



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

6-1 平成29・30年度 第三者評価委員会

目 的			
本学における「今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業」の合理性・健全性の維持向上及び同事業の質的改善・改革の持続的確保を実現するため、今治明德短期大学 COC 第三者評価委員会を設置する。			
日 時		内 容	
平成30年3月15日(木) 10:30~12:00 本学 2F 大会議室		地(知)の拠点整備事業 第三者評価委員会	
平成31年3月7日(木) 10:30~12:00 本学 2F 大会議室			
第三者評価委員 出席者		今治明德短期大学 出席者	
平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度
片上修二郎委員	長野和幸委員	学長	学長
山本優子委員	松本義秀委員	地(知)の拠点整備事業 推進室長	地(知)の拠点整備事業 推進室長
小山田憲正委員	山本優子委員	地(知)の拠点整備事業 推進副室長	コーディネーター
新居田利忠委員	小山田憲正委員	コーディネーター	事務部長
渡部浩忠委員	新居田利忠委員	事務部長	ライフデザイン学科長
 		ライフデザイン学科長	幼児教育学科長
		幼児教育学科長	地(知)の拠点整備事業 推進室 事務局
		地(知)の拠点整備事業 推進室 事務局	
計5名	計5名	計8名	計7名
報告事項			
平成29年度			
(1) 学長あいさつ (2) 「平成28年度 第三者評価委員会質疑応答対応策」 (3) 「平成29年度 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業 事業報告について」 「平成30年度 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業 事業計画について」 (4) 活動の成果			
平成30年度			
(1) 学長あいさつ (2) 「平成29年度 第三者評価委員会質疑応答対応策」 (3) 「平成26~30年度 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業 事業報告について」 「平成31年度活動計画について」			
平成29年度	ご意見		平成30年度
<ul style="list-style-type: none"> • いい事業・話題となるような活動を抽出してマスコミに強く働きかけをする。 • 一般の市民にどのように周知していくか、また評価委員がメッセージの役割もしますので、ぜひ、声かけをしていただきたい。 • 5年間の変動を見てみたい。できれば、2年前に卒業した学生の活躍の声などを報告に入れていただきたい。 			<ul style="list-style-type: none"> • 広報活動については華々しい成果ではないが、わずかずつ効果が表れているように見えるので、続けていってほしい。高齢者については、毎月1回の老人クラブ総会を利用するとよい。 • 昨年度の委員の意見に対して、改善をし、次回の委員会で回答を対応していただいている。意見のしがいがある。 • 広報活動や連携、分析は継続していただきたい。

7 參考資料

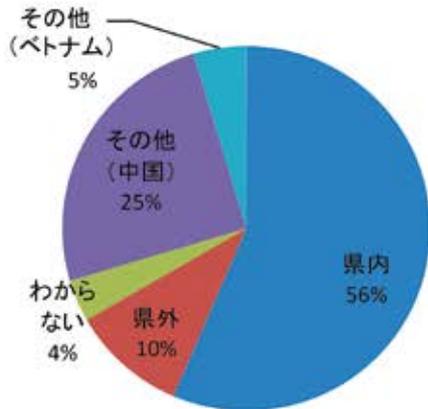


imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

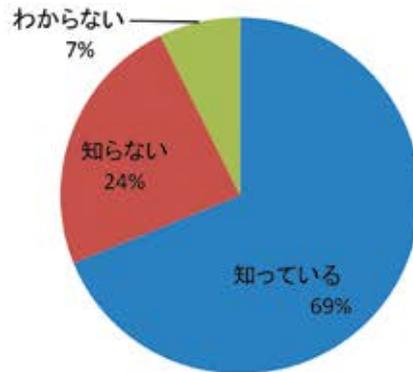
地(知)の拠点整備事業アンケート集計表(学生)

学生数 135名 有効回答数 113名 回答率 83.7%

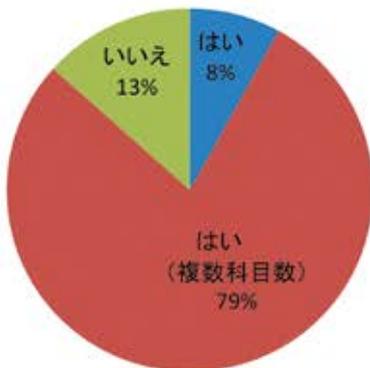
【設問1】あなたの出身(出生地)について、当てはまるもの1つを選んでください。



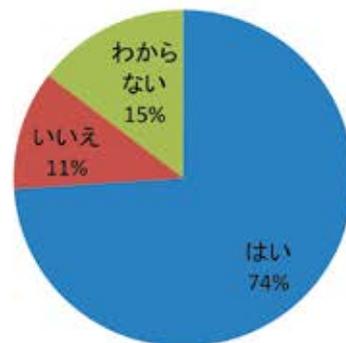
【設問2】今治明德短期大学が「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



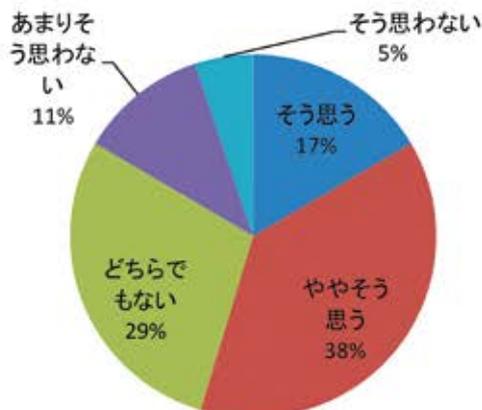
【設問3】当該大学が「地域のための大学」として実施する授業科目等(〇〇(選択・必修、対象年次対象学部)←大学が個別に記載する)を受講したことがありますか。はい(〇科目←科目が複数ある場合は、科目数を記載すること。)



【設問4】「3」の質問で「はい」と選択した方は、上記の科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。



【設問5】「3」の質問で「はい」と選択した方は、上記科目の受講が、大学のある地域(都道府県)の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。



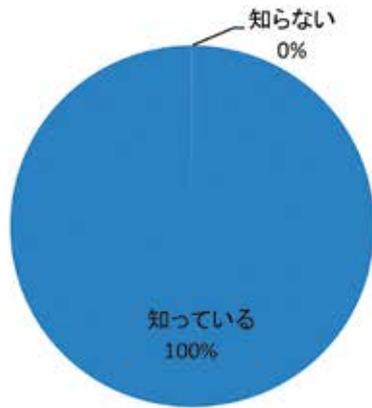
【設問6】「3」の質問で「はい」と選択した方は、その知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思いますか。

地域活性化のイベント等に積極的に参加しようと思う
地域の企業に就職し、知識を還元しようと思う
地域に貢献する
地域の活動を頑張りたいです
何も変わらない

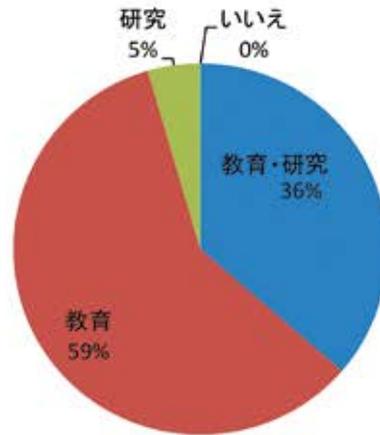
地(知)の拠点整備事業アンケート集計表(教員)

教員数22名 有効回答数22名 回答率100%

【設問1】今治明德短期大学が「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



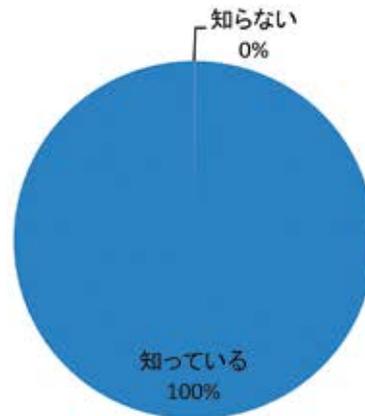
【設問2】「地域のための大学」として地域を志向した教育・研究に参加していますか。



地(知)の拠点整備事業アンケート集計表(職員)

教員数14名 有効回答数14名 回答率100%

【設問1】今治明德短期大学が「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



地(知)の拠点整備事業アンケート集計表(連携自治体)

【設問1】取組みは副申した事業計画通りに進捗していると思いますか。
 大学が持つ知的・人的資源を十分に活用し、事業計画どおりに進捗している。

【設問2】円滑な連携のもとに実施されていると思いますか。
 市とともに立ち上げた連携協議会を中心に地域課題を市と共有し市の関係課と連携を図りながら、事業を実施している。

【設問3】「地域のための大学」として満足するものですか。
 当該大学は、住民ニーズを的確に捉え、市が抱えている課題事項に積極的に取り組んでおり、地域に密着し貢献する大学としての存在価値が高まるものと期待している。

平成29・30年度活動報告書
文部科学省 地（知）の拠点整備事業

今治明德短期大学
しまなみの生活と文化を守りそだてる人づくり・つながりづくり

imjc
IMABARI MEIYOKU JUNIOR COLLEGE



〒794-0073
愛媛県今治市矢田甲 688
TEL 0898-22-7279（代表）
0898-22-7366（COC 推進室直通）
FAX 0898-22-7857
MAIL info@meitan.ac.jp